

319  
440



始



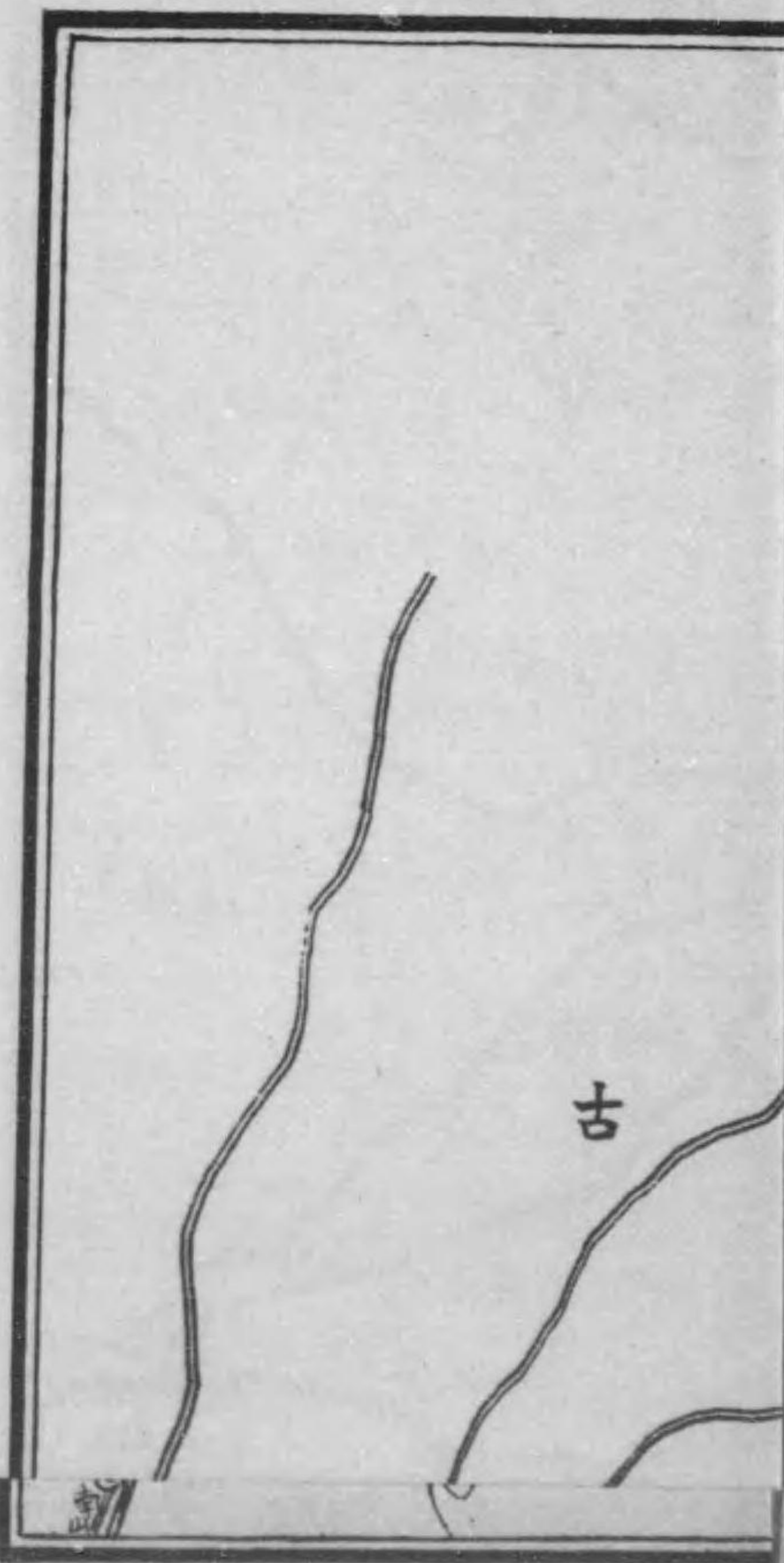


騎兵第十三聯隊長 土屋 篤校閱

蹄  
の  
光  
(挿圖)  
全

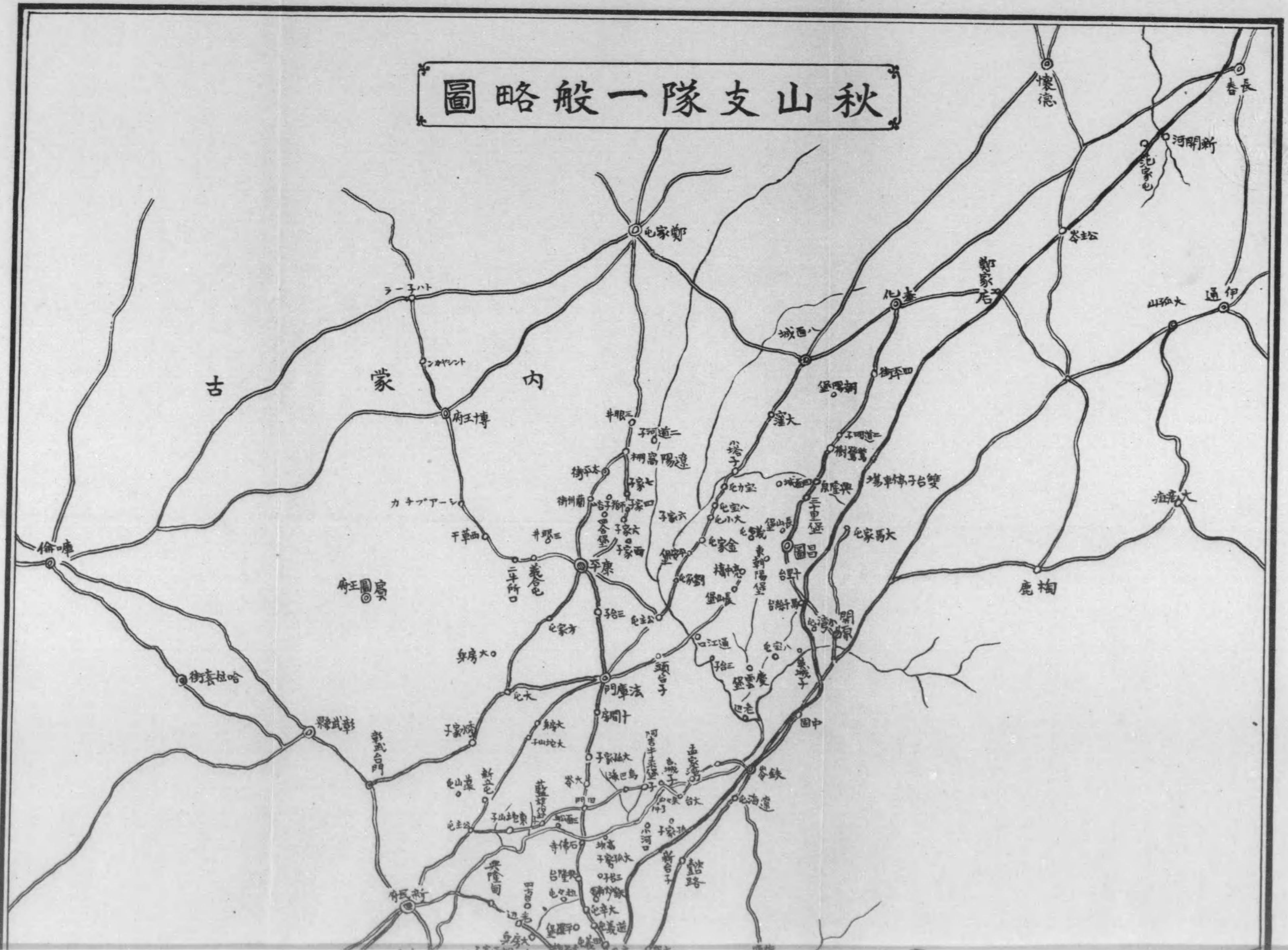
山中 金次郎 著



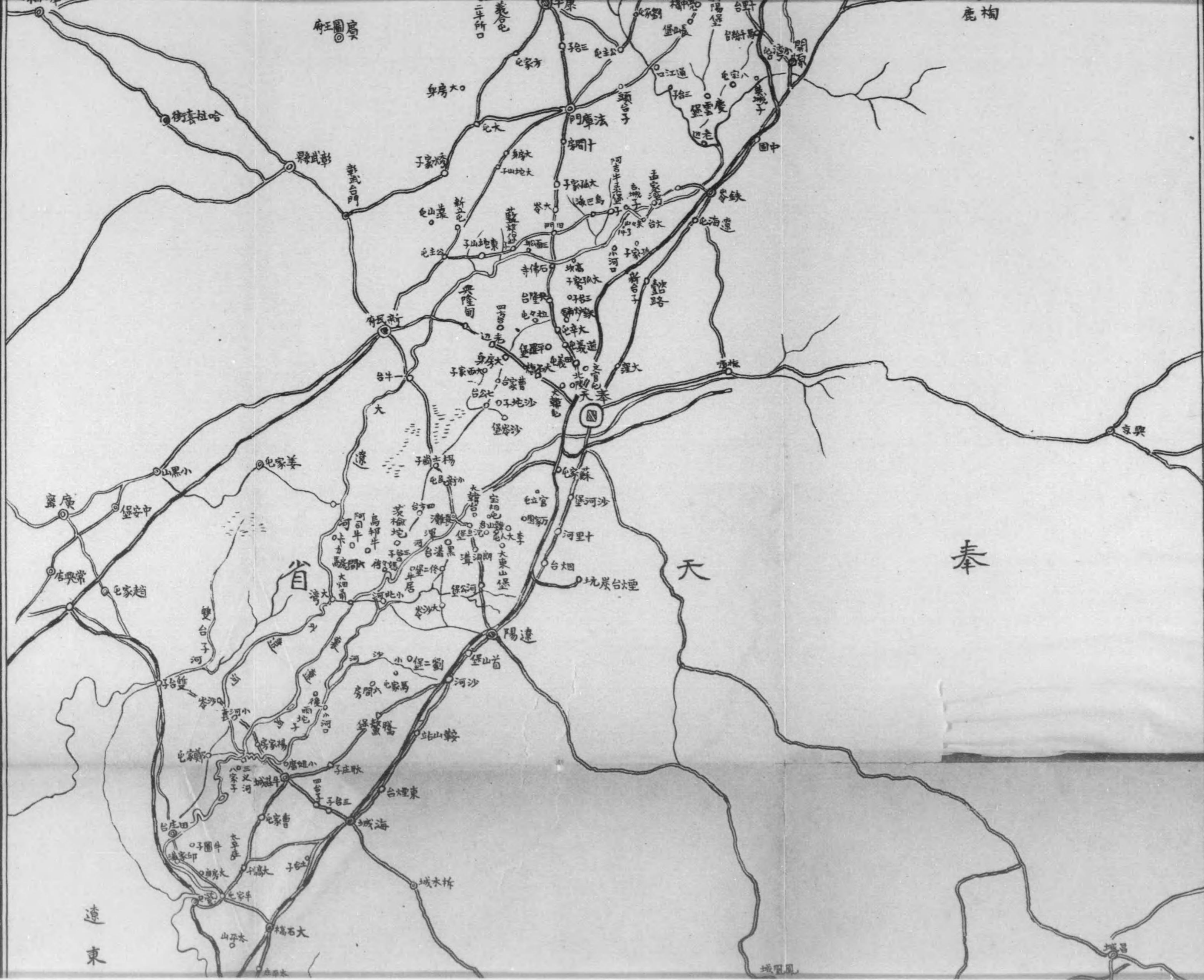




秋山支隊一般略圖







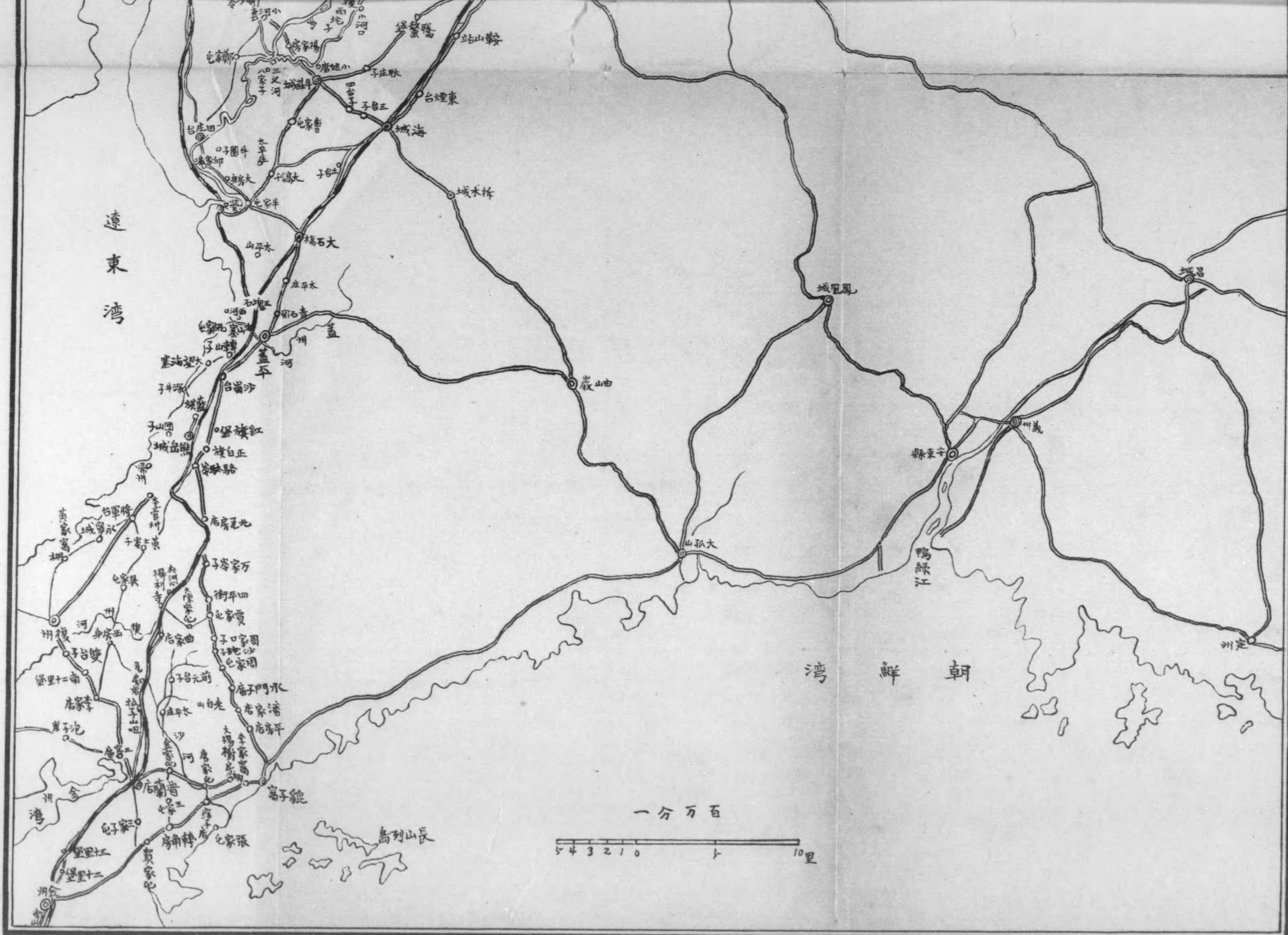
奉

天

遼東

城固鳳





第一圖



319-440

自序

曩與露國交兵也我秋山支隊始破敵於龍王廟次參加于曲家店得利寺蓋平大石橋鞍山站遼陽沙河黑溝台奉天鐵嶺開原昌圖鴛鴦樹遼陽窩棚等各所之戰鬪大小實數十回就中於龍王廟之戰鬪也襲擊優勢之敵惡戰苦鬪不可名狀其攻得利寺也第二軍之右翼而數次雖有陷危地士氣益振竭死力衝敵之左側背夾擊而遂敗之使軍之作戰善勿遺憾又會敵於黑溝台附近之沈且堡也劇戰迄于數晝夜擊退之使第八師團便黑溝台之攻擊又於奉天附近之會戰也前進第三軍之左側於大房身邀擊優勢敵奮戰健鬪以與多大損害使軍莫不左側背於茲乎一舉包圍奉天而占領焉然而我秋山支隊長驅陷鐵嶺開原更進攻略昌圖鴛鴦樹而孤軍克擊退敵於吉林長春方向距中軍實數十里先是編成挺進騎兵隊以遠使侵入敵地方攻滿洲軍之奉天破壞長春南方新開河之鐵橋且燒棄敵之糧秣廠攪亂其後方阻止其輸送力徐講誘致敵之策乃得使滿洲軍始終制機先收戰功者蓋秋山支隊之力亦不可謂渺矣嘗參謀本部編纂日露戰史記述詳密然我秋山支隊之活動以惹天下之耳目編者亦屬同支

大正 12. 8. 18  
內文



隊故感愈深特錄其行動爲一小冊經土屋騎兵大佐之校閱附之劄牘名謂蹄之光焉惟編者  
素淺學非才竊有忸怩請讀者諒焉

大正十二年初夏

山中 金次郎 識

— 2 —

### 凡 例

- 一、本書は日露戦役に於て、騎兵第一旅團長秋山少將の指揮に屬する部隊の行動を記述したるものなり。
- 一、秋山少將の指揮する部隊は、局面の發展に隨ひ、騎兵旅團と謂ひ、秋山支隊と謂ひ、秋山騎兵團とも稱せり。
- 一、黒溝台附近の會戦は、秋山支隊の最も難局に當りしを以て、特に友軍の慘狀をも附言し、秋山支隊が如何に苦戦したるかを偲ばしめたり。
- 一、情況變化なき日は省略せり。
- 一、秋山支隊は、終始殆んど騎兵を主力としたるを以て、本書を『蹄の光』と題せるものなり。
- 一、書中圖を挿み、讀者の便に供せり。
- 一、引用書目は、參謀本部編纂『日露戦史』とす。







吉利搜索隊の熊岳城方向の搜索……旅團槐樹房附近前進  
 一 六月二十一日熊岳城附近の戦闘……………三  
 熊岳城に向ふ前進……騎兵第十四聯隊熊岳城占領……旅團主力の頭臺子前進……騎兵  
 第五聯隊寶泉山占領……頭台子宿營……六月二十三日太平庄、沙河子附近の搜索……  
 六月二十五日森田集成中隊の行動……六月二十七日團山子附近の戦闘……六月二十八  
 日前火石山附近の搜索……七月二日森田集成中隊の解散……七月五日前進準備……七  
 月六日廂白旗附近進出……七月七日大望海塞に前進……七月八日蓋平附近の搜索  
 二 七月九日蓋平附近の戦闘……………四  
 七月十八日臨時騎砲兵中隊の編成……七月廿三日大石橋攻撃の爲前進……紅旗廠附近へ進出  
 三 七月廿四日大石橋附近の戦闘……………四  
 七月廿五日太平山附近に於る第四師團の攻撃援助……營口占領……七月廿六日老爺廟に前進  
 四 七月廿七日海城附近の戦闘……………五  
 七月二十八日小畑集成中隊の派遣……七月三十日海城方向の搜索  
 五 八月一日連三屯の戦闘……………五  
 六 八月三日牛莊城占領……………五  
 八月四日秋庄子附近進出(鞍山站方向の搜索)

第六章 遼陽附近の戦闘……………六  
 八月廿七日秋庄子占領……八月廿七日騰蓋堡占領……八月廿八日西雙龍臺高庄子占領  
 ……八月廿九日那家屯に前進……八月三十日首山の攻撃……水泉の攻撃(烏龍台へ前  
 進)……八月三十一日決家老瓜窩へ前進……烏龍合の防禦……綏江堡子騎兵第三第十  
 一聯隊の退却……九月一日遼陽附近の搜索(後蛤河子附近前進)……九月二日前石橋子  
 前進……九月三日高湧子前進……九月四日太子河に向ふ追撃……九月五日太子河右岸  
 進出準備(小北河附近の架橋)

第七章 第二軍左翼の行動……………八  
 小北河方向轉進……太子河右岸牛居進出……搜索根據地を沈且堡、黑溝台附近に進む  
 ……小北河倉庫渾河舟運の掩護……渾河沿岸の搜索……渾河右岸の敵兵漸次活氣を呈  
 す……黃臘坨子の敵襲……河村支隊黃臘坨子の搜索……沈且堡方面の情況……主力黒  
 溝臺方面の状況……支隊正面の敵の移動状況

第八章 沙河の會戦……………三  
 十月十日支隊主力の沈且堡轉移……十月十一日孤家子附近支隊の威力偵察……十月十  
 二日河村支隊茨榆坨附近の敵襲……十月十三日支隊主力李大屯に向ふ前進……小池  
 支隊沈且堡、七台子間に互る午前の状況……支隊主力那家台子、三家子附近の攻撃……  
 午後に於る沈且堡方面の状況……十月十四日黒林台支隊主力の状況……河村支隊萬家



第九章 沙河の滞陣

園子前進……敵兵三家子占領……敵兵金山屯の攻撃……敵兵李大屯の占領……十月十五日李大屯の復攻撃……歩兵第三十七聯隊第七中隊増援……豊邊支隊の行動……支隊主力日没後の状況(攻撃を中止して退却)……騎兵第九聯隊の行動……豊邊支隊午後の行動……沈且堡附近午後の状況……歩兵第五聯隊第一大隊の應援……十月十六日豊邊支隊李大屯奪還……午後における黒林台に對する敵の攻撃……小池支隊の状況

第十章 黒溝台附近の會戰

一 會戰前の状況

二 一月廿五日の状況

- 1 李大屯支隊主力方面の状況……………一〇元
- 2 韓山臺三岳支隊方面の状況……………一〇四
- 3 沈且堡豊邊支隊方面の状況……………一〇二
- 長義套、三犬子附近午前の状況……………同午後の状況……………後備歩兵第三十一聯隊第三中隊

- 4 黒溝臺種田支隊方面の状況……………一〇
- 警急集合……………午前の状況……………後備歩兵第三十一聯隊黒溝臺來援……………午後一時より夕に至る状況……………頭泡に於ける歩兵第五聯隊第三大隊の状況……………黒溝臺の撤退
- 5 友軍の状況……………一〇五

三 一月二十六日の状況

- 1 李大屯支隊主力方面の状況……………一〇五
- 2 韓山臺三岳支隊方面の状況……………一〇五
- 3 沈且堡豊邊支隊方面の状況……………一〇七
- 朝に於ける配置……………午前の状況(敵の大部隊漸次近接す)……………正午以後の状況(敵砲彈の彈巢を爲る)……………午後における状況(西南部沈且堡の放棄)……………夕における状況
- 4 沈且堡増援隊の状況……………一〇六
- 増援隊到着後の状況……………一〇六
- 5 友軍の状況……………一〇三
- 第八師團の状況……………日没後の状況……………牛居、小北河間の状況……………一〇三



四 一月二十七日の状態……………一七

1 李大人屯支隊主力方面の状況……………一七

2 韓山臺三岳支隊方面の状況……………一六

3 沈且堡豊邊支隊方面の状況……………一六

4 友軍の状況……………一五

第八師團の状況……午後における第八師團の状況……蘇麻堡の敵の夜襲……村山支隊の前進攻撃……第五師團前進攻撃……小北河方面の状況

五 一月二十八日の状況……………一八

1 李大人屯支隊主力方面の状況……………一八

2 韓山臺、啞叭臺、三岳支隊方面の状況……………一七

3 沈且堡豊邊支隊方面の状況……………一八

4 友軍の状況……………一八

小臺子方向に對する配備……敵夜襲の擊退

第五師團の状況……柳條口奪還……姚坨子攻略……第八師團の状況……蘇麻堡攻略……五家子奪還……摺澤支隊の状況……村山支隊の状況……佟二堡攻略……哈爾堡攻略

六 一月二十九日の状況……………一九

1 李大人屯支隊主力方面の状況……………一九

2 啞叭台、韓山台三岳支隊方面の状況……………一九

3 沈且堡豊邊支隊方面の状況……………一九

4 友軍の状況……………一九

……第二師團の前進部署……北坨子、巴荒地攻略……騎兵第二旅團の状況

第八師團長の部署……第五師團の部署……三犬子、馬狼祖、韭菜河子攻略……第八師團の黒溝台攻略……第二師團の黒溝台攻撃部署……第八師團長の指揮せる各團隊警戒部署……村山支隊の状況……騎兵第二旅團の状況

七 會戦後の警戒配備……………二〇

第十一章 黒溝台附近會戦後の行動……………二二

豊邊支隊の配備……沈且堡の状況……李大人屯、韓山台、啞叭台の状況……支隊正面に於ける彼我の砲戦……支隊占領面に於ける第三師團の新配備……支隊の轉屬……搜索根據地を三家子に移す……七台子の敵襲……搜索區域の擴張……支隊の新配置……

……



搜索隊の阿司牛附近搜索

### 第十二章

#### 挺進騎兵隊の派遣

- 1 第一挺進騎兵隊の編成及行動……………二二〇
- 出發前に於ける敵軍背後の搜索及情況……………新開河に向ふ前進……………新開河鐵道橋破壊實施……………破壊後の退却……………張家窪子附近に於ける騎兵戰……………本軍に向て歸路に就く……………中屋、宮内兩破壊隊の出發……………歸還……………

- 2 第二挺進騎兵隊の編成及行動……………二二七

張家灣附近の鐵道破壊……………社裡店附近の戰鬪……………戰鬪後の退却……………西シユルガ附近の

戰鬪……………歸還

### 第十三章

#### 奉天附近の會戰

- 會戰前の狀況……………支隊の配置……………前進部署……………二月廿八日牛居に向ふ前進……………牛居に於ける狀況……………左側支隊の茨楡坨、馬鏡峇子に向ふ前進……………支隊夜の狀況……………三月一日朝の狀況……………午前七時以後に於ける狀況……………左側支隊の狀況……………四方台の攻撃準備……………三月二日支隊第三軍に轉屬……………騎兵第一第二旅團を合して秋山支隊と稱す……………

- 一 三月二日大房身附近の戰鬪……………二四三

大房身附近に向つて前進……………前衛の衝突……………本隊の開進……………輜重車輛の兩獲……………支隊の展開……………午後一時より三時に互る狀況……………馬三家子に於ける騎兵第十六聯隊の狀況……………

……………橫山搜索中隊の行動……………午後四時より夕に至る狀況……………敵の敗退……………宿營……………三月四日前新台子に向ふ前進……………大民屯、新民府の狀況……………支隊の宿營……………翌日に關する軍命令……………三月五日平羅堡に向ふ前進……………騎兵第十六聯隊の奉天—鐵峯道の搜索……………

……………支隊前衛の退却……………支隊の宿營……………三月六日三台子前進部署……………馬家甸の攻撃……………支隊の宿營……………翌日に關する軍命令……………三月七日前進部署……………全盛堡に向ふ前進……………

……………前衛の全盛堡占領……………支隊の宿營……………三月八日全盛堡附近の支隊防禦配備……………支隊前面に於ける狀況……………好心台騎兵第三聯隊の退却……………支隊本隊拉々屯、萬金台方面の狀況……………支隊の宿營……………三月九日大辛屯進出準備……………大辛屯の配備……………好心台の狀況……………

……………鐵爐舖方向搜索……………

……………

#### 二 三月十日大辛屯附近の戰鬪

……………石山子方向へ挺進準備……………前進開始……………蘭西屯の攻撃……………攻撃中止……………午後の狀況及宿營……………

### 第十四章

#### 鐵嶺附近の追撃戰

……………三月十一日鐵嶺方向へ追撃準備……………三台子に向ふ前進準備……………支隊の前進開始……………



台子占領……騎兵第十六聯隊の沙崗子に向ふ追撃……三月十二日腰忠台に向ふ追撃部  
署……腰上屯附近に於ける前衛戦……左側衛の朱々山方向搜索……騎兵第十六聯隊の  
草根泡に向つて追撃……支隊の宿營……三月十三日朱々山方向の搜索……支隊の後長  
河沿に轉移……支隊の宿營……騎兵第十六聯隊の行動……三月十四日朱々山の攻撃……  
……西小河口の追撃……揚威樓附近追撃戦……支隊の宿營……三月十五日遼河右岸に進  
出……支隊の宿營……三月十六日大台山附近追撃……支隊の宿營

第十五章 開原附近の追撃戦……………二六七

三月十七日開原方向の敵情搜索……花樓附近の追撃戦……支隊の宿營……三月十八日  
開原方向追撃前進……八寶屯附近の追撃戦……三月十九日開原の占領

第十六章 昌圖附近の行動……………二九一

三月廿日諸斥候を以て搜索……三月廿一日昌圖の占領……三月廿二日支隊の昌圖進入  
……三月廿三日昌圖の占領……四月四日搜索隊の太陽溝附近搜索……四月五日鷺鷺樹の來  
攻……昌圖來攻……四月六日鷺鷺樹に於ける支隊の防禦戦……四月八日再度の鷺鷺樹  
防禦戦……昌圖へ退却

第十七章 鷺鷺樹附近の戦闘……………二九五

四月三日鷺鷺樹の占領……四月四日搜索隊の太陽溝附近搜索……四月五日鷺鷺樹の來  
攻……昌圖來攻……四月六日鷺鷺樹に於ける支隊の防禦戦……四月八日再度の鷺鷺樹  
防禦戦……昌圖へ退却

第十八章 昌圖の對陣……………三〇一

一 四月十九日二十里堡の戦闘……………三〇一  
二 昌圖附近の戦闘……………三〇四  
四月二十三日午前の狀況……午後の狀況……下馬驛河の正午迄の狀況……下馬驛河の  
午後より夜間に於ける狀況……四月二十四日下馬驛河の凱歌

三 自四月下旬  
至五月下旬 狀況……………三〇七

第十九章 第二軍左側の行動……………三二七

遼河右岸進出

一 六月三日獅子峪附近の戦闘……………三二七

二 六月十五日遼陽窩棚の威力偵察……………三三〇  
第七師團の攻撃部署……騎兵第一旅團の前進……六月十六日拂曉に於ける狀況……朝  
に於ける狀況……宿營及歸還

三 秋山騎兵團の編成……………三四  
佐原搜索隊蒙古内部の敵情地形偵察



四	七月一日獅子峪附近の戦闘	三六
	騎兵第十四聯隊の齊家坨子附近の戦闘	
五	自八月廿八日蒙古博王府方向の搜索	三五
	至八月三十一日	
第二十章	休戦	三二
第二十一章	平和克復	三三
第二十二章	凱旋	三五
附録	凱旋軍歌	三六

目次終

挿圖目次

第一圖	秋山支隊一般略圖	卷首
第二圖	曲家店附近之戦闘(五月三十日の状況)	一一—一三
第三圖	得利寺附近之戦闘(六月十五日の状況)	三〇—三一
第四圖	蓋平附近之戦闘(七月九日の状況)	五〇—五一
第五圖	遼陽附近之戦闘(八月三十日の状況)	七八—七九
第六圖	黑溝台附近之會戦(一月二十五日の状況)	一五四—一五五
第七圖	同	一六六—一六七
第八圖	同	一七八—一七九
第九圖	同	一九八—一九九
第十圖	奉天附近之會戦(三日大房身之戦闘)	二五二—二五三
第十一圖	同	二七二—二七三
第十二圖	鷲鷲樹附近之戦闘(四月六日の状況)	三〇〇—三〇一
第十三圖	同	三〇二—三〇三
第十四圖	昌圖附近之戦闘(四月二十三日の状況)	三二二—三二三



第十五圖 獅子峪附近之戰鬪(六月三日の状態)……………三二〇—三二一

第十六圖 遼陽窩棚附近之戰鬪(六月十六日の状態)……………三二四—三二五

挿圖目次終

蹄の光

騎兵大佐 土屋 篤校 閱  
 山中 金次 郎 著

第一章 上 陸

明治三十七年日露露を開くや秋山少將の指揮する騎兵第一旅團(騎兵第十三第十四聯隊第一擊駕機關砲隊より成り旅團長は陸軍少將秋山好古)(以下單に旅團と記す)は四月九日動員を令せられ、其二十一日第二軍の戰鬪序列(第一第三第四第五第十一師團騎兵第一旅團野戰砲兵第一旅團にして、軍司令官は陸軍大將男爵奧保鞏)に編入し、二十九、三十の兩日隊伍整然下總習志野の屯營を出發し、鐵道輸送を以て五月三日廣島に集合し十八日より宇品港を解纜して、左の如く上陸す。

- 二十二日午前六時三十分より
- 騎兵第十三聯隊第一中隊(一小隊欠)
- 二十三日
- 騎兵第十三聯隊第三第四中隊第一擊駕機關砲隊

清國盛京省張家屯



二十四日

騎兵第十三聯隊第二中隊騎兵第十四聯隊第二第三中隊  
騎兵第十四聯隊第一第四中隊

同省鹽大澳

## 第二章 第二軍背後の警戒

旅團長は二十三日午後二時上陸し、軍命令を以て第五師團長の指揮下に入り、而して金州及南山を攻撃中なる軍背後の警戒に任せらる。

四月二十五日 午後三時三十分旅團長は、馬家屯出發騎兵第十三聯隊を率ひ、前石拉子屯に前進し、爾後此地及其附近に在りて警戒に任ず、殘餘の諸隊も逐次到着し、此日を以て集結を完了す。

四月二十六日 旅團は前任務を續行す、第二軍の主力は拂曉より金州及南山を猛烈に攻撃し、彼我の砲聲股々天地に轟き、遼東動搖の感あり、而して午前十一時三十分金州及南山一帯の要地を占領せり。

第二軍に左の 勅語を賜はりたり (四月二十九日)

第二軍ハ海軍枝隊ト協力シ敵ノ死守シタル金州城及其南方要害ノ地ヲ力攻シ遂ニ之ヲ陷レ以テ旅順口ノ咽喉ヲ扼シ且ツ我野戰軍將來行動ノ地歩ヲ堅固ナラシム  
朕深ク爾等ノ忠勇ヲ嘉シ尙益々奮勵シテ終局ノ勝利ヲ收メンコトヲ望ム

## 第三章 得利寺方向の搜索

四月二十九日 旅團は第五師團の一部を協力し、得利寺方向の敵情を搜索すべき企圖を以て午前九時三家子屯(普蘭店の南方約三里)北方に集合し、直に騎兵第十四聯隊第一中隊及第四中隊の一小隊を長谷川少佐の指揮に屬し復州に派遣し、熊岳城方向を搜索し、且つ沿道に於ける物資の偵察に任せしめ、本隊は騎兵第十三聯隊第一中隊を前衛とし前進を起し、午前十時太平溝に於て、支援隊たる歩兵第十一聯隊第十一中隊及混成中隊を併せ、十一時四十分普蘭店に到着す(當地は金州—得利寺—復州道の三叉點にして、東南北の三面は山を繞らし、西に金州灣を擁し、要害の地たりしが、我先進部隊の既に南北横斷の策を以て占領したる所にして、停車場は敵手の燒夷せる所と爲れり)

午後一時三十分前衛の先頭孫家屯に達し、將校斥候より敵騎約一百鄭家屯に在るの報を得、旅團は之を驅逐せんとし、騎兵第十三聯隊長田村大佐をして前衛たりし、同聯隊第一中隊及第四中隊及機關砲二門を指揮せしめ新に前衛を爲し、前進を繼續して三時拉子山咀附近に達す、時に前面の敵騎我斥候を射撃せるも、次いで北方に退却せり、同時四十分前衛をして柳樹底附近に位置し、呂家溝より瓦房店西端に互る間を警戒せしめ、日没に至り歩兵第十一聯隊第十一中隊及混成中隊の一小隊を以て前衛に代り崗家店附近に宿營して前哨に任じ、姜家四子より李家屯間を、騎兵第十三聯隊は王家屯(瓦房店南方約二吉米)及其附近に宿營して呂家溝、糖家屯



方向を警戒し旅團長は機關砲隊と共に王家店附近に、騎兵第十四聯隊、混成歩兵中隊（一小隊欠）は鄭家屯及其附近に宿營す。

長谷川少佐の率ゐる部隊は、敵に遭遇せずして、午後二時李家店（普蘭店北方約五里）に到り宿營せり。旅團長は此夜第五師團長より敵の騎兵二千、廿五日午後三時北方より大石橋に來り、廿六日午前八時更に南進す尙間諜の言に依れば、北方の敵は多少南進せるものゝ如しこの通報を得たり。

### 一 五月三十日曲家店附近の戦闘

旅團は混成歩兵中隊（一小隊欠）騎兵第十三聯隊第四中隊の一小隊を吉利少佐に指揮せしめ、連絡支隊として拉子山咀に置き午前八時崗家店南方に集合し、騎兵第十四聯隊第二中隊（一小隊欠）を前衛とし、午前九時三十分祝家屯に達す、此時前方に派遣せし將校斥候（騎兵第十四聯隊第二中隊の一小隊にして壹岐中尉之を指揮す）より土民の言に依れば、花紅溝（得利寺南方）附近に敵騎二百ありこの報を得、此に於て旅團長は既に豫定地附近に到着し、前面の敵情變化せざるが故に、曲家屯附近に宿營せんとし、祝家屯に於て之に關する命令を下し、十時三十分再び前進を起し、午後零時五分王家屯附近に達す、此時壹岐中尉より敵騎約一百得利寺に在り、其一部は同村南端復州河に阻絶を設け、徒歩戰を準備せし報に接し、先づ此敵を擊攘せんとし豊邊大佐に舊前衛及同第三中隊を屬し新前衛を爲し、麗家屯に向ひ前進せしむ、前衛は零時三十分同村北方高地に達し、敵の騎兵約二中隊の既に徒歩して、田家屯南端土壁を占領せるに會ひ、現在の高地に徒歩戰を爲し我將校斥候

午前の状況

騎兵第十三  
聯隊第二中  
隊の襲撃

を收容して、緩徐なる射撃を開始するや、敵は一齊射撃を以て抵抗す、旅團長は直に機關砲隊をして、小麗家屯西方より田家屯の敵を射撃せしめ、支援歩兵をして城子山及麗家屯北方高地を占領せしめ、騎兵第十四聯隊第四中隊（一小隊欠）を機關砲隊の掩護に任じ、同第十三聯隊（當時第二中隊の一小隊第三第四中隊の各二小隊は他に分遣し現在せず）を麗家屯東方鐵道の西側に開進せしむ、然るに一時頃敵の歩兵約二中隊、騎兵約三中隊、龍王廟西方復州河に沿ふて我左翼に向ひ前進す。

此時我機關砲隊は既に陣地に進入し、支援歩兵は第十一中隊の一小隊を以て城子山を占領し、自餘（混成の小隊）を以て前衛の左翼に連なり展開して、田家屯南端の敵に向ひ射撃を開始し、火戰漸次激烈となりしも一時三十分田家屯南端の敵兵乘馬して北方に退却を始むるや、旅團長は騎兵第十三聯隊第二中隊（一小隊欠）をして之を追撃し、同聯隊の殘餘を續行せしめ、且つ騎兵第十四聯隊及機關砲隊を張家屯南側森林に前進せしむ、此に於て騎兵第十三聯隊長田村大佐は命令を下せり「前面の敵は退却を始めたなり、第二中隊は直に之を襲撃すべし」さ乃ち第二中隊（第二小隊欠）長米川大尉は「第二中隊乘馬、拔刀、前へ、駈歩」の號令を下す、中隊は直に乘馬し、拔刀して第一梯隊を爲り前進す。

第三中隊（二小隊欠）は第二梯隊を爲り、第一梯隊の後方約六百米に、殘餘は第三梯隊を爲り、第二梯隊の直後に在りて前進せり、第一梯隊は中隊縱隊を以て敵の銃火を冒し、鐵道線路を踏えて張家屯北端に達す、是時敵騎五六十、龍王廟南方を退却中なりしに因り、直に之を襲撃（敵は狼狽し馬は逸走し徒歩退却するもの五、六あり）し龍王廟南方約二百米に於て、格闘中突然敵の騎兵約四中隊、龍王廟西方鐵道線路西側より六五隊



を爲り、第一梯隊の左側背に現出せしに依り、第一梯隊は一部を残置し、他を擧げて直に之に向ひ猛進襲撃す。敵亦横隊を爲り來襲し、接戦格闘頗る苦戦し、將に危殆に陥らんを以て、漸次張家屯西端に向ひ退却せり。

是時村上大尉の率ゐる第二梯隊は張家屯附近に到着せしも、同村西南端の小流の爲め、進出困難なりしに因り聯隊長田村大佐は第三梯隊を率ひ、同村東南を迂回して、其東北端に進出し、第一梯隊苦戦の状を見、直に此敵に向ひ、第二梯隊亦張家屯西北端に進出し、第一梯隊に合して共に襲撃せしも、敵兵鐵道線路を踏えて北方に敗走し、竟に格闘するに至らず、乃ち騎兵第十三聯隊（五小隊欠）は北ぐるを追ふて、龍王廟東北高地に達し、其北側の殆ど斷崖にして通過するに能はざるに依り、主力を同高地に下馬せしめ、射撃を以て追北し、第一中隊の一小隊及第三中隊（二小隊欠）は敵の背後に肉薄して追撃するに約七百米、然るに敵の歩兵約一中隊老燒鍋西方森林の南端に現出し、退却する友軍を收容せるに依り、第三中隊（二小隊欠）は復州河を涉り蔡家大房身東北高地脚の森林に向ひ退却して左側を警戒し、第一中隊の一小隊は龍王廟高地に向ひ退却せり。是より先支援歩兵は張家屯北方に於ける最初の騎兵格闘の忽ちにして彼我混戦し、而も砂塵の包む所を爲り、遂に射撃の機を逸せしも、霎時の後塵煙四散して、敵騎約二中隊の戰場に残れるを見、直に之を射撃せり。然るに幾も無く我騎兵第十三聯隊此敵に向ひ襲撃せしに依り射撃を中止し、第十一中隊の一小隊を残し、他は張家屯に向ひ前進せり、是時城子山の小隊亦前進す、尋て中隊の主力張家屯に達し、残留せし一小隊を于家屯に前進せしむ。

午後一時四十分老燒鍋西北に蔭蔽せる敵砲六門は麗家屯北方高地より前進せる我歩兵部隊を、又徒歩せる敵の騎兵約二百、其砲兵陣地附近より龍王廟高地の我第一線を射撃し其勢力猛烈なり、是時我歩兵第十一中隊（二小隊欠）及混成小隊は前進して、二時陳家屯北方高地に、機關砲二門は龍王廟高地に到着し、尋て于家屯に前進せし歩兵小隊亦陳家屯東北高地に來り共に敵の砲兵を射撃するや、敵砲我第一線を猛射し、爲に我機關砲一門故障を生じ、直に修理を加へて猛射せるも、敵の火力尙衰へずして、我第一線の死傷漸く多く、又手馬も不慮の砲火を蒙り、損害續出且つ散逸したるを以て、手馬の彈藥蒐集に一時困難を來したり。暫くにして彈藥盡き、機關砲のものを分ち、使用せしも尙將に盡きんす、因て旅團長は敵の後續部隊あらんことを慮り、二時三十分此情況を第五師團長に報告し、且つ彈藥及歩兵約二中隊の増遣を請へり、尙ほ拉子山咀附近に残置せる支援歩兵一小隊を急引せしむ。

此時敵の歩兵約一中隊前進し來るを以て、各自の彈藥を平等に分配し、節約して一時射撃を中止し、近接を待てり、騎兵第十三聯隊長田村大佐は第一線に在りて訓令して曰く、最後の彈藥を以て、擊退し得ざるときは將校下士は拳銃各兵は銃床若くは軍刀を以て、肉薄し全滅するに退くべからず、斃れて後已めよ、榮威な感奮意を決せり。

敵兵忽ち我陣地の左翼前約五百米に近接し、更に騎兵約二中隊老燒鍋東南高地より前進せるに依り、最後の彈藥を以て猛烈に射撃し、遂に之を撃攘せり、同時五十分頃其砲兵も亦陣地を撤す、此時城子山より前進せる我歩兵小隊は下拉子溝北方高地に達し、老燒鍋東南高地の敵と對戦せり、三時頃敵は北方に退却す、我第一線は



射撃を以て追撃し、騎兵第十四聯隊の將校斥候之を追蹙す。

第十三聯隊第三中隊（二小隊欠）は同時小郎に進入せしも、其他の諸隊は尙徒歩戦の位置に在りて、七時に至る、此間敵の砲兵は午後三時復州河を渡り、得利寺に向ひ退却し、其騎兵約一中隊得利寺附近に停止し、復州河岸に二、三の監視兵を置き、其大部は得利寺北方に退却し、五時頃四、五十輛の二列車相踵で得利寺停車場に到着し、尋て騎兵の如き一縱隊（三、四百）北方より本道に由り、得利寺に進入せし外、敵情大なる變化なく、若干の敵騎は依然得利寺停車場附近に在りて、其警戒兵は花紅溝口より李家店に互る間に散在せり。

此に於て旅團長は騎兵第十四聯隊第二中隊を龍王廟高地に置き、日没迄敵を監視せしめ、歩兵部隊を麗家屯に宿營して、城子山附近より麗家屯北方高地に互る間を警戒せしめ、自餘の諸隊を小麗家屯より龍王廟子間の諸村に宿營せしむ、小麗家屯に宿營せる騎兵第十四聯隊第三中隊より一小隊を下瓦房窩堡に分遣して、東北方を又龍王廟子に宿營せる同第十三聯隊第二中隊より一小隊を王家屯に分遣して、北方を警戒せり。

此戦鬪に於て、我に對せし敵は歩兵約二中隊、騎兵五、六中隊及、騎砲兵一中隊にして、我死傷將校以下七十八、内戦死野村少尉外下士卒二十六、負傷者平塚大尉、楠木中尉、佐藤少尉、今仁少尉外下士卒四十七、尙馬匹四十一、内失踪二十一頭、就中第一梯隊たりし騎兵第十三聯隊第二中隊は、損害甚しく戦死野村少尉以下二十四名、負傷十八名にして、負傷者は普蘭店南方唐房屯第五師團第一野戦病院に入院せしめ、戦死者は午後十一時頃龍王廟子北方に埋葬せり。

旅團は夕刻敵の列車得利寺停車場に往復せしに因り、或は敵の同地附近に兵力を集合するに非ざるやを慮慮し

明日尙ほ此位置に止り、搜索を繼續せんませり。

拉子山咀附近に残留せし混成歩兵中隊（二小隊欠）の内一小隊午後十時麗家屯に到着し、小泉大尉の指揮下に入れり。

附記 最初騎兵第十三聯隊第二中隊（一小隊欠）の襲撃せる敵（田家屯に據りて射撃せるもの）は護境哥薩

克騎兵にして、左側に現はれ、第二回に襲撃したる敵は、セルツェン中佐の率ゐる哥薩克騎兵（二中隊「ラ

ッ」隊形を以て前進せるものにして、其の損害は負傷將校三、死傷下士卒三十七、尙ほ馬匹四十四頭なりま

云ふ。

長谷川少佐の率ゐる部隊は、是日午後一時三十分敵に會せずして復州を占領せり。

五月三十一日 騎兵第十四聯隊第四中隊は、主力を田家屯に置き、陳家屯東方高地より龍王廟を経て、蔡家大房身に通ずる復州河の渡河點に到る間を警戒し、支援の歩兵部隊は一小隊を以て城子山を、一小隊を以て麗家屯北方高地を占領し、自餘の一小隊及混成中隊（二小隊）は麗家屯北側に位置し、旅團の主力（機關砲隊を含む）は曲家店附近に集合す。

午前八時頃に至るも、得利寺附近の敵兵依然同地に停止して前進せず、且つ花紅溝以南敵兵なきに依り、將校斥候を派遣し、上拉子溝以東より得利寺方向を、孫家屯方向より得利寺西方山地を搜索せしめ、歩兵中隊は其警戒を撤し、監視兵を城子山及老孤山頂に配置し、自餘は麗家屯附近に集合せしめ、旅團の主力を依然曲家店附近に置けり。



十一時長谷川歩兵少佐の率ゐる歩兵第四十一聯隊第六第八中隊増援隊として到着せるを以て、羅家屯に宿營せしめ、歩兵第十一聯隊第十一中隊及混成中隊を、同少佐の令下に屬す、尋て午後四時増援隊たる片倉砲兵少佐の率ゐる、歩兵第四十一聯隊第五第七中隊及砲兵第一大隊（第一中隊欠）到着せしを以て、歩兵部隊は長谷川歩兵少佐の令下に復して趙家屯に、砲兵大隊を王家屯に宿營せしむ。

是より先き午後二時、旅團長は諸兵連合の敵揚家屯（得利寺北方）附近に開進中なりとの報告に接し、直に各隊を曲家店北方に緊急集合をなせしも、敵の騎兵李家店（得利寺の西南方）附近に前進し、唯少數の斥候のみ龍王廟の我騎哨に對し時々射撃せるのみ、而して朝來敵兵得利寺停車場を破壊しつゝありて、前進の模範なきを以て、五時五分集合せし諸隊を再び宿營に就かしむ。

「土屋大佐曰、退却の徵候あれば一層深く偵察を要す、此大なる情況の變化に於て、宿營決心の理由をなすは戰術上の過失なく、他に理由あるなり」

六時に至り更に命令を下し、歩兵部隊は下瓦房窩堡、趙家屯間に宿營し、下瓦房窩堡、城子山、羅家屯北方高地に互る間を警戒し、騎兵第十三聯隊をして、温家屯附近に宿營し、一小隊を王家屯に派遣し、左側の警戒に任じ、騎兵第十四聯隊及機關砲隊をして、曲家店附近に宿營せしめ、一小隊を上瓦房窩堡に派遣し、右側の警戒に任ぜしめ、砲兵大隊を王家屯に、旅團長は曲家店に宿營し、明早朝騎兵第十三聯隊第三中隊を田家屯に派遣し、陳家屯東方高地より蔡家大房身に通ずる復州河の渡場間を警戒し、得利寺方向を搜索せしめ、騎兵第十四聯隊第三中隊を派遣し、揚家屯、張家屯（得利寺北方約一里）方向を搜索せしむ。

六月一日 午前二時三十分第五師團長より敵と接觸を保持するを度し、曲家店附近に位置せんことを望む旨

の訓令あり、又在復州長谷川少佐より、廿七日蓋平に敵の歩兵約六百、同地西北海山寨に褐色衣を着せる騎兵一千ありしも二十九日熊岳城に達し、又熊岳城西方郭家屯及同城西南約六里の大潘身に敵騎二十あるの報あり是日旅團は依然曲家店附近に在りて、得利寺附近の敵に接觸して情況を搜索し、騎兵第十四聯隊第三中隊は午前六時曲家店附近を出發し、城子山東方を経て前進し、十時李家屯西方高地に達す、敵の騎兵百四五十の西部于家溝口附近を扼し、同約三中隊の同時三十分揚家屯より復州河左岸を南進し、尋て同時四十分同一中隊馬圍子附近の高地に徒歩して、射撃を開始し、漸次前進せるを見、第三中隊は暫く此地に在りて射撃せしも、十一時十分敵の騎兵約四中隊揚家屯西方の谷地に集合し、同約二中隊北方より揚家屯に進入し、又敵の歩兵約二小隊東部于家溝口南方高地に散開して、逐次我に向ひ前進せしに因り、午後一時三十分馮明屯北方高地に退却す敵の歩兵は上崔家屯の高地端に停止し、其約二十李家屯西方高地に前進し、其騎兵斥候は更に我に接近せしも第三中隊は依然同高地に位置す。

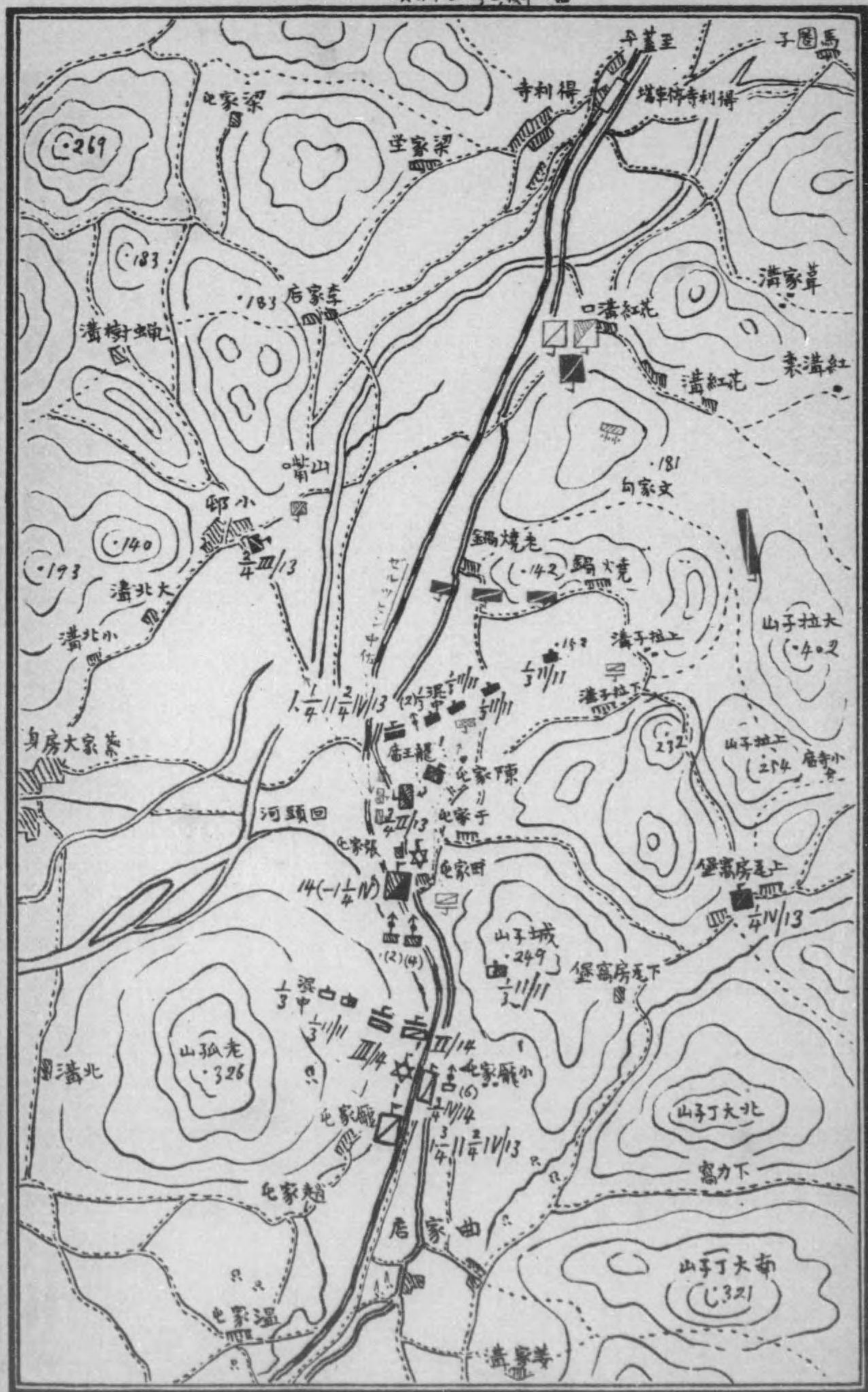
旅團は午後零時三十分同第十四聯隊第三中隊の李家屯附近より退却せる報に接し、直に歩兵第十一中隊の一小隊を城子山に派遣して收容に任じ、又騎兵第十四聯隊に緊急集合を、同第十三聯隊に集合の準備を爲さしむ、然るに五時に至るも敵竟に前進せず、諸隊は再び宿營に就けり、當時揚家屯附近に敵の歩兵二中隊騎兵六、七中隊砲兵一中隊あり。

先是將校斥候（山内少尉の率ゐる半小隊）は敵の背後を搜索せんを欲し、郭家屯を経て前進し、午前八時五十



# 曲家店附近之戰闘

五月十三日  
比例尺 1/50,000  
時間 午前四時一十分 午後二時十分



第二圖

分大陳家屯南方附近に達し、同村に敵騎約三十在るを認め、之を避けて更に松樹咀（揚家屯東北方）方向に前進し、十時同地に敵の騎兵約一中隊集合せるを認め歸途に就き、午後零時四十分大陳家屯附近に達し偶敵の歩兵約一小隊に遭遇し、猛烈なる射撃を受け、兵卒二名負傷し、退却して四時四十分中隊に合せり。

歩兵第十一聯隊第四中隊は、第五師團命令に依り、騎兵旅團背後の連絡を確實ならしむる爲め、前夜九時出發して、是日午前三時三十分拉子山咀に到着せしに依り、旅團長は之を吉利少佐の令下に屬し、該地に在りし混成歩兵中隊の一小隊を該中隊に復歸せしめたり。

旅團は第五師團長より勉めて遠く北方に於て、敵の鐵道及電信の小破壊を行ふべき命令を受けたり。

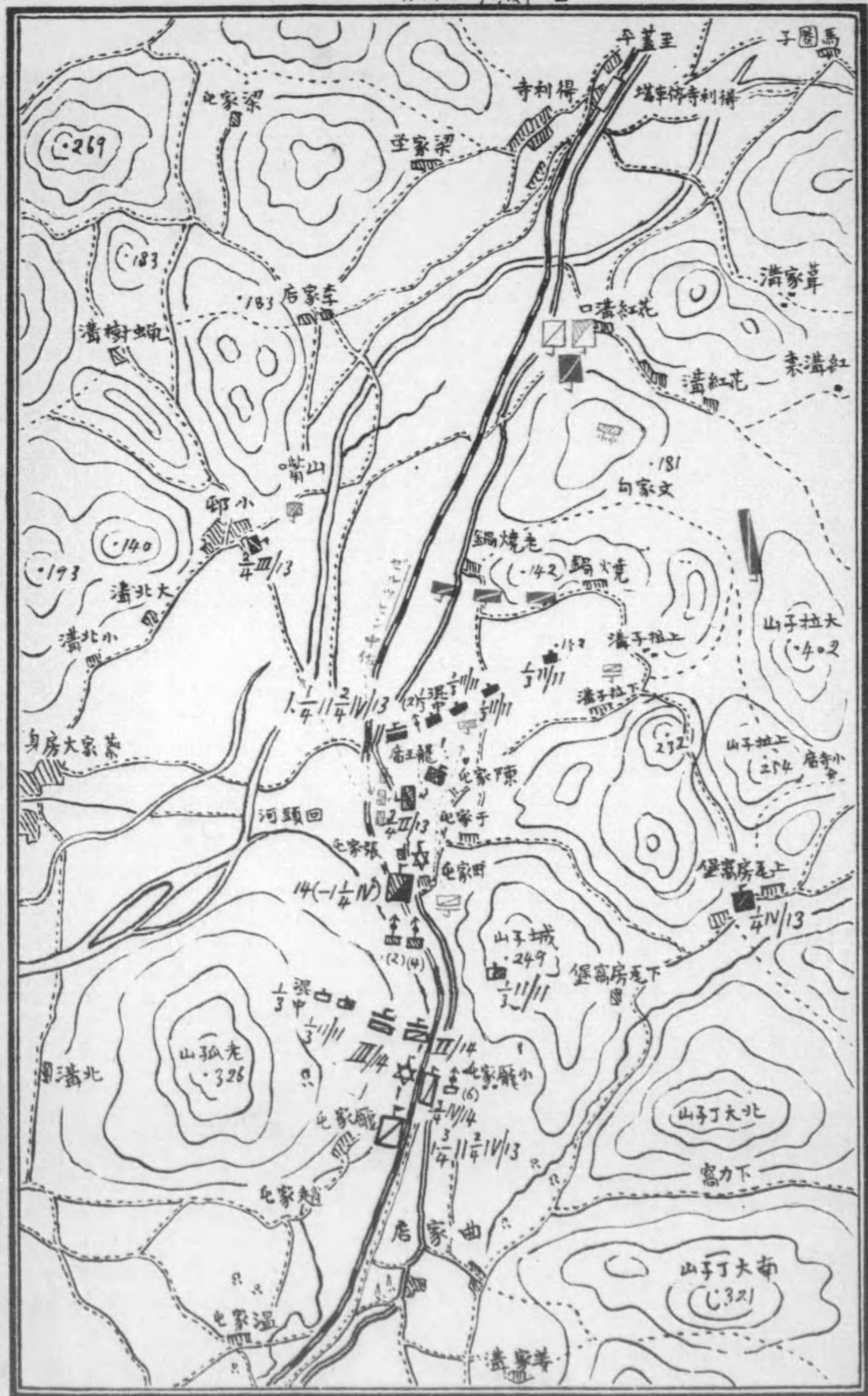
六月二日 旅團は第五師團長の命令に基づき、將校斥候を以て鐵道及電信の破壊に任せしめ、主力は依然敵と接觸せしも、揚家屯附近のもの前進の狀無く、梁家塋（得利寺の西方）附近に其歩兵約二中隊騎兵約三中隊在り、尙ほ夕に至り敵の歩兵約二中隊砲兵約一中隊半、拉山子方向より得利寺停車場附近に又多數の砲兵北より夾河心（得利寺北方三千米）附近に到着せし復州分遣隊の報告に依り、永寧城及蕪家屯附近に少數の騎兵斥候徘徊するも、復州附近に敵を見ざるを知れり。

鐵道、電信線破壊に任じたる騎兵第十三聯隊の將校斥候（後藤中尉の率ゐる第一中隊の下士以下十一騎）は、午前五時出發し、大龍口後、吳家屯、李家屯、潘家溝を経て、敵の右側背に潜入し、三日午前二時頃河東屯（北瓦房店西北約一里の無名村）附近に於て、鐵道の一部を破壊し、且電柱二本電信線三條を截斷せしも、敵の監視兵此爆發を聞き來集せしに依り退却に就き、三日午後零時三十分歸還せり。



# 曲店家附近之戰鬥

五月十三日  
比例尺 1/50,000  
時間 上午十時至下午二時



第二圖

分大陳家屯南方附近に達し、同村に敵騎約三十在るを認め、之を避けて更に松樹咀(揚家屯東北方)方向に前進し、十時同地に敵の騎兵約一中隊集合せるを認め歸途に就き、午後零時四十分大陳家屯附近に達し偶敵の歩兵約一小隊に遭遇し、猛烈なる射撃を受け、兵卒二名負傷し、退却して四時四十分中隊に合せり。

歩兵第十一聯隊第四中隊は、第五師團命令に依り、騎兵旅團背後の連絡を確實ならしむる爲め、前夜九時出發して、是日午前三時三十分拉子山咀に到着せしに依り、旅團長は之を吉利少佐の令下に屬し、該地に在りし混成歩兵中隊の一小隊を該中隊に復歸せしめたり。

旅團は第五師團長より勉めて遠く北方に於て、敵の鐵道及電信の小破壞を行ふべき命令を受けたたり。

六月二日 旅團は第五師團長の命令に基づき、將校斥候を以て鐵道及電信の破壊に任せしめ、主力は依然敵と接觸せしも、揚家屯附近のもの前進の狀無く、梁家壘(得利寺の西方)附近に其歩兵約二中隊騎兵約三中隊在り、尙ほ夕に至り敵の歩兵約二中隊砲兵約一中隊半、拉山子方向より得利寺停車場附近に又多數の砲兵北より夾河心(得利寺北方三千米)附近に到着せし復州分遣隊の報告に依り、永寧城及蕉家屯附近に少數の騎兵斥候徘徊するも、復州附近に敵を見ざるを知れり。

鐵道、電信線破壊に任じたる騎兵第十三聯隊の將校斥候(後藤中尉の率ゐる第一中隊の下士以下十一騎)は、午前五時出發し、大龍口後、吳家屯、李家屯、潘家溝を経て、敵の右側背に潛入し、三日午前二時頃河東屯(北瓦房店西北約一里の無名村)附近に於て、鐵道の一部を破壊し、且電柱二本電信線三條を截斷せしも、敵の監視兵此爆聲を聞き來集せしに依り退却に就き、三日午後零時三十分歸還せり。



## 二 六月三日曲家店附近の戦闘

旅團は第五師團の令下を脱し、第四師團に屬し、前日來の敵情に稽へ、益々警備を嚴にし、尙ほ敵情の搜索に勉め、騎兵第十三聯隊第四中隊は、龍王廟附近を警戒し、同第十四聯隊第三中隊の一小隊及第十三聯隊第三中隊の一小隊は、上瓦房窩堡及王家屯に在りて兩側を警戒し、歩兵第十一聯隊第一中隊は城子山附近を、同第四十一聯隊第七中隊は城子山西方高地を警戒し、又歩兵第十一聯隊第十中隊は混成中隊と交代する爲、午前十時曲家店東北、北大丁子山附近に到着し、第十一中隊の右翼に連り警戒せり、午前十一時四十分敵の歩騎兵各約二中隊揚家屯より得利寺方向に前進し、又騎兵の大部隊得利寺西方に集中中なりしに依り、歩兵第八中隊を同第七中隊の左翼に増加す。

然るに午後一時十分敵の一列車北方より得利寺停車場に到着し、尋て同時三十分歩兵約二中隊老燒鍋東方高地に散開して前進し、若干の歩兵部隊後續するものゝ如く、龍王廟附近の我騎兵小哨（騎兵第十三聯隊第四中隊の一小隊）其壓迫する所となり、田家屯の前哨中隊之を收容せり。

是に於て旅團長は諸隊に緊急集合を命じ、砲兵第二中隊を曲家店北方に、第三中隊を羅家屯北方高地に放列を布かしむ、三時敵の騎兵約一中隊龍王廟附近より西方に進み、我歩兵の射撃を受け、老燒鍋方向に退却せしも其歩兵は五月三十日龍王廟の戦闘に於て、我軍に砲兵の屬せざりし結果ならんか、益々前進して同時龍王廟東方高地に達す、乃ち混成中隊は歩兵第十二聯隊第十一中隊の左翼に増加し、騎兵前哨中隊は趙家屯方向に退却



す、是時敵の騎兵約三中隊復州河右岸の山嘴方向より、我左翼方面に前進すこの報を得、騎兵第十三聯隊は温家屯西南方鞍部を占領し、第三中隊は王家屯に在りて左側を警戒せり。

然れども其後敵の騎兵遂に前進せず、尋て五時山嘴東方復州河左岸の森林端附近に敵の砲兵約四門現出し、城子山及其西方高地の我歩兵に向ひ射撃を開始し、同時に歩兵は前進し、其一部は陳家屯に侵入せり、此時迄隠蔽して時機を待ちたる我砲兵第三中隊は敵の歩兵を、同第二中隊は同砲兵を、城子山の我歩兵も亦同歩兵を射撃するや、忽ち潰亂して得利寺方向に敗走し、六時二十分頃歩砲兵共其影を没せり。

是に於て騎兵第十四聯隊第四中隊は之を追撃し、老燒鍋附近迄追躡し、午後九時三十分歸還せり、他は從來の宿營地に歸還し、歩兵第十一聯隊第十一中隊及同第四十二聯隊第七中隊は城子山附近より、其西方高地に互り警戒す。

此日我に對せし敵は、歩兵約一大隊騎兵三、四中隊騎砲四門にして、得利寺附近に尙ほ若干の歩騎兵部隊集合せるが如く、夜に入り其主力は揚家屯附近に停止し、前哨を以て李家店附近より以東復州河の線を警戒せり。此戦闘に於ける我損害は、戦死歩兵卒一名、砲兵下士卒二名、負傷野口砲兵特務曹長外歩兵下士卒三名にして敵の損害は、戦死卒一、負傷將校一、下士卒十八なりと云ふ。

#### 曲家店撤退

六月四日 旅團は前夜第四師團長の命令に基づき、令下の歩砲兵を夜に乘じ、原所屬部隊に復歸せしむる爲め午前零時三十分騎兵第十四聯隊第三中隊を以て、歩兵の前哨を交代せしめ、歩兵第四十一聯隊第二大隊同第十一聯隊第十十一中隊及混成中隊並に砲兵第五聯隊第一大隊(第一中隊欠)を一時曲家店を出發せしむ(砲兵

は十一時四十分、歩兵は午後二時三十分普蘭店附近に歸還し、歩兵部隊は其北方徐家屯に(歩兵第十十一中隊及混成中隊は長谷川歩兵少佐の指揮を脱し、西和尚屯附近に露營す)砲兵大隊は李家店に宿營す)

旅團は第二軍司令官より我騎兵旅團を遠く無援の地に永く駐留せしむるを欲せず、前面の敵と觸接を保持し、彼若し前進せば逐次我陣地内に後退すべき命令に基づき、騎兵第十三聯隊第二中隊を後衛とし、午前二時曲家店附近を出發し、六時四十分拉子山の東麓なる王家店に達す、然るに敵は依然得利寺北方揚家屯附近に停止し敢て追撃せず、乃ち後衛たる第二中隊及第四中隊の一小隊を以て、雲臺山東北側より司家口子附近に至る間を警戒せしめ、日没迄機關砲六門を前哨に配屬警戒せしむ。

夜に入り騎兵第十三聯隊第四中隊より一分隊を山倉勾に出し左側を、同第十四聯隊第二中隊より一小隊を出し右側を警戒し、旅團長は騎兵第十三聯隊と共に王家店、小劉家屯間に騎兵第十四聯隊は謝家風子、陳家屯間に機關砲隊は翟家屯及其附近に宿營す。

騎兵第十四聯隊第三中隊は正午過ぎ迄田家屯附近に停止せしめ、敵は依然揚家屯附近に停止し、進來するの狀なきに依り、午後一時田家屯附近に於て、鐵道線路及電信線の小破壊を爲し、七時頃歸還せり。

長谷川少佐の率ゐる復州分遣隊(騎兵第十四聯隊第一中隊及第四中隊の一小隊)は午後二時復州を出發し、五時五十分李家店に歸還し宿營せり。

六月五日 旅團は前哨部隊たる騎兵第十三聯隊第二中隊及第四中隊の一小隊を拉子山附近に置き、敵情を搜索せしめ、騎兵第十四聯隊第四中隊を後衛となし、午前八時宿營地出發三官廟に向て後退す(敵と觸接し且つ後

#### 三官廟に後退



援を受くるは三官廟附近に在るを有利なりとせしが爲なり）暫くにして敵の歩騎兵各約二中隊南瓦房店西南附近に進出せし報に接し、後衛に機關砲六門を附し、特に聯隊長豊邊大佐を後衛司令官とし、快馬張附近の高地に據り前哨の收容に任せしも、敵の騎兵斥候のみ拉子山咀附近迄前進し、他は雲台山附近に停止せしに依り、十一時旅團は更に後退して、午後零時三十分三官廟（普蘭店の西北三千米）附近に達し、騎兵第十四聯隊第四中隊を前哨とし、丁家屯に位置し、七家屯より谷家溝に互る間を警戒し、自餘の諸隊は三官廟及其附近に宿營す、尋て四時三十分長谷川少佐の率ゐる復州分遣隊は聯隊に復歸す。

附記 曲家店附近に於て衝突したる露軍は、アレクセエフ總督よりクロバトキン大將に命じ、西伯利第一軍團を得利寺に集合し、南進して日本軍の大兵を牽制し、旅順の窮狀を軽減すべき目的を以て南進したるものなり。

#### 第四章 第二軍右側に於ける行動

六月六日 旅團は前夜十一時二十分軍命令に依り、明朝馬廠（魏子窩西方約一里半）附近に到り、同地を根據として、遠く北方の敵情を搜索し、且つ一部隊を以て、魏子窩の倉庫を掩護すべきを以てせられたり、乃ち騎兵第十三聯隊第三中隊を以て、魏子窩の糧秣倉庫を掩護し、又附屬の歩兵第三十八聯隊第十二中隊を原隊に復歸せしめ、殘餘の部隊は午前八時宿營地を出發し、軍の右側に進出せんとし、先づ普蘭店を經唐房屯を過ぎ午

後二時陳家屯に到り其附近に宿營す（當地は人口稀薄にして、井水乏しく溜川の所々に穴を掘り水を溜め人馬の飲料とせり）

六月七日 旅團は午前八時陳家屯附近出發魏子窩に向ひ前進し、午後二時滕家屯に到り、配屬せられたる騎兵第三聯隊（第一中隊欠）（中山少佐）を併せ、滕家屯及其附近に宿營し、李家窩嶺より大場樹房に互る線を警戒す。

六月八日 旅團は騎兵第十三聯隊第二中隊の一小隊を魏子窩に派遣して、同地に集積せる糧秣の監視に任じ、同地の第三中隊を交代せしむ。

前面には敵の騎兵斥候、午前魏子窩の北方約四里の滕家屯及潘家屯附近に、午後葫蘆頭（魏子窩の西北三里）北方に出没し、老白山及其西南諸山徑は概ね敵之を監視し、尙ほ情報に依れば、得利寺附近には敵兵三萬砲少くも二十四門あるものゝ如し。

六月九日 旅團は未明騎兵第十四聯隊より、長谷川少佐の指揮せる選抜二小隊編成の二中隊を搜索隊とし、沙泡子を経て、曲家店（南瓦房店北方約二里半）方向に派遣し、曲家店、拉子山咀の間及潘家屯方向を搜索せしむ、即ち長谷川少佐は敵に遭遇すること無く、午前九時四十五分、沙泡子、王家屯（魏子窩西北約五里）に達し、土民の言に依り、其東方一里半なる十三子屯附近に在りし、敵兵約二十北方に退却せるを知り、是夜扒山南麓の大王に宿營せり、當時前面の騎兵は南進の狀なし。

六月十日 旅團は大劉家屯附近に位置し、魏子窩—金州道上大沙河の渡場より、同河右岸に沿ひ、其河口に至



る間を警戒し、且つ遠く北方の敵情を捜索す。

六月十一日 旅團は依然王家屯（魏子窩西方約三里）附近に位置し敵情を捜索す、午前六時長谷川少佐より四平街及上崔家屯（得利寺東方約一里）附近に敵なく、土民の言に依れば得利寺附近に歩兵二千餘、尙前日得利寺、曲家店間に砲二、三十門を見、且つ是日迄得利寺を経て南進せし敵の總數約五萬なりと云ひ、又蘆家屯及大林家屯に敵の騎兵東方に對し、嚴に警戒せりこの報を得、潘家屯（魏子窩一萬家峇子道上）に前進せんじし、歩兵二中隊砲兵一中隊の配屬を軍司令官に請求せり。

午後一時長谷川搜索隊歸來し、大沙河左岸に大なる部隊なく、曲家店、拉子山咀間に敵騎兵の主力と、一部の歩、砲兵あるのみにして、敵の主力は花紅溝口、得利寺附近に集合し、防禦工事を爲すものゝ如く、土民の言に依り計算すれば、兵力約三萬なりと雖、其宿營區域狭少にして、言稍過大なるが如く、敵の列車は今尙ほ得利寺停車場迄往復せることを報ぜり、然るに二時四十五分勉めて速に北方の情況を捜索すべき軍訓令を得しも尋て各師團の搜索歩兵大隊の豫定の地點に進出せざりしを知り、明日先づ葫蘆頭に前進するに決せり。

六月十二日 旅團は早朝騎兵第十三聯隊第一第四中隊（各二小隊にして吉利少佐之を指揮す）を水門子廟を経て、沙泡子方向に同第三聯隊第二中隊（二小隊欠）を沙泡子、王家屯を経て、曲家臺方向に派遣し、特に水門子廟、白山、南瓦房店方向を搜索し、主力は第十三聯隊第二中隊を前衛として、午前十時葫蘆頭高地に達し、其北方二、三里内に敵を見ざりしに因り、午後四時前衛を驢家屯の森林に留め警戒せしめ王家屯に歸還す、當時敵の主力を發見せざりしと雖、其歩兵部隊代りて南進せし狀あり、而して其前哨線は林家屯より吳家屯附近

にあるが如く、四平街、水門子廟に敵を見ず、白山に敵の斥候出沒し、四平街より得利寺及松樹咀に通ずる各道路は敵之を監視す、土民の言に依れば、得利寺附近に敵兵約三萬、砲三十四門あり、白山北方高地に敵の歩兵部隊あり、又前元臺子附近の敵兵道路の修繕をなすありと。

吉利少佐の搜索隊は、午前六時十五分戰家屯出發十一時三十分人巖見山に達し、土民の言に依り、前日敵騎約二十潘家屯附近に來り、再び北方に退却せるを知り、乃ち將校斥候（山本少尉以下士卒七騎）を四平街方向に派遣し、前進を續行し、午後二時五十分沙泡子に達す、當時曲家臺附近に敵兵なきものゝ如く、土民の言に依り、前元臺子に多數の騎兵、花紅溝及得利寺附近に多數の歩、騎兵あり、其他蘆家屯、曲家店、城子山、七崔家屯及李家屯附近に歩騎兵若干あるを知り、乃ち八時孫家溝に到り宿營す。

九時四十分山本少尉歸來し、四平街附近に敵兵なきを知れり（歸途賈家屯方向より來れる二十四、五騎の敵と遭遇し、遠く東方に迂回し歸還せり）。

午後六時第二軍より左の要旨の命令を受く。

騎兵旅團（歩兵第六聯隊の一大隊砲兵第五聯隊の一中隊を付す）は、明早朝王家屯を出發し、水門子廟附近に到り、軍の右側を掩護し、且つ遠く北方を搜索し、能ふ可くんば敵の背後を脅威すべし。

旅團は第二軍命令に基づき、明日午前三時三十分集合し、水門子廟附近に前進し、第二軍の右側を掩護し、且つ遠く北方の敵情を捜索せんじせり。

是夜敵騎四、五驢家屯森林の監視哨に接近し來れり、因て夜半二時十五分緊急集合の準備を爲さしめ、第四中



隊の一小隊を該哨所に派し、搜索せるも得る所なし。

六月十三日 旅團（歩兵第六聯隊第二大隊砲兵第五聯隊第六中隊を屬せらる）は、午前四時三十分王家屯を出發し（午前三時三十分出發の豫定なりしも、歩砲兵來着せず、之を待ちて四時後に至るも、尙ほ來らざるに因り遂に出發せり）騎兵第十四聯隊第一中隊を前衛とし、水門子廟に向ひ前進し、八時葫蘆頭の高地に達し、附屬せし歩砲兵の到着を待ち十時出發水門子廟に向ひ前進す（歩砲兵隊は歩兵第二大隊長澤井少佐指揮し旅團に續行し、潘家屯に向ひ前進す）是時迄水門子廟、白山方向に敵を見ず、且つ前日に於ける吉利少佐の搜索隊の情況を知悉し、行進を繼續して、正午十三子屯東方に達し、更に前進して午後一時四十分于家屯に到達す。吉利搜索隊は將校斥候を以て、得利寺及瓦房店附近の敵情を搜索し、他は午前六時孫家溝を出發し、七時沙泡子東端に到り、元臺子、曲家臺、大沙河左岸に敵の騎兵斥候出沒し、賈家屯、四平街及郭家屯（上崔家屯東方約一里半）附近に敵兵なく、上崔家屯、得利寺附近の敵依然たるものゝ如きを知り、十一時五十分沙泡子を出發し、午後四時于家屯に歸還し聯隊に合す。

曩に配屬せられたる騎兵第三聯隊は原師團に復歸す。

旅團は此夜大張家溝より孫家屯を経て、王家屯に互る線を嚴に警戒し、水門子廟より後高家屯間の諸村に宿營す。

當時四平街及前元臺子附近に敵兵なく、大沙河左岸に騎兵の小斥候出沒するのみにして、上崔家屯及得利寺附近の敵依然たるものゝ如し、因て一部を沙泡子に派遣し、敵の側背を搜索し、先づ旅團の主力を水門子廟附近

に駐めんを欲し、午後九時左の部署を爲せり。

一、歩兵大隊の一中隊、騎兵第十四聯隊、機關砲二門（豊邊大佐之を指揮す）は明日午前八時水門子廟に集合の後沙泡子に向ひ前進し、敵の背後を搜索す。

二、騎兵第十三聯隊より約一中隊を以て、騎兵第十四聯隊の前哨と交代し、午後六時より歩兵一小隊を屬す

三、其他の諸部隊は隨時出發の準備に在り。

搜索の續行

六月十四日 旅團は騎兵第十四聯隊、歩兵第六聯隊第七中隊、機關砲二門を豊邊大佐に指揮せしめ、搜索隊と爲し、沙泡子に前進せしむ、即ち騎兵第十四聯隊は午前七時四十分北都于家屯を出發し、八時水門子廟に達して、歩兵第七中隊及機關砲二門を併せ、同時十分主力を同地に留め、同時四十分水門子廟を出發し、第二中隊を前衛とし、沙泡子に向ひ前進し、歩兵第七中隊の一小隊を周家屯北方に派遣し、旅團の前進を援助せしめ、十時五十分沙泡子に達す、敵に就き得る所なく、土民の言に依れば、前夜敵騎十、沙泡子に、三十、臺山（沙泡子東北約三里）に露營せりと、因て聯隊は暫く沙泡子に停止し、四平街及大任家屯（瓦房店東北約三里）方向を搜索す。

旅團は敵兵依然吳家屯より雲臺山に互る線を占領し、其砲兵呂家溝の高地に在ると、第二軍は本日拉子山附近の敵を攻撃し、第三師團は郭家屯方向より敵の左翼を攻撃するを知り、午後一時南都于家屯附近を出發し、沙泡子に向ひ前進す、行路山岳にして崎嶇峻険頗る困難を極む、四時沙泡子に達す、途中二時十分豊邊大佐より友軍に關する左の情報に接す。



第三師團は孟家溝附近の敵兵を撃退し、午後一時頃後元臺子附近を追撃中にして、敵の大部分は前元臺子より轉角房方向に、又其一部は靠山屯、趙家屯方向に退却せるが如く、後元臺子附近より東方沙泡子に至る間大沙河河谷に敵兵を見ず、騎兵第三聯隊は本夜郝家屯附近に宿營し、第二軍は本日爲し得れば李家屯（龍王廟子南方一千米）附近迄進出する豫定なり。

此日第二軍主力方面の砲聲殷々約八時間に互り猛烈を極めたり。

旅團は此夜所屬の歩兵第六聯隊第二大隊（周家屯附近にありし第七中隊は午後五時頃沙泡子に歸還す）を以て魏子窩一萬家峯子道上大沙河の渡場より松樹咀間を警戒し、午後七時沙泡子、王家屯間に宿營す、八時曲家屯附近に於て敗退せる敵の歩兵約二大隊騎兵二中隊午後三時三十分西部上瓦房窩堡、南部揚家溝を経て得利寺方向に退却し、又他の騎兵約二中隊午後七時于家屯附近に露營の準備を爲せし情報を得たり。

### 一 六月十五日得利寺の戦闘

旅團は第二軍の敵を追撃して、曲家店以北に進せしものと思惟し、其運動に伴はんを欲し、午前四時三十分沙泡子北方に集合し、五時騎兵第十三聯隊第一第三中隊を前衛（吉利少佐之を指揮す）とし、先づ梁卷店に向ひ前進せしめ、同第十四聯隊第二中隊の一小隊を小歐家屯より城兒山方向に派遣し、第三師團との連絡に任じ自餘を本隊とし、前衛に續行し六時五十五分張家屯に達す。

歩兵第二大隊は、午前六時十分小歐家屯より第八中隊の一小隊を香爐山に派遣し、第二軍の主力と連絡を保持

せしむ。

是時兵力未詳の敵騎 一中隊餘なるが如し 和尚屯に在るの報を得、歩兵第六中隊の一小隊騎兵第十三聯隊第一中隊、機關砲二門を前衛に増加し、田村大佐に指揮せしむ、乃ち田村大佐は先づ騎兵中隊を吉利少佐に増加し、交家屯に向ひ前進し、歩兵及機關砲を後より追及せしむ。

田村大佐は午前七時三十分交家屯に於て前衛に追及す、時に敵の騎兵若干小徐家屯に、同五六十周家屯附近の高地に停止す、尋て旅團の主力は梁家店南方畑地に開進す、八時二十分敵の槍騎兵の如きもの費家屯附近に砲兵の如きもの陽家口高地に在るを知り、旅團は之を撃攘せんと欲し、前衛をして交家屯附近に砲兵中隊を大梁家屯西北高地に歩兵第六聯隊第二大隊（第六第八中隊の各一小隊欠澤井少佐指揮）をして、曹家屯東方谷地に開進せしめ、歩兵の一小部隊を賈家店南方高地に派遣し、旅團の右側を掩護せしめ、其他は梁家店に位置せしむ、八時三十分砲兵中隊は大梁家屯西方高地に放列を布き、費家屯及陽家口東方高地の敵の騎兵に向ひ、射撃を開始し、機關砲二門は砲兵中隊の左翼前に位置す同四十分歩兵第二大隊（第六第八中隊の各一小隊欠）は曹家屯東方谷地に開進を畢れり。

是時敵の騎兵約一中隊周家屯西方高地に在り、時に旅團は賈家店附近より敵の左側背を脅威すべき軍命令を受領し、同四十五分砲兵中隊をして和尚屯、費家屯、陽家口、周家屯附近を威嚇射撃せしめ、田村大佐をして歩兵大隊と共に現在地を固守せしめ、騎兵第三聯隊と連絡せしむ、九時騎兵第三聯隊より歩兵部隊の救援を請求せり、然れども當時旅團の前面殊に其左翼の情況審ならざりしに依り之に應ぜず、此時に於ける諸隊の位置概



ね次の如く前衛は交家屯附近に、支援隊歩兵は曹家屯東方高地に機關砲四門は歩兵の右翼に砲兵中隊は大梁家屯西北高地に在り。歩兵第六中隊の一小隊騎兵第十三聯隊第二中隊、機關砲二門は交家屯北方高地を占領し、騎兵第十四聯隊は交家屯に前進す。

尋て九時二十五分將校斥候より大陳家屯附近に敵の歩兵一中隊、騎兵五、六中隊あるの報に接し、歩兵二中隊機關砲四門を陳家小店北方鞍部に派遣し、騎兵第三聯隊を救援せしむ、時に九時三十分にして陳家小店方向の敵の歩、砲火激烈を極む。

乃ち歩兵第六聯隊第二大隊は第七中隊を陳家小店に急行せしめ、同時小行李彈藥四馬を騎兵第三聯隊に送致す同時五十分旅團長は大陳家屯の敵歩兵約一大隊騎兵第三聯隊方面に前進するの報告に接し、歩兵第二大隊（第七中隊は既に陳家小店に進め、第六中隊は旅團の豫備隊として残留せしむ）に機關砲四門（曹家屯高地に在りし四門を歩兵大隊に附屬し、交家屯北方高地の二門を招致し、曹家屯東北高地の砲兵隊の掩護に任ず）を屬し張家爐東北高地に向ひ前進せしむ。

砲兵第六中隊は午前九時四十分先づ一小隊を以て、曹家屯東北高地に陣地を變換し、郭家屯附近の高地に據れる敵歩兵を撃退し、尋て十時二十分自餘の陣地變換を畢り、尹家口子東方谷地を射撃す、同四十五分旅團長は騎兵第十三聯隊（第二中隊欠）機關砲二門を田村大佐に屬し、費家屯を占領して、敵の側背を脅威せしむ。

此時敵の砲兵小陳家屯北方高地に在るを知り、我砲兵を陳家小店東北高地に移し、騎兵第十四聯隊を陳家屯東方畑地に招致す、十一時機關砲四門陳家屯西方高地に歩兵第二大隊社家屯南方高地に達し、騎兵第十四聯隊は

陳家屯東南畑地に向ひ前進す。

是時我歩兵大隊は敵砲六門小陳家屯西南端の陣地に進入中を射撃せしも、彼遂に放列を布き射撃を開始せり、故に我は應戦を避け、敵の目標を變換せんとするに際し、急射して之を撃射せり、十一時四十分曹家屯東方高地に残置せし歩兵第六中隊（一小隊欠）は旅團長の命に依り、周家屯西北に向ひ前進す。

此頃敵の歩兵約二大隊我歩兵第二大隊の右翼に向ひ、漸次戦線を擴張して、殆ど包圍する所ならんこせしに因り、機關砲四門を其右翼に移せり。

是より先、騎兵第十四聯隊は十一時交家屯出發同三十分陳家屯東南に達し、豫備隊となり、又田村大佐の率ゐる部隊は、第三中隊を第一線他を第二線として前進し、十一時三十五分費家屯東南高地に達す。

午後一時三十分敵の歩兵大陳家屯北方一帯の高地及陽家口南方高地に據り、其砲兵は張家爐東北高地及陳家小店北方高地附近の我部隊を交互に射撃し、爲に我歩兵は暫く稜線後に之を避くるの止むなきに到れり。

是時敵の歩兵陽家口高地に増加す、二時我砲兵中隊陳家小店東北高地に達し、臂力を用ひ遮蔽して放列を布き同十五分頃より先づ小陳家屯附近の敵砲兵を射撃す、敵亦應戦せしも其射彈の多數は我砲列の後方に爆發し、被害極めて少し、尋て社家屯南方高地の機關砲四門をして、費家屯に向ひ前進せしめ、砲兵中隊は依然敵の砲兵を射撃し、歩兵大隊も主として敵砲兵を射撃せり。

當時軍の攻撃は猛烈にして、彼我の砲聲殷々百雷の轟くが如く、撼天動地其光景轉た凄慘たるを思はしむ。

旅團は全力を擧げ費家屯方向より敵の側背を脅威すべき目的を以て、午後二時十五分豫備隊たる騎兵第十四聯



隊を費家屯に向ひ前進せしむ。同三十分頃敵の砲兵小陳家屯北方鞍部に向ひ退却を始め、其二門は該鞍部に放列を布きたるに依り、砲兵中隊は左翼の四門を約五十米前進せしめ、歩、砲兵協力して射撃せり。

是時騎兵第十四聯隊及機關砲四門相前後して、費家屯東方鞍部に達し、機關砲を兩翼に配置し、徒歩戦を以て尹家口子東北高地の敵を猛烈に射撃す、歩兵隊は右翼に在りし第八中隊（一小隊欠）を先づ社家屯に向ひて前進せしめ、第五第六中隊之に續行し、陽家口東方高地に向ひ敵の退路に逼り、將に費家屯南方谷地を通過せんとするや、尹家口子東北高地附近より猛烈なる敵の射撃を受く、時恰も驟雨沛然として到り、殆ど損害なく前進するを得たり。

尋て二時五十分敵の騎兵我右翼に運動するの報に接し、騎兵第十四聯隊第二中隊を同第十三聯隊の右翼に増加し、豫備隊は費家屯東北高地に位置す。三時頃小陳家屯附近の敵退却を始め、敵の砲火亦漸く衰ふ、乃ち騎兵第十四聯隊第一中隊及機關砲四門は李家屯を経て于家溝口方向に到り、敵の背後を脅威せんし、三時三十分費家屯西方谷地を前進中陽家口西北高地に據れる敵の歩兵約二中隊の射撃を受け、費家屯に退避し前進するを得ず、依て騎兵第十三聯隊機關砲一門を以て、費家屯高地より之を收容せしむ。

三時三十分陳家小店附近の我軍に對せし敵兵全く北方に退却し、第三師團右縱隊方面の敵の歩兵の大部も亦陸續花紅溝方向に退却するを見し雖、砲兵第六中隊は全く彈藥を消費し射撃する能はず、只歩兵第五中隊の一部及第八中隊（一小隊欠）は四時頃費家屯北方高地に達し、退却中の敵を射撃し、同大隊の殘餘（第五中隊の主力及第六中隊）亦五時頃同村西北高地を全く占領し、日没に至る迄追撃射撃を繼續す。

是より先騎兵第三聯隊支援の爲め、陳家小店に派遣せる歩兵第七中隊は大隊の攻勢に轉するを見、獨斷を以て陳家屯を経て、尹家口子附近に追撃し、後大隊に復歸す、又曩に老爺廟溝西方高地に派遣せし將校斥候（金子少尉の率るる各中隊の選抜歩兵一小隊）は騎兵第三聯隊の急を見、其左翼に連繫し大陳家屯附近の敵と交戦し後費家屯に於て大隊に復歸す。

陳家小店北側高地に據れる騎兵第三聯隊は、大陳家屯東方高地より猛射を受け、死傷頗る多く敵の兵力増加すると共に熾烈となり、九時頃に至り彈藥消耗し、馬上豫備隊、手馬卒、軍旗護衛兵等の彈藥を收集し、繼かに交戦を持續するに過ぎず、殆ど苦戦の極に達せり。

此時旅團長は「軍の右翼に在る騎兵第三聯隊は目下苦戦中旅團は全滅するも退却すべからず」と嚴命し、諸隊は大に奮戦す、歩兵第六聯隊第二大隊も陳家小店東北高地に向ひ、奮進して優勢なる敵を撃攘し、蜿蜒して崢嶸たる山嶺には日章旗翻り、夕陽之に映し士氣頓に昂れり。

前面の敵の主力は午後三時三十分散亂して、夾河心方向に退却せるを以て、第二軍の各團隊は五時其攻略せる陣地附近に宿營せり。

旅團は歩兵部隊を費家屯附近に、騎兵第十三聯隊を陽家口附近に、同第十四聯隊及機關砲隊を和尚屯に、砲兵中隊を大徐家屯に宿營せしめ、敗殘兵の山間に潜伏しあるやを顧慮し警戒を嚴にせしむ。

第二軍の戰鬪報告左の如し

六月十三日軍は普蘭店、大沙河の線を出發し、第三師團（砲兵旅團（一聯隊欠）を附す）を大沙河に沿ひ第



五師團を鐵道線路に沿ひ、第四師團（砲兵旅團の一聯隊を附す）を吳家屯（復州街道上）四川溝、大河崖に通ずる道路に沿ひ、騎兵旅團（歩兵一大隊山砲一中隊を附す）を鐵子窩、熊岳城街道を前進せしめ、各縱隊は其進路上の小數の敵兵を驅逐しつゝ前進せり。

十四日第四師團は邦家嶺附近に達す、第三第五師團は相連繫して、得利寺南方約十二吉米の趙家屯、太平溝の線に達し、敵兵大房身より北部龍王廟に互る線を占領するを知り、更に進んで宋家屯、顧家屯、虞家屯の線を占領し、午後三時より日没に至る迄砲戰繼續せり。

十五日軍は得利寺附近の敵を攻撃せんが爲、第三師團をして宋家屯より温家屯北方高地に互る線を固守せしめ、第五師團をして夜暗を利用して、虞家屯附近より大陽溝西方高地に前進せしむ、此朝濃霧あり、午前五時三十分砲火を開始し、砲戰漸次激烈となりつゝある間に、第五師團は復州河以北の地區に進出するを得たるも、第三師團殊に其右翼は近く優勢なる敵の歩砲火を蒙り、又屢々其攻撃を受け頗る苦戦に陥りたり。

此時第五師團の攻撃前進は着々進捗し、加ふるに本日黎明復州方面より急行せる歩兵第十九旅團砲兵一大隊は午前九時三十分王家屯西方高地に達し、第五師團と協力し、午前十一時大房身附近の敵兵を驅逐するを得たり。

然れども龍潭山、山嘴及龍王廟高地にありし敵砲は、猛烈に此方面を射撃し、第五師團及歩兵第十九旅團は此猛火を冒し、險崖峻坂を攀登して前進せしも、第三師團右翼隊方面の敵兵は、依然優勢を以て我に當り、屢々攻撃に轉せんとせり、依て軍の總豫備たる歩兵二大隊を前後二回三方面に増加し、軍は遂に一兵の豫備

隊を有せざるに至りしも、本朝普蘭店附近より急行せる第六師團の歩兵三中隊午後二時戰場に到着し、之を豫備となすを得たり。

是より先第三師團右翼方面危急を告ぐるに當り、騎兵旅團亦第三師團の右翼し到着し、之に連續し猛烈に敵の側背を脅威せしを以て、敵は全く我包圍中に陥りしも頑強にして屈せず、而かも敵の後續部隊戰場に來着したるが如く、屢々逆襲を以て戰況を挽回せんとせしも、遂に我軍の攻撃力に抵抗する能はず、午後三時頃より退却を始め、我追撃射撃に依り潰亂せり、軍は地形上及數日來の疲勞のため猛烈なる追撃を止め、今夜戰場に夜々散せり。

此日第四師團の主力は黃家屯附近に於て、北方に對し陣地を占領し、軍の左側を掩護し在りしが、午前十時五十分敵の歩兵約七八百、馬家房身より西龍溝を経て、吳家屯方向に退却するこゝを知り、歩兵二中隊、砲兵一中隊を紅家屯東方高地上に差遣し之を待つ、午後一時頃に至り、敵兵豫想の如く龍口後以西に退却し來りたるを以て、大に之に損害を與へたり。

敵の死傷未詳なるも、戰場に遺棄せる死屍は、第三師團方面のみにも約六百にして、速射砲十四門及軍旗等を鹵獲し、捕虜は第四聯隊長以下將校六名、下士卒三百名なり、又捕虜將校の言に依れば、第一軍團長輕傷、第一師團長重傷、第一聯隊長戰死、第二第三聯隊長負傷せりと、我軍の死傷取調中なるも千名以下なり十五日の戰鬪に兵力殆んど我と對當にして、而かも險惡なる陣地に據るの敵を攻撃し、遂に之を潰走に至らしむるを得たるは偏に



陛下の御稜威に依る。

第二軍に左の 勅語を賜はりたり (六月十七日)

第二軍ハ前ニ南山ノ堅ヲ拔キ未タ久シカラサルニ今又得利寺附近ノ敵ヲ攻撃シ長時間激戦シテ大勝ヲ收メ其軍旗ヲ奪ヒ聯隊長以下數百名ヲ擒ニシタルヲ聞ク

朕深ク汝等ノ忠勇能ク敵軍ノ勢力ヲ挫折スルヲ嘉ス

第二軍は北方に敵を撃退せりと雖、諸隊秩序の回復及糧秣補充に時間を要し、明十六日直に敵を追撃するこゝを待たざるの状況にあり。

## 第五章 第二軍左側の行動

六月十六日 旅團は第二軍の左側に轉移すべき第二軍命令に基き、東孫家屯(南瓦房店北方半里)附近に集合せんとし、附屬せる歩、砲兵を原隊に復歸せしめ、午前八時和尚屯を出發し、後退して東孫家屯附近に到着し、轉角房附近に宿營す。

六月十七日 降雨滄々旅團(第十四聯隊第四中隊及第十三聯隊第三中隊の一小隊欠)は午前七時出發南瓦房店榆樹房を経て、尖三子に向けて前進し、午前五時趙家屯(南瓦房店西北約五里)附近に到り宿營す、午後五時三十分第二軍より訓令を受く、軍は十九日運動を起し、先づ熊岳城に到り、爾後更に蓋平に向ひ前進せんとす。







得利寺附近之戰鬥

1/50,000 日五十月六

第三圖



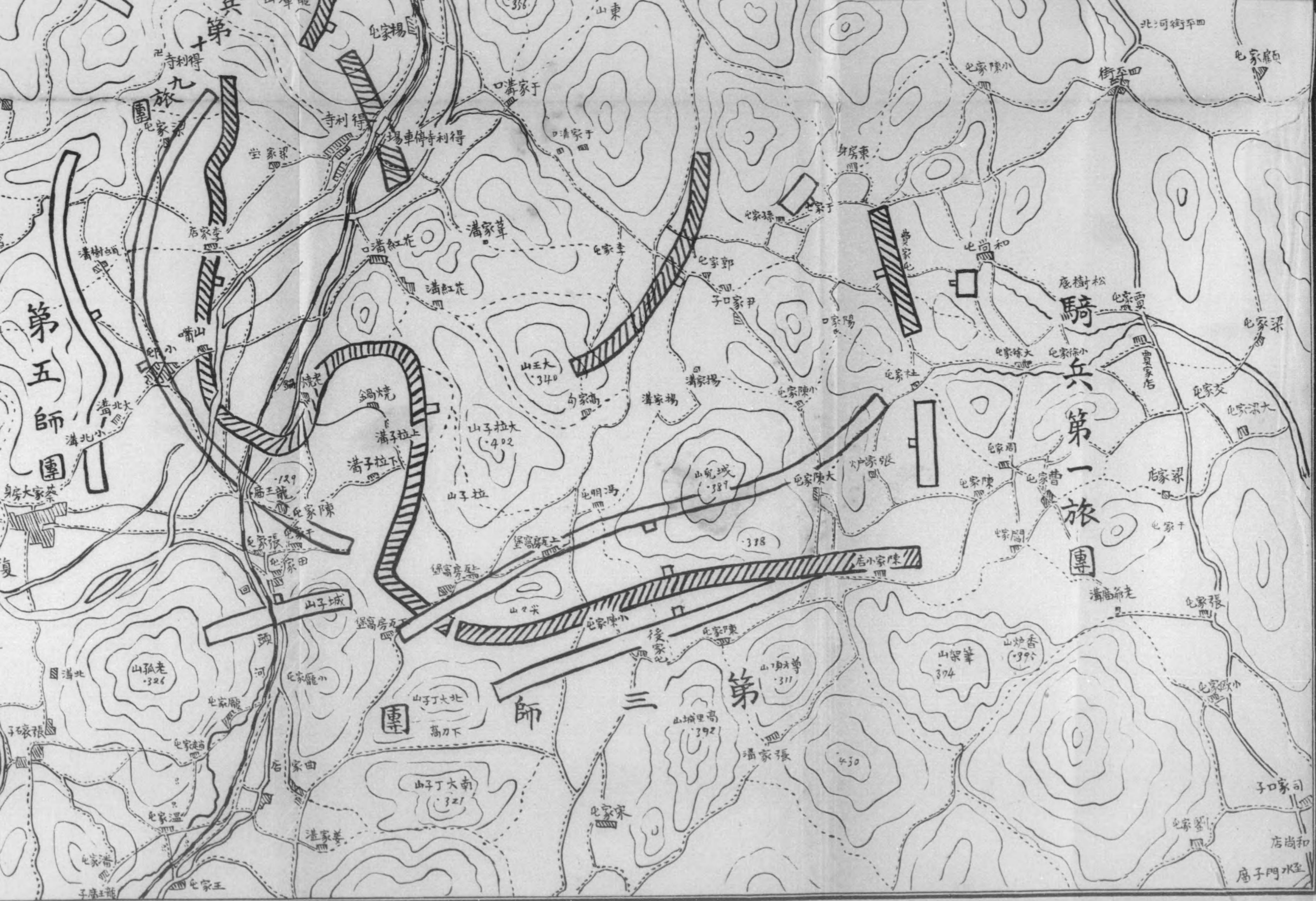




得利寺附近之戰鬥  
 50,000 日五十月六



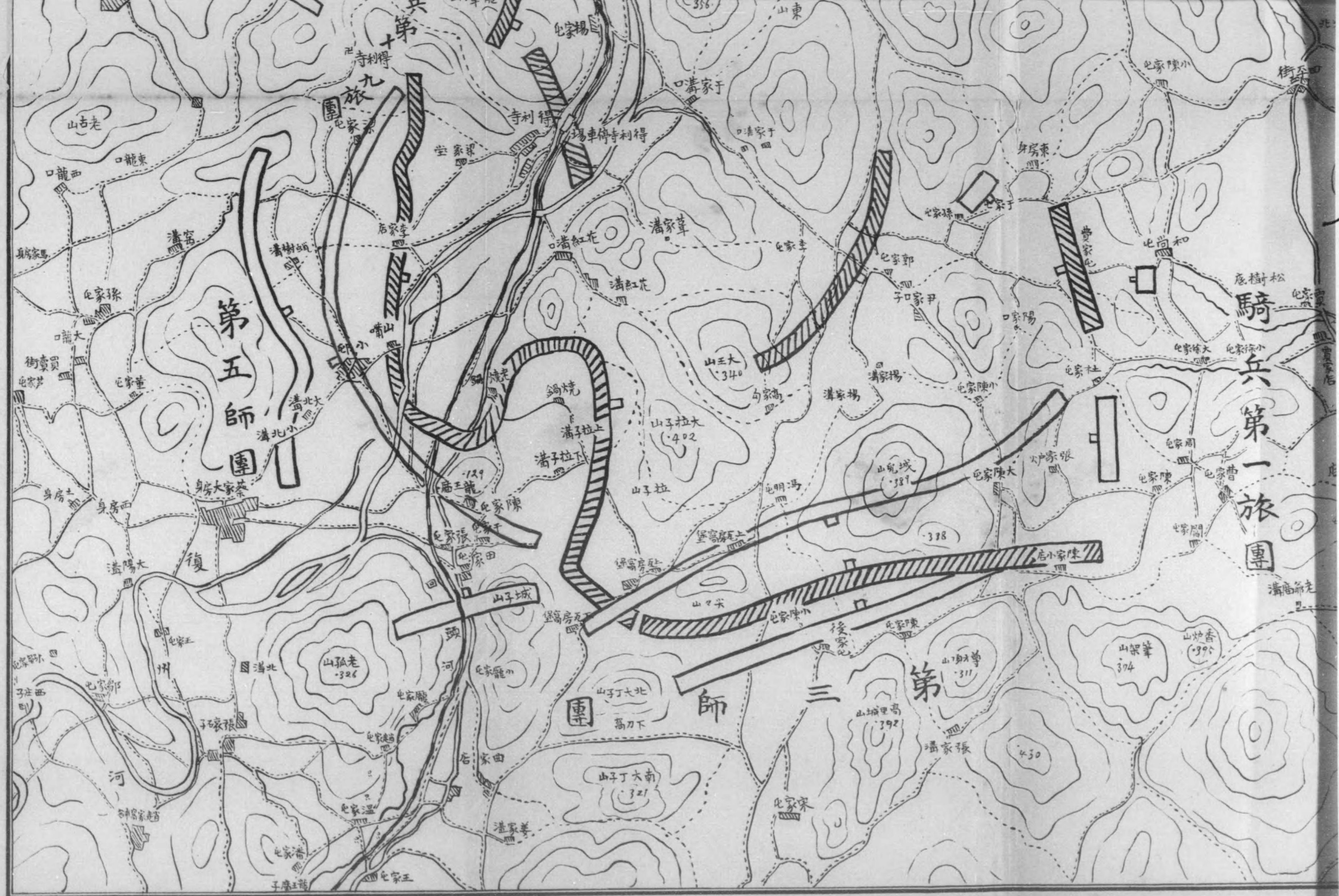




轉角房附近に宿營す。

六月十七日 降雨涼々旅團(第十四聯隊第四中隊及第十三聯隊第三中隊の一小隊欠)は午前七時出發南瓦房店  
 楡樹房を経て、尖三子に向て前進し、午前五時趙家屯(南瓦房店西北約五里)附近に到り宿營す、午後五時三  
 十分第二軍より訓令を受く、軍は十九日運動を起し、先づ熊岳城に到り、爾後更に蓋平に向ひ前進せんとなす。





第五師團

第九旅團

第一旅團

第三師團

山古老

山孤老 326

山王大 340

山子拉大 402

山兒城 387

338

山架筆 374

山炮香 395

山城里高 392

430

山子丁大南 321

口龍西

口龍東

口龍大

溝北大

溝北小

溝子拉上

溝子拉下

山子城

溝陽大

復

河

河

山子

山子

山子

山子

山子

山子

山子

山子

山子

山子

溝密

街賣買

身房土

身房西

身房大家茶

州

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

溝北

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西

子庄西



、依て旅團は熊岳城方向の敵情を搜索し、且つ遠く北方に於て、鐵道及電線の破壊を勉むべく、且つ騎兵第十四聯隊第四中隊（此中隊は第四師團獨立騎兵となり、十六日夜後柞樹派子附近に在り）を復し、騎兵第四第五第六聯隊（各一中隊欠）を配屬せらる。

六月十八日 旅團は第二軍訓令に基づき、午前九時趙家屯附近を出發し、將軍臺に向ひ前進し、蕪家屯附近に宿營し、騎兵第十四聯隊第四中隊を合す。

旅團長は將校斥候の報告により瓦房店、大房身及李官村附近に敵兵なく二臺子、團瓢、歸州附近に敵騎各三十出沒せること及土民の言に依り、熊岳城内に敵なく、城外に二、三百の歩騎兵、熊岳城停車場附近に歩兵二千砲六十門、正黃旗東南寶泉山に歩砲兵あり、又駱駝嶺より正白旗に互る高地に敵の警戒嚴重なるを知り、敵兵敗退後熊岳城附近に集合せるものと判斷し、十九日黎明搜索隊（騎兵第十三聯隊の第二第三中隊、機關砲二門にして、兩中隊共人馬を選擇せる約二小隊、隊長吉利少佐）を同方向に派遣し、且つ騎兵第十四聯隊をして、三道河大道及二道河方向を搜索せしめ、自餘の諸隊を尙ほ蕪家屯に置き、此日騎兵第四聯隊（第二中隊欠）同第五聯隊（第一第二中隊の各一小隊及第三中隊欠）同第六聯隊（第二中隊欠）來着し旅團の令下に入る。吉利搜索隊は三臺子に向ひ前進し、同夜李官村に宿營し、三臺子及歸州に敵兵無く、東扁坡子より廂蓋旗に互り敵の騎幕ありて、斥候は此方面より進入するを得ず、又土民の言に據り、敵兵熊岳城附近に若干の部隊（騎兵を主とするが如し）を殘置し、主力を蓋平方向に退けしものゝ如きを知れり。

六月二十日 旅團は先づ李官村附近に向ひ前進せんを欲し、早朝騎兵第五聯隊（第一第二中隊の各一小隊及第



三中隊欠〔種田中佐〕(第一中隊の一小隊は第三中隊の主力と共に第五師團に留り、第二第三中隊の各一小隊は復州に在り)を以て、午前七時三十分出發王家屯方向に前進して、旅團の右側警戒に任じ、騎兵第六聯隊〔長江少佐〕(第二中隊欠)をして、第三中隊(約二小隊)を大土城子より海岸道路を経て、歸州方向に派遣せしめ、爾餘の諸隊を以て八時四十分前雙岔溝附近を發し、騎兵第十三聯隊(第三中隊の一小隊欠)を前衛(司令官田村大佐にして、李官村附近の搜索隊及機關砲隊を屬す)とし、復州―熊岳城道を熊岳城に向ひ前進し、午後一時三十分李官村の北方に於て、王家屯方向に銃聲を聞き、尋て田村大佐より大石棚方向に銃聲あるの報あり、又暫くして騎兵第五聯隊より湯家屯、駱駝嶺、長嶺子附近に敵の監視兵ありとの報に接し同聯隊に命ずるに、前面の情況之を許さば、大石棚北方に到り、旅團と連絡すべきことを以てし、三時十五分高家屯後に到りて停止す。

此時前衛は二臺子に到り、吉利搜索隊を合し、騎兵第五聯隊は馬家屯西方高地に在り、六時敵の騎兵は夾石溝附近より駱駝嶺、頭臺子を経て高家窩棚に互るものゝ如く、熊岳城附近には兵力未詳の騎兵あり、是に於て前衛は日没後、張木匠溝附近に退き、前哨第四中隊を以て二臺子西南高地を占領し、騎兵第五聯隊 第一第二中隊の各一小隊及第三中隊欠)は牌坊屯附近に宿營して、旅團の右側を同第四聯隊(第二中隊欠)は團瓢附近に宿營して北方を警戒し、他は槐樹房及其附近に宿營し、同夜李官村附近に在りし第四師團先遣支隊(歩兵第八聯隊第二大隊を基幹とす)に夜間の警戒を命じて、歩兵一中隊を派遣せんことを要求す。

## 一 六月二十一日熊岳城附近の戦闘

旅團は尚ほ槐樹房附近に停止し、前面の敵情を搜索す、午前九時第四師團先遣支隊、歩兵第七中隊槐樹房附近に達す、十時騎兵第六聯隊より午前五時五十分關家屯及窰上屯には敵なく、土民の言に據れば、熊岳城に歩兵其東方杜家營に砲二門ありとの報あり、乃ち旅團は西扁坡子附近に前進せんと欲し、同時槐樹房を出發し、騎兵第十四聯隊に機關砲二門を附し前衛とし、同第十三聯隊をして右側を、同第六聯隊(第二中隊及第三中隊の二分隊欠)をして左側を警戒せしむ。

騎兵第五聯隊(第一第二中隊の各一小隊及第三中隊欠)は苗家店南方高地に在りて、第二中隊(一小隊欠)を寶泉山方向に派遣し、熊岳城方向を搜索せしめ、尋て午前八時四十分聯隊本部及第一中隊(一小隊欠)は寶泉山に向ひ前進し、九時四十五分楊家屯に達す、此時寶泉山上の土壁後に兵力未詳の敵あるを知り、駱駝嶺北方に停止せる第二中隊(一小隊欠)をして該敵の東方を経て、其背後を脅威せしめ、聯隊は八里庄方向に前進し九時五十分同地西方に達す。

騎兵第十四聯隊は第四中隊を前兵として、午前十時三十分本隊を以て東扁坡子北方に到り、三時三家子に達せし前兵より敵の監視兵の如きもの、頭臺子西方丘阜に出没すとの報に接し、即ち將校斥候を頭臺子及正黃旗方向に派遣し搜索せしむ、十一時該斥候より敵騎頭臺子方向に退却すとの報告を得、先づ第二中隊の一小隊をして頭臺子西南端附近を占領せしむ、同時二十分歩兵は九壩地に、前衛本隊は三家子に到着す、是時頭臺子及小



營子より高家窩棚に互り敵騎約一百あるものゝ如し。  
旅團長は午前十一時十分頭臺子に密集せる敵の騎兵、正黃旗に歩兵あるものゝ如き情報を得、旅團の主力を東扁坡子南方に集團縱隊に集合し、騎兵第五聯隊に命ずるに、旅團の運動に伴ひて動作し、決戦を避くべきことを以てす。

然るに同時四十五分該聯隊より寶泉山に僅少の敵兵在るが如く、我兵駱駝嶺東北高地を占領す、而して西達子營東北に敵騎約一百ありとの報を得、同時五十分前衛をして正黃旗、頭臺子を搜索せしむ、又正午豊邊大佐より頭臺子及小營子より高家窩棚に互り、敵騎約一百あるものゝ如しとの報を得、午後零時十分再び同大佐より敵騎約二小隊頭臺子より北方に退却し、寶泉山に敵兵無きの報あり、依て前衛をして尙ほ前進して敵情を搜索せしめ、更に騎兵第十三聯隊第一中隊を新前衛とし、頭臺子に向ひ運動を起せしも、同時二十五分豊邊大佐より廂藍旗に敵を見ず、又機關砲隊〔鈴木騎兵少尉〕より敵の騎兵約三中隊熊岳河を越えて前進するの報を得、本隊は西扁坡子南方凹地に移り敵の近接を待てり、同時五十分騎兵第十四聯隊は前方に銃聲を聞きて急進し、一時頃歩兵中隊は密上屯北端に、其本隊は同村西方森林に達す。

此時敵の騎兵約一中隊、熊岳城西南熊岳河堤防に據り射撃せるに依り、豊邊大佐は直に第一第二中隊をして、徒歩戦を以て攻撃せしむるや、敵兵數回の射撃の後、同時十五分北方に退却せり、依て猛烈に之を射撃し、馬上豫備隊たる第三中隊を追撃に任じ、其他を本隊として續行す、而して第三中隊は本道の下流約八百米に於て熊岳河を涉り、同時二十三分其北方約三百米の丘阜に達す、此時敵騎約一百郭家屯より前火山山方向に退却す

騎兵第十四  
聯隊熊岳城  
占領

乃ち中隊は射撃して之を東北方に潰走せしめ、尋て熊岳城西關に進み、斥候を派遣して之を追跡し、更に進みて北關を占領し聯隊に合す。

是より先前兵たる騎兵第十四聯隊第四中隊は、午後一時二十五分熊岳城に進入せんミする際、敵騎四五十の爲め、熊岳城停車場附近より射撃せられたるも、前進して熊岳城を占領し、同時三十分聯隊の主力、熊岳城北門外に達す、時に敵の一部は達子營方向に、他は三臺子方向に退却するを見、直に第一中隊を金家屯方向に派遣し偏坡子、篋箕塞方向を搜索せしめ、第四中隊の一小隊を熊岳城停車場方向に派遣し、主力は熊岳城北方四百米の獨立家屋に停止し、同中隊の残餘は熊岳城北方二千米附近に在りて、唐家屯、前火山、萬福莊方向を警戒せり。

旅團主力の  
頭臺子前進

午後一時三十五分旅團は、騎兵第六聯隊より增壽堡附近に敵の騎兵約一百五十ありて、其主力は大房身より郭家屯方向に退却せしが如く、又敵の騎兵約一聯隊午後零時四十五分、熊岳城南方渡場を北に向ひ渡過すとの報を得、一時四十分前進して、頭臺子南端に到りし時、前衛の熊岳城南方河岸の線に據れる敵を攻撃せんミするを知り、停止して情況の推移を待つや、二時に至り敵騎二、三十午後一時二十分熊岳河を涉りて退却し、我騎兵之を追ひ、而も熊岳城既に我有と爲り、同城北端に銃聲あるが如き情報を得、歩兵及機關砲隊をして頭臺子に前進せしむ。

尋て騎兵第十四聯隊より熊岳城占領に關する報告及、新前衛たる同第十三聯隊第一中隊より敵兵火山石山（後火山附近の高地を指す）に停止せるが如く、北關北方に少數の敗殘兵あり、前衛は熊岳城南關に達すとこの報を



得、同第六聯隊をして熊岳城に到り、騎兵第十四聯隊を援助せしめ、且つ諸隊を宿營に就かしむ。  
騎兵第六聯隊（第二中隊及第三中隊の二分隊欠）は午後三時二十分同第十四聯隊に合し、此夜九壩地に宿營す。初め騎兵第十四聯隊は、熊岳城北關附近に於て、午後二時十五分より三時二十分に亘り、敵の騎兵約一中隊正白旗より紅旗堡方向に、約三中隊鐵道線路に沿ひ藍旗に、尙ほ一中隊は李家屯より三臺子に、他の一中隊は萬福莊より達子營を経て、藍旗方向に退却せるを知り、熊岳城附近には敵の隻影を見ず、乃ち五時に至り、第四中隊に歩兵一小隊を附して熊岳城北部に置き、北方を警戒せしめ、他は崙上屯及其附近に宿營す。  
是より先騎兵第五聯隊は、八里庄西方に在りて旅團命令に基づき、寶泉山の敵を其左側背より脅威せんと欲し、第二中隊（一小隊欠）を差遣す、該中隊は午前十一時祭家屯北方森林に達し、其一小隊を同山麓に進ましむるや、敵の急射撃を受け退却せり、乃ち中隊は徒歩戦を以て之を收容し、後聯隊に歸還す、此間聯隊長種田中佐は第一中隊（一小隊欠）を率ゐて前進し、同時三十分頃第二中隊を併せ、祭家屯北方森林に徒歩戦の準備を爲し、寶泉山の敵に對せり。

當時第五師團先進支隊に屬する、井上歩兵少佐の指揮せる、騎兵第五聯隊第一中隊の一小隊及同第三中隊（二小隊欠）は午前十時三十分頃、候家園子東北林縁の敵兵と徒歩戦を爲し之を驅逐し、同地に在りて寶泉山の敵に對せり、午後零時三十分頃同山の敵兵退却せしに因り、第五師團先進支隊の騎兵と共に直に之を占領し、先づ第一中隊の一小隊をして追蹙せしめ、尋て第二中隊（一小隊欠）前進し、三時三十分頃兩隊相次て熊岳城停車場に進入し、騎兵第十四聯隊第四中隊の一小隊と合し、正黃旗附近に宿營す、豫て復州に在りし第二中隊の

一小隊復歸せり。

旅團の本隊は此夜頭臺子に宿營し（爾後七月五日迄此地に在り）午後七時迄に敵の騎兵約六中隊午後四時三十分頃東柳業屯附近に集合し、後沙河子附近に退却し、其の警戒線は文家屯より小河沿に互れるを知り、旅團長は同夜命令を下し、明日各聯隊をして退却せし敵情を搜索せしめ、且つ集成中隊（騎兵第十四聯隊の一小隊半同第四第五第六聯隊の各半小隊（將校の率ゐるもの）より成り、騎兵第十四聯隊の森田大尉之を指揮す）を編成し、熊岳城より雙臺子、揚石房、三道溝を経て花紅溝に派遣し、岫巖方向の友軍と連絡し、且つ蓋平、大石橋間の鐵道電線を破壊せしむ（此隊は二十二日準備を畢り二十三日出發せり）。

六月二十二日 旅團は騎兵第十四聯隊第一中隊を熊岳城―蓋平道上に、同第五聯隊第二中隊より一小隊を三臺子方向に、同第六聯隊第一中隊より一小隊を二道河方向に派遣して搜索に任せしめ、機關砲二門を騎兵第十四聯隊に増加す、而して敵の騎幕は三臺子、藍旗、二道河に互り警戒嚴密にして、我斥候の進入を許さず、土民の言に依れば、沙崗臺に敵の歩騎兵約一千砲二十門沙崗臺、蓋平間に歩兵約一萬五千砲七、八十門ありと、依て旅團は明日沙河子附近に前進して之を明かにせんす。

六月二十三日 黎明騎兵第十三聯隊より、將校斥候を沙河子方向に、同第十四聯隊より第二中隊を萬福莊、深井子附近を経て沙崗臺方向に派遣し敵情を搜索せしめ、旅團は午前七時四十分頭臺子附近を出發し、騎兵第四聯隊（第二中隊欠）に機關砲一小隊を附し前衛とし沙河子に、同第五聯隊（第三中隊欠）を右側衛とし唐家屯、三臺子を経て太平莊に、同第六聯隊（第二中隊及第三中隊の二分隊欠）を左側衛とし萬福莊、冷水河を経て、



孫家屯に向ひ前進して三臺子、藍旗、甯白旗附近に互る敵の騎幕を撃破し、太平莊、沙河子附近に進出ず、然るに敵の騎兵七、八中隊は沙崗臺附近に退却し、其後方の情況を知る能はず、夕に至り頭臺子附近に歸還す。

六月二十五日 旅團は騎兵第六聯隊（各中隊は二小隊にして人馬を撰拔し）及機關砲二門を以て進家山を占領し、同第十三聯隊第一第二中隊（各中隊二小隊にして人馬を撰拔し）を吉利少佐指揮し萬福莊を経て陸家屯、深井子方面に進出し、與に沙崗臺附近の敵情を搜索せしむ、乃ち兩騎兵隊は午前九時頃協力して、沙崗臺より熊岳城に向ひ、前進せる敵の騎兵約三中隊を進家山附近に於て撃破し、騎兵第十三聯隊の搜索隊は午後二道河に前進し、夕に至り頭臺子附近に、同第六聯隊は夜に入り九壠地に歸還せり。

森田大尉の率ふる集成騎兵中隊は、是日李家店を發し三道溝に向ひ前進し、途中龍王廟に宿營し、二十六日三道溝に到り、敵情搜索中龍王廟及方家屯附近に、敵の騎兵約二百到着し、又羅家屯附近にも若干の敵騎あるを知り、直に松樹底下に退き同地に宿營し、翌二十七日再び老爺廟北方高地に到りしも、敵の騎兵約二百我背後に迫るを知り、揚石房方向に退却し、午後二時四十分同村東方高地に達し、敵騎約二十を驅逐して于家屯に宿營せり。

六月二十七日 旅團は所屬の騎兵第五聯隊（一中隊欠）を原師團に復歸せしめ、更に騎兵第三聯隊（第二中隊欠）を配屬せらる、此隊は正黃旗に到り旅團に合せり。

騎兵第十三聯隊第三中隊（一小隊欠）は敵情の監視に任じ、進家山に向ひ前進中午前六時三十分前火石山に於て、將校斥候の報告に依り、敵の騎兵約一百藍旗より南進し、尙四、五百騎の後續するを知り、前火石山を占

領し之を邀撃せんとせり。

幾くも無く敵の騎兵約一百散開し、他は密集して跟随し、復州—蓋平道と鐵道線路の間を南進せるを以て、之を射撃するや、直に其約五十騎我に對し他は依然行進を繼續し、別に騎兵約一百五十號房より大鐵に向ひ前進せしに依り、范家園に退きしも、敵の一部隊前火石山に現はれ、再び射撃を交換するに至れり、時に七時四十分頃なり、尋て我歩兵第八聯隊第七中隊の一部范家園東南約五百米の地に進出せしに依り、暫く西關附近に退却せり。

團山子に分遣せる騎兵第十四聯隊第二中隊（二小隊欠）廿五日以來日々交代して、熊岳城兵站司令部川船の監視並に海岸警戒に任ぜり）は午前七時三十分敵の騎兵約二中隊號房より大鐵南方丘阜に前進せしに依り團山子に在りし歩兵第八聯隊第六中隊の一分隊（廿六日より派遣せるもの）と共に、同村北端及其西方丘阜に據り禦きしも、敵兵漸次増加して益々前進せるが故に、歩兵と共に團山子東南約六百米の地に退却し、同時南端に現出せる敵と徒歩戦を以つて攻撃せるも、十時三十分頃熊岳城方向に砲聲轟き、我騎兵第六聯隊吳家屯渡場附近に進出するや、敵兵北方に退却せしに因り、歩兵部隊と共に大鐵迄追躡し夕に至り各歸還せり。

旅團の主力は警報に接し、騎兵第十三聯隊第四中隊を熊岳城に、同第十四聯隊（第二中隊の三小隊欠）の主力を杯廠、第四中隊を團山子に、騎兵第六聯隊（第二中隊欠）を吳家屯方向に派遣して警戒し、同第四聯隊第二中隊欠）及機關砲二門を大房身に派遣して、甯藍旗に在る旅團の縦列（地方車輛を以て臨時編成せるもの）にして、主として糧食を積載す）を掩護せしむ、乃ち此諸隊は概ね午前十時より約三十分の間に於て、各其守備



地に達し陣地を占領せるも、戦闘するに至らずして午後二時頃歸還せり。  
 此日來襲せる敵は騎兵約九中隊にして、若干の支援歩兵部隊ありしものゝ如くにして、騎兵大尉以下死屍十五を戰場に遺棄し、漸次北方に退却し、夕に至り其騎幕は大馬園子、小河沿、草房の線にあり。  
 六月二十八日 旅團は後火石山附近の第四師團先進支隊の退却を掩護し、且前面の敵情を搜索せんと欲し、騎兵第三聯隊を以て、古家子杜家營に在りて、旅團の右側を警戒せしめ、同第六聯隊第一中隊の約一小隊を郭家屯を経て大鐵方向に派遣し、團山子の騎兵第十四聯隊第四中隊（二小隊欠）（正午頃第一中隊（二小隊欠）を交代す）と連絡せしめ、同第十三聯隊を前衛とし、午前七時三十分頃臺子を出發し、熊岳城を経て萬福莊に向ひ前進せしめ、自餘の諸隊を本隊とし、前衛に續行して、前火石山に進出す。  
 當時敵の主力は悉く沙崗臺附近に退却し、其騎幕四臺子、柳樹底下、陸家屯附近に互れるを知り、夕に至り頭臺子附近に歸還す。

六月二十七日より三十日に亘り降雨歇まず、七月一日旅團は騎兵第三聯隊（第二中隊欠）同第十三聯隊、機關砲二門を（田村大佐指揮す）思拉堡方向に前進せしめ、沙崗臺及東方高地の敵情地形を偵察せしむ、敵の騎幕は李家溝より崔家屯北方高地に亘り、且つ後塔子溝附近より沙崗臺附近に亘る一帯の高地稍峻峻にして斷絶し此間の各鞍部に歩騎兵若干防禦工事を施し、守備せるものゝ如きを知れり。

七月二日 旅團は敵兵前進の報に接し、正午長谷川少佐の率ふる搜索隊（騎兵第十四聯隊第一第二中隊にして人馬を選抜せる二小隊）を後火石山附近に派遣す、乃ち同隊は午後六時蘆家屯附近に到りしも敵兵既に退却し

唯其監視兵の太平莊、李家屯及其西方高地に在るのみなりしに依り、暫時の後歸還せり。

森田大尉の率ふる集成中隊は土門子、揚石房、四方臺附近を経て龍王廟、三道溝附近に進出せしも、優勢なる敵の騎兵が家屯附近に在りて前進するを得ず、爾後老爺廟、松樹底下、張帽峪附近に出没し、旬日の間崎嶇たる山路を跋涉し、具に困難を嘗め、或は敵の大行李を襲ひ、或は第十師團と連絡し、屢報告を齎して敵情及地形を明かにし、此日頭臺子に歸還し解散せり。

七月三日 旅團は騎兵第十四聯隊、同第六聯隊（第二中隊欠）及機關砲二門を豊邊大佐に指揮せしめ、深井子方向に派遣す、乃ち該支隊は微弱なる敵を驅逐し、萬福莊、廂白旗、陸家屯を経て、午後三時三十分孫家屯に到着し、敵騎約二小隊の偏坡子に停止せるを見、機關砲二門を以て之を射撃し、沙崗臺方向に撃退せり、四時三十分敵の騎兵約五中隊鐵道線路に沿ひ前進して、滾箕寨西方に開進し、其騎砲兵約一中隊、同村東端より射撃せるに依り、漸次退却して歸還せり。

七月五日 敵兵依然沙崗臺附近の高地線を占領し、其騎兵五、六中隊及騎砲兵一中隊は正午頃、騎兵第四聯隊及機關砲二門より成る搜索隊を壓迫し、藍旗附近迄前進し激烈なる砲撃を加へたるを以て旅團は警戒集合し、戦闘準備を爲せるも、午後二時三十分頃より漸次北方に退却せしを以て、四時宿營す。

旅團は第二軍の運動に伴ひ前進を起し、初め正面に在りて軍の運動を庇掩し、後左側に移り敵情を搜索し、兼ねて軍の左翼を警戒すべき任務を以て、左記要旨の命令を下せり。

一、敵の一部は沙崗臺の高地を占領するものゝ如し、其騎兵五、六中隊、騎砲兵一中隊は藍旗附近にて、我搜



索隊を壓迫し來り激烈なる砲撃を加へしが、其後前進の模様なし。

軍は明日前進を開始し、先づ金家勾、二道河の線に前進す。

軍の第五師團は敵の左側背脅威の目的を以て、大廟嶺、四方臺、前塔子溝以東の地區を前進す、第三師團は午前四時出發、九才寨、祭家屯、東達子營、古家子、望山子、丁山堡以東の線に向ひ前進す、又歩兵一大隊を前進せしめ、思拉堡、北溝附近に前面の地形及敵情を偵察す、第六師團は午前四時三十分出發、九才寨、祭家屯、東達子營、望山子、丁山堡の線以西復州、蓋平道以東の線を経て、八家子、小藍旗の線に前進す、第四師團は午前四時三十分出發、復州、蓋平道以西の地區を経て、小藍旗、二道河の線に前進す。

二、旅團は明日宿營地出發、蓋平街道を前進し、軍の正面に在りて軍の運動を掩護し、後左側に移り敵情を搜索し且つ軍の左側を警戒す。

騎兵第三聯隊は明日午前五時宿營地出發、吐家營、丁山堡を経て賀家店方位に騎兵第六聯隊は明日午前五時出發、熊岳城、唐家屯、四家屯を経て沙崗臺方位に前進し、其他の諸隊は明日午前五時密上屯北方畑地に集合すべし。

#### 注意

旅團は明日廂白旗、大俄間に宿營する豫定。

七月六日 炎熱蒸すが如し、旅團は騎兵第三第六聯隊をして、各原師團の前進區域内を前進せしめ、騎兵第十四聯隊、第一中隊及第二中隊の一小隊を前衛とし、午前五時密上屯出發、熊岳城、蓋平道を前進し、同第

廂白旗附近  
進出

十四聯隊第一中隊及第二中隊の一小隊を右側衛とし、長谷川少佐之を指揮し、萬福莊を経て深井子方向の搜索に任じ、自餘の諸隊即ち騎兵第十三聯隊、同第四聯隊、機關砲隊を本隊として前衛に續行し、敵の騎幕を撃破し、廂白旗附近に進出して午後五時同地に宿營し、騎兵第三第六聯隊は當該師團と共に宿營す。

此日敵の主なるものは北領、沙崗臺附近に退却して同地附近を守備し、沙崗臺附近に現出せしものは騎兵七、八中隊砲兵一中隊なるが如し。

七月七日 旅團は附屬せる各師團の騎兵聯隊をして、當該師團の前進地區を蓋平方向に前進せしめ、騎兵第十三聯隊第一中隊（機關砲二門を附す）を左側衛として午前五時草房を出發し、趙家屯を経て關家屯に向はしめ主力は騎兵第十三聯隊（第一中隊欠）を前衛とし、同時三十分草房を發し深井子、蕪家屯を経て前進し、同地附近に於て左側衛に合し、午後零時五十分大望海塞に達す、當時北領、沙崗臺附近の敵は我壓迫に依り蓋平方向に退却し、其一部は石橋子附近に在りしと雖、夕に至り概ね蓋州河右岸に退却せり、旅團は午後六時大望海塞附近に宿營す。

蓋平附近の  
搜索

七月八日 旅團は午前四時三十分大望海塞東方に集合し、蓋平方向の敵情搜索並に蓋州河を偵察せんし、同時四十分騎兵第十四聯隊（第二中隊欠）を前衛とし、蕪家屯を経て蕪家屯に向はしめ、同聯隊第二中隊を左側衛として海岸を経て胡家屯方向に派遣し、海山寨方向を搜索せしめ、本隊は前衛に續行す。  
七時五十分前衛は蕪家屯北端、本隊は蕪家屯南端に達す、當時蓋平停車場は敵兵之を燒夷し、蓋州河の鐵橋も亦破壊せるものゝ如くにして、停車場及海山寨附近に敵の騎兵約二中隊あり、又范家屯及白狼山の敵の騎砲兵



七時十分頃より我斥候に對して、猛烈に射撃を開始す、乃ち旅團は海山寨に前進せんと欲せしも、障礙物に乏しく且つ道路狹隘而かも道路外の土質柔軟にして、旅團縱隊を以てすら通過すべからざる處ありしに依り、遂に鄭家屯附近に停止す。

尋て蓋州河の鐵道橋及停車場の破壊は確實にして、敵の騎兵約一旅團、騎砲兵一中隊尙ほ王家漢洛、海山寨附近に停止し、又蓋州河右岸は敵の歩、騎兵之を監視するも、前面の敵は騎兵を主力とせるが如きを知り、九時三十分騎兵第十四聯隊第一中隊をして、蓋平方向の敵情を搜索せしめ、十時蓋平及其附近の敵の騎兵約一聯隊營口方向に退却し、又其騎砲兵の如きもの、紅花峪より大石橋に通ずる本道を退却せるも、騎兵數中隊及他の騎砲兵停車場附近に在るもの、如き報告に接し依然停止し、午後四時に至り左側衛を胡家屯、前衛及自餘の諸隊を鄭家屯附近、騎兵第三第四第六聯隊を當該師團の前哨線内に宿營せしむ、尋て五時四十分敵の歩兵約二中隊澹家屯より蓋平方向に移轉し、六時十分前面の敵の歩兵約一中隊漸次澹家屯東北に集合し、又海山寨の北方及東北高地の敵兵依然其陣地に在るを知れり。

## 二 七月九日蓋平附近の戰鬪

旅團は午前四時三十分騎兵第十四聯隊（第二中隊欠）を豐邊大佐に指揮せしめ前衛とし、鄭家屯東方森林に集合し、機關砲隊を常家屯北方高地の陣地に就かしめ、騎兵第十四聯隊第二中隊を左側衛と、胡家屯に置き、騎兵第十三聯隊を鄭家屯西方畑地に集合して搜索に従事す、而して騎兵第四聯隊（第二中隊欠）も亦同地に在り

同第三第六聯隊（各第二中隊欠）は各原所屬師團豫備隊の所在地に集合せり。

第二軍の主力は午前五時より蓋平を攻撃し、彼我の砲聲殷々硝煙天を蔽ふ。

旅團は第二軍の運動に伴ひ、蓋平の敵を攻撃せんとし、午前九時二十分前進を起し（左側衛は團山子附近に於て復歸す）十時五十分海山寨北方の隘路に達し、騎兵第四聯隊之に續行す、此時諸兵連合の敵の歩兵約一聯隊半騎兵五、六中隊、砲兵一、二中隊白狼山北方約一里を退却して、趙家窩棚西方に到り停止し、又長徑約五千米の一縱隊午後一時頃朱家甸子、大平庄間を退却せしも、砲兵は尙ほ紅其廠附近に在りて我を射撃し、二時三十分に至り、其騎兵及砲兵同地より鐵道線路に沿ひ北方に退却せり。

乃ち前兵たる騎兵第十四聯隊第四中隊を追撃に任せし、雖、地形到る處沼澤にして、歩兵及單獨騎兵辛ふじて通過し得るのみにして、密集部隊は鐵道線路に沿ふの外行進するを得ず、且つ一般に開濶にして、近く敵と觸接す可からざりしに因り、同中隊は白狼山北方分二千米獨立家屋附近に停止す。

又此戰鬪間騎兵第三聯隊（第二中隊欠）は清河（蓋州河）左岸大媛泉を経て小紅旗堡附近に、同第六聯隊（第二中隊欠）は蕪麥庄、關家店を経て、郭家屯附近に進出し各搜索に勉めたり。

軍司令官は午後一時三十分蓋平附近の騎兵悉く北方に退却せるを以て、各師團に占領地域を示し宿營せしむ。蓋平附近に在りし敵は、八日以來漸次減少し、此日我軍に對せしものは、東狙兵第九師團の大部同第一師團の一部騎兵約二十二中隊砲兵六、七中隊なりしが如くにして、其抵抗眞摯ならず、遂次北方に退却せり、當時軍司令官は大石橋附近に敵の大部隊集合し、湯池附近にも亦若干の部隊あるもの、如きが故に、遠く追撃隊を派



遣するを危険とし、暫く停止して諸準備の成るを待たんとせり。

此夜旅團は各師團の騎兵聯隊を當該師團に復歸せしめ、蓋平南關に宿營す。

七月十日 諸兵連合の敵兵尙ほ神樹山、五臺山、黃糧堆の線を守備し、且つ大石橋附近に強大なる部隊あるが如きが故に、全力を擧げて之を攻撃するに非ざれば、成功得て期すべからずと雖、當時大石橋附近攻略後に於ける給養確實ならざりしに依り、其準備を完了したる後に於てせんとし、第二軍は暫時蓋平附近に停止す。旅團も亦停止して斥候を派遣し、蓋平北方の敵の陣地を偵察す。

七月十二日 旅團は騎兵第十三聯隊より搜索隊（第二第四中隊より一中隊を編成し、吉利少佐之を指揮す）を太平山方向に派遣して敵情を搜索せしむ（蓋平西北は一面鹽田にして馬脚を没し、前進困難を極む）敵情大なる變化なきを認め、午後七時蓋平に歸還す。

七月十四日 總司令官大山元帥は大連に上陸す。

第二軍司令官は騎兵旅團に騎砲兵を有せざるが故に、搜索警戒に威力を缺くを遺憾とし、殊に今後遼河河蓋に進出せば、益々砲兵の必要あるべきを慮り、蓋平占領後七月十八日砲兵第一旅團の各聯隊より砲車、彈藥車各二輛を割きて六門中隊を編成（野戰砲兵第十三聯隊第二中隊第十四聯隊第一中隊第十五聯隊第三中隊の各一小隊より成る）し我騎兵旅團に屬せらる。

敵は依然太平嶺附近より青龍山附近を経て牛心山に互り陣地を占領し、防禦工事を施し湯池、神樹山、五臺山、黃糧堆に諸兵連合の前進部隊ありて、其騎幕は媽虹嘴子附近より黃糧堆、藍旗廠の線にあり、且つ日々一部隊

を我陣地に接近せしめて偵察し、又屢々砲撃を試めり

軍は大石橋附近の敵を攻撃する目的を以て、二十二日より前進せんを欲し、二十日前進命令を下し、我騎兵第一旅團（騎兵第三第六聯隊（各一中隊欠）を附す）は蓋平―海城道以西の地區にありて軍の左側を警戒し兼て敵の背後を搜索すべきを命ぜらる。

十九日よりの降雨二十一日尙ほ歇まず、爲に道路泥濘野砲の運動不可能と爲れり、然るに軍の目的は陣地に據れる敵を強襲するに在るを以て、切に砲兵の協力を要せしに依り、軍司令官は二十一日午後二時命令を下して、糞の軍命令實行を延期せるも、二十二日天候稍回復せるに依り、二十三日前進運動を開始すべく、同日午後三時命令を下せり。

七月二十二日 旅團長は命令を下し、明二十三日騎兵少佐吉利梯輔の率ゐる騎兵第十三聯隊第一中隊、騎砲兵中隊をして、午前三時宿營地出發紅旗廠、黃糧堆を経て太平山、牛心山方向に前進し搜索に任じ、同第十三聯隊を前衛とし、四時三十分王母欄子出發海山寨、紅旗廠を経て黃糧堆に向ひ前進し、本隊をして之に續行せしめんとす。

七月二十三日 第二軍は大石橋を攻撃せんを運動を開始す、旅團（騎兵第三第六聯隊（各一中隊欠）騎砲兵中隊（林砲兵大尉）を附す）は午前四時王母欄子西北に集合し、騎兵第十三聯隊第三中隊及騎砲兵中隊を先遣して、第四師團左翼隊の黃糧堆攻撃を援助せしめ、五時騎兵第十三聯隊（第三中隊欠）を前衛とし、本隊之に續行し、同時三十分白狼山東北標高八五高地の西に達す、此時未だ砲兵を見ず依て更に前進し（此地附近は温



地にして運動容易ならず、旅團は廣田隔の半距離隊と爲れり。途中騎兵第十四聯隊第四中隊をして、營口方向を搜索せしめ、七時趙家窩棚に達す。

是より先吉利少佐の率ゐる部隊は未明同地に達し、其騎砲兵中隊は該地北方丘阜より黃糧堆の敵の歩、騎兵約三中隊を攻撃するや、須臾にして敵兵退却す、十時騎兵第三聯隊（第二中隊欠）を以て、第四師團の左翼を連撃して黃糧堆を占領し、騎砲兵中隊は其南方丘阜に放列を布き、騎兵第十三第十四聯隊及機關砲隊は砲兵陣地の後方に（騎兵第十三聯隊第二中隊を紅旗廠に派遣す）騎兵第六聯隊（第二中隊欠）は紅旗廠南方に位置す。正午敵騎約二中隊前方約三千米の鐵道監視家屋に前進せるも、我騎砲兵の砲撃に依り直に退却せり。爾後旅團は同地に在りて軍の左翼を警戒し、此夜騎兵第十三聯隊を以て黃糧堆、媽虹嘴子間に宿營し、鐵道以東の地を、同第十四聯隊を以て紅旗廠、趙家窩棚の間に宿營し、鐵道線以西の地を警戒せしめ、他は前媽虹嘴子及飛雲寨に宿營す。

### 三 七月廿四日大石橋附近の戰團

旅團は第四師團の左側に在りて、軍の左側を警戒すべき任務を以て、午前四時三十分より黃糧堆南方に位置する。こ前日の如し（軍命令を以て機關砲隊は第四師團塚本少將の指揮下に入る）六時四十分騎兵第三聯隊（第二中隊欠）を黃糧堆に同第六聯隊（第二中隊欠）を紅旗廠に派遣す、騎兵第十三第十四聯隊に代りて警戒に任せしむ。

午後に於ける状況

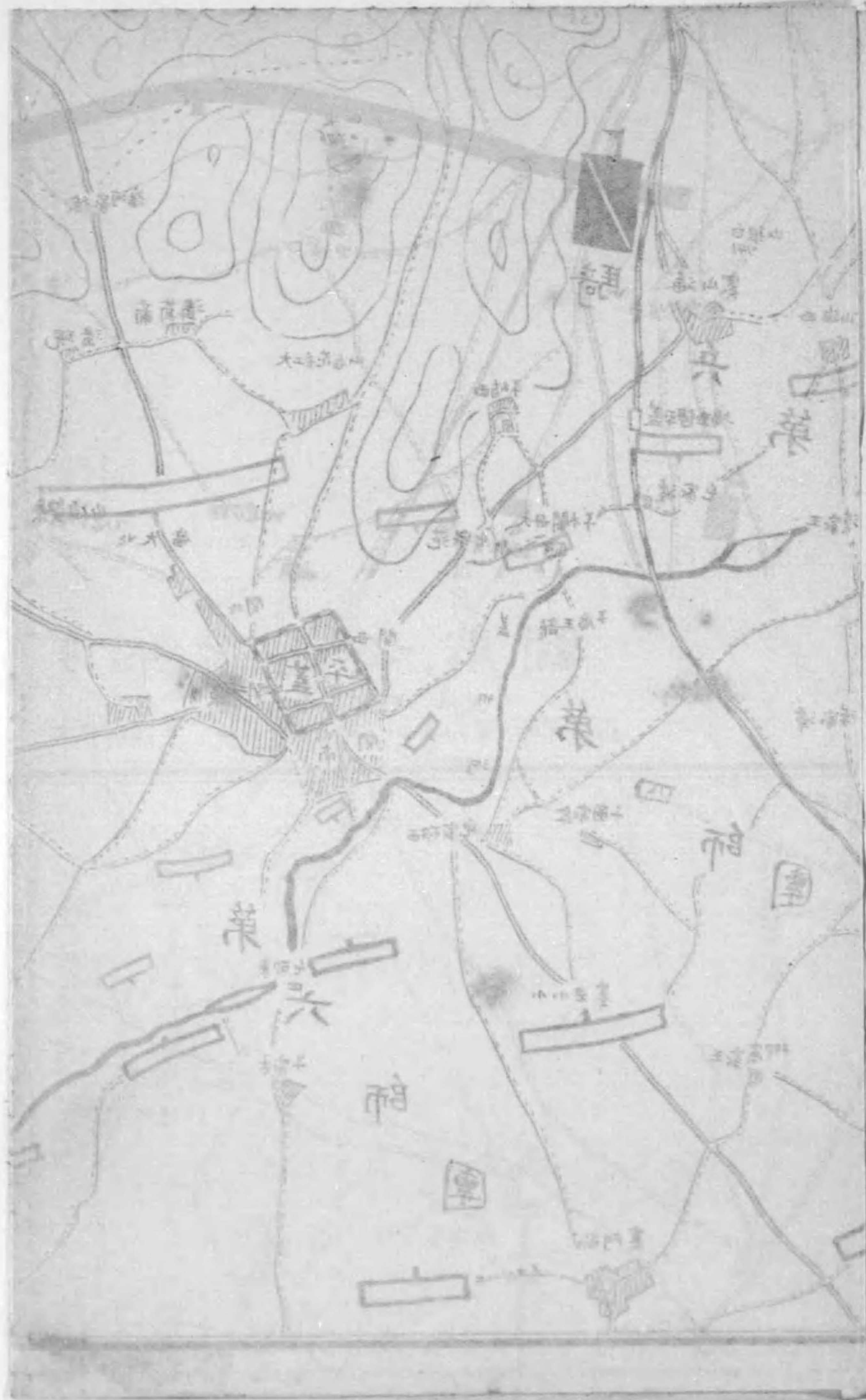
當時敵の騎兵は三家子、頼家窩棚の線に在り又藍旗廠附近にも微弱なる敵の監視兵あり正午旅團は黃糧堆附近に移り騎砲兵中隊をして黃糧堆南端高地に放列を布かしめ騎兵第三聯隊（第二中隊欠）を同村東端に同第十三第十四聯隊を砲兵陣地の南方約二千米に同第六聯隊（第二中隊欠）を依然紅旗廠に位置せしむ然るに此附近は一帶に土地濕潤にして道路の外騎兵の運動に適せず而も道路も亦泥濘にして往々砲車の通過困難なる處あり且つ畑地は高粱高く繁茂し高地の外砲兵陣地を爲す可からず元來旅團は第四師團の左翼を前進して三家子附近に達せば更に前進せんとするの企圖を有す。雖地形困難にして遂に之を果す。こ能はず依然停止せり。

午後一時二十五分敵の騎兵約五中隊頼家窩棚西端に現出するや我騎砲兵中隊之を砲撃して潰走せしむ四時十分敵の騎砲一中隊又李家窩棚北方に現出し右側師團に屬せる砲兵第十四聯隊を側射す依て我騎砲兵中隊は之を側射し沈黙せしめたり尋て砲兵第十四聯隊より左側危険なりとの通報を得乃ち同時三十分騎兵第十四聯隊を三家子に派遣し第四師團の左側を警戒せしめ六時より騎兵第三聯隊（第二中隊欠）を黃糧堆に置き王家窩棚、鐵道線間を、同第六聯隊（第二中隊欠）を紅旗廠に置き鐵道線以西の地區を警戒し同第十三聯隊を王家窩棚間に、第十四聯隊を三家子（夜半三家子南方約一千五百米の畑地に退き露營す）に騎砲兵中隊を黃糧堆に宿營せしむ。

七月二十五日 旅團の主力は午前四時三十分黃糧堆附近に於て待機の姿勢に在り八時三十分騎兵第十四聯隊より商家臺附近に敵を見ず牛心山に二、三の監視兵あり又田家屯及後孫家崗子の線に敵の歩哨の如きものあり。この報を得乃ち騎兵第三聯隊（第二中隊欠）騎砲兵一小隊を黃糧堆に留め騎兵第六聯隊（第二中隊欠）を依然紅

太平山附近に於ける第四師團の政





營口占領

旅團に置き鐵道以西の地區を警戒せしめ主力を以て三家子に向ひ前進す。尋て騎兵第三聯隊（第二中隊欠）騎兵一小隊を前進せしめ十時商家臺に到着し第四師團右翼隊の既に田家屯、牛心山の線を占領せるを知り騎兵第十四聯隊を太平山方向に派遣し續いて主力も亦同地に前進し更に騎兵第六聯隊（第二中隊欠）をして營口方向の搜索に任じ正午に至り商家臺に在りて第四師團より復歸せる機關砲隊を招致す（同隊は午後三時東太平山に到り旅團に合す）

旅團は午後一時東太平山に到着す時に大石橋、太平山間に在りし敵は悉く北方に退却し迷真山附近に微弱なる敵の監視兵あるのみ乃ち旅團は同地に停止し營口附近の敵情を搜索し明廿六日軍の運動に伴なひ動作せんと欲し此夜騎兵第六聯隊（第二中隊欠）をして塘窪附近に宿營せしめ更に三時騎兵第三第十四聯隊より集成中隊（第三聯隊第一中隊第十四聯隊第三中隊）の各一小隊より成り土屋大尉之を指揮すを編成し營口を占領せしめ他は四時命令を下し太平山附近に宿營す六時三十分に至り前面の敵を追撃すべき軍命令（午後二時十分發）を受領し第二軍の大石橋北方丁家溝、李家屯の線に進出せんとするを知りしに雖日既に没せしに依り唯斥候を以て追蹙せしむ。

土屋大尉の率ふる集成騎兵中隊は午後七時營口に達し同地に宿營す從來屯在せし敵の歩兵約四千騎兵三、四百砲十門午前四時頃より東北方に退却し其一部は前石橋子附近に停止せるものゝ如きを知れり當時營口停車場の糧秣倉庫及其他の建築物亦概ね敵の燒夷又は破壊する所となれり。

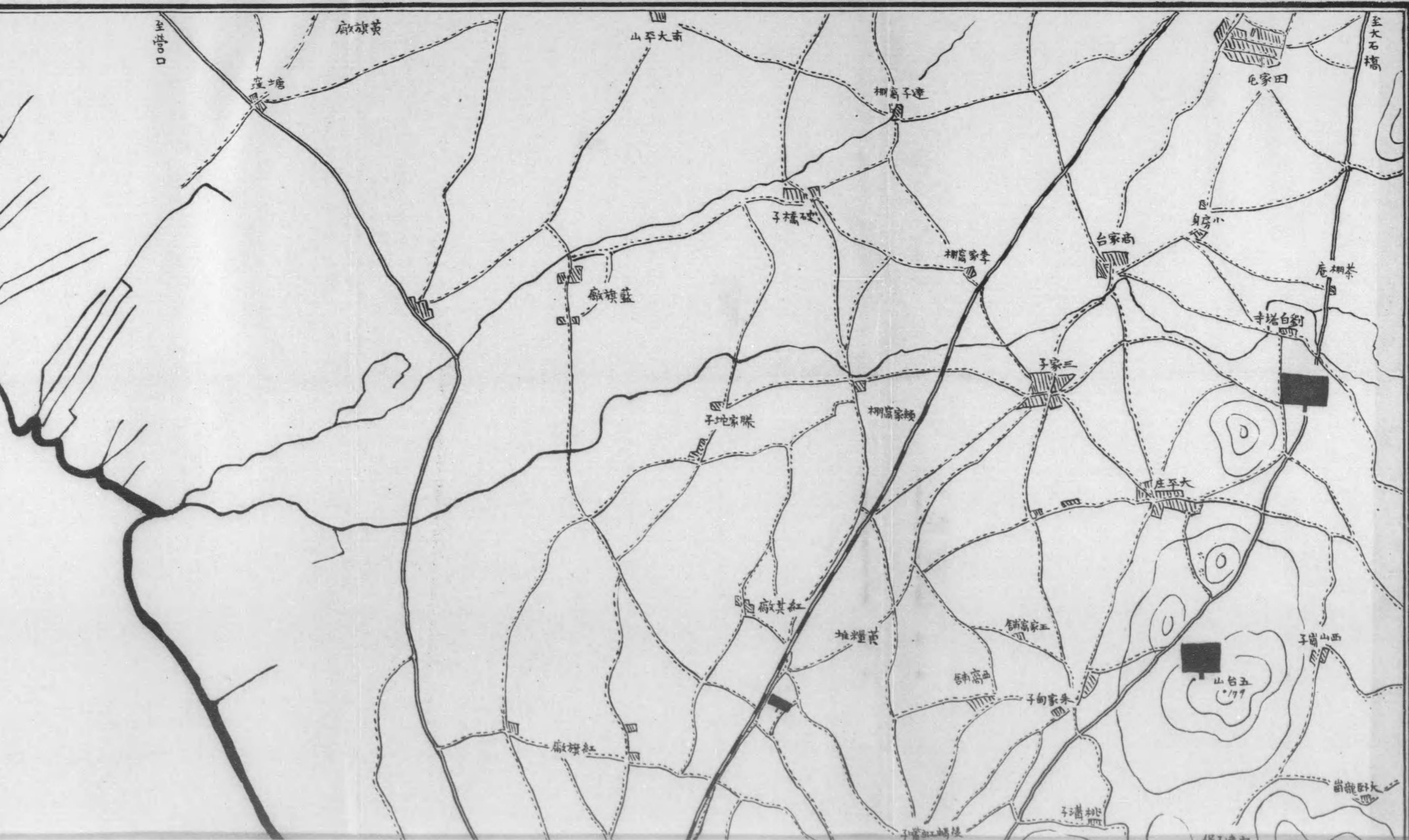
七月二十六日 旅團は騎兵第六聯隊（第二中隊欠）をして午前三時三十分塘窪出發、前石橋子（營口停車場東



# 蓋平附近之戰鬪

7  
50,000

置位，頃時五前午，白  
置位，頃分十三時二後午，■ 日九月七

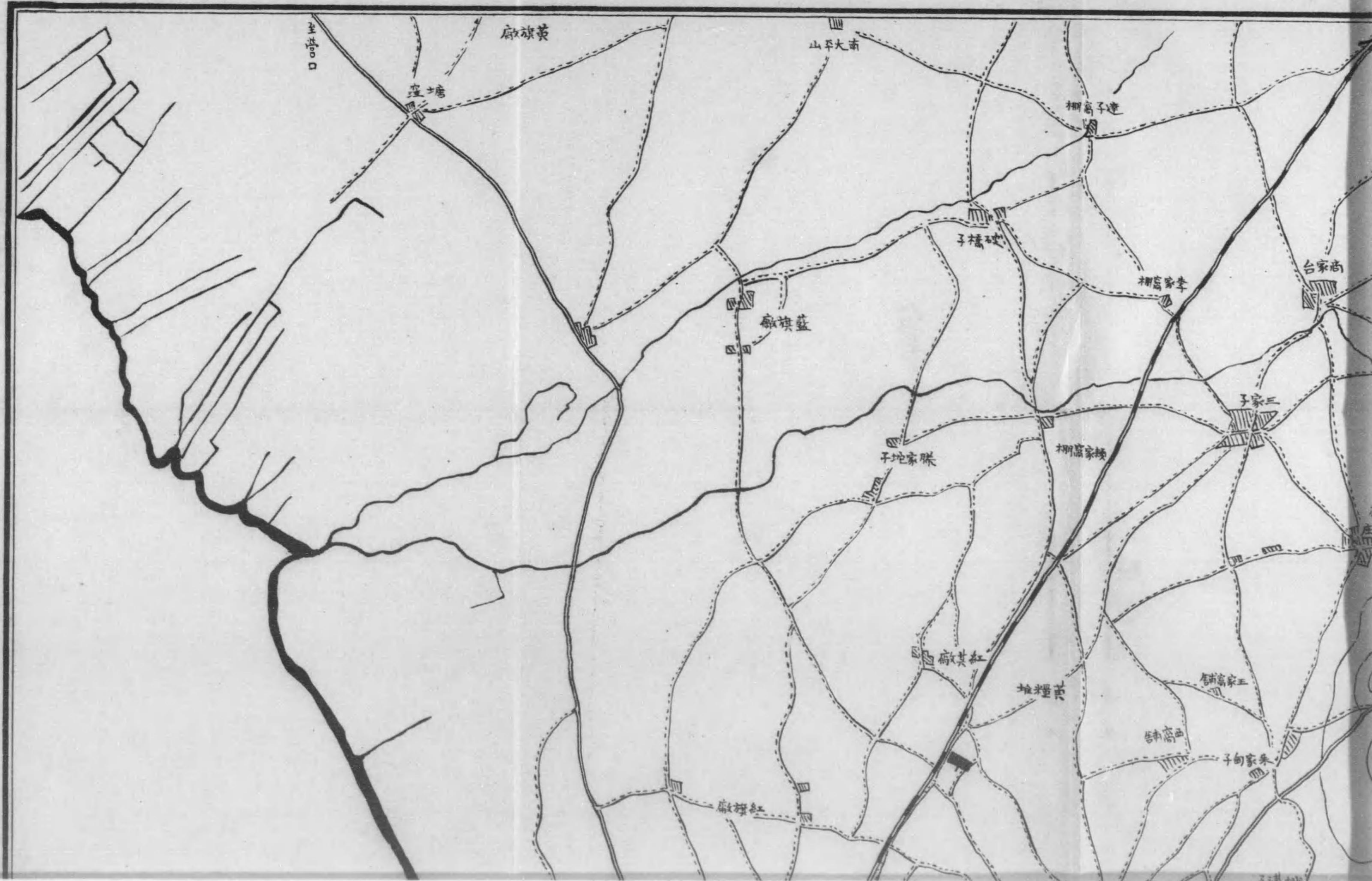




# 蓋平附近之戰鬥

7  
50,000

置位：頃時五前午八  
置位：頃分三時二後午八  
日九月七







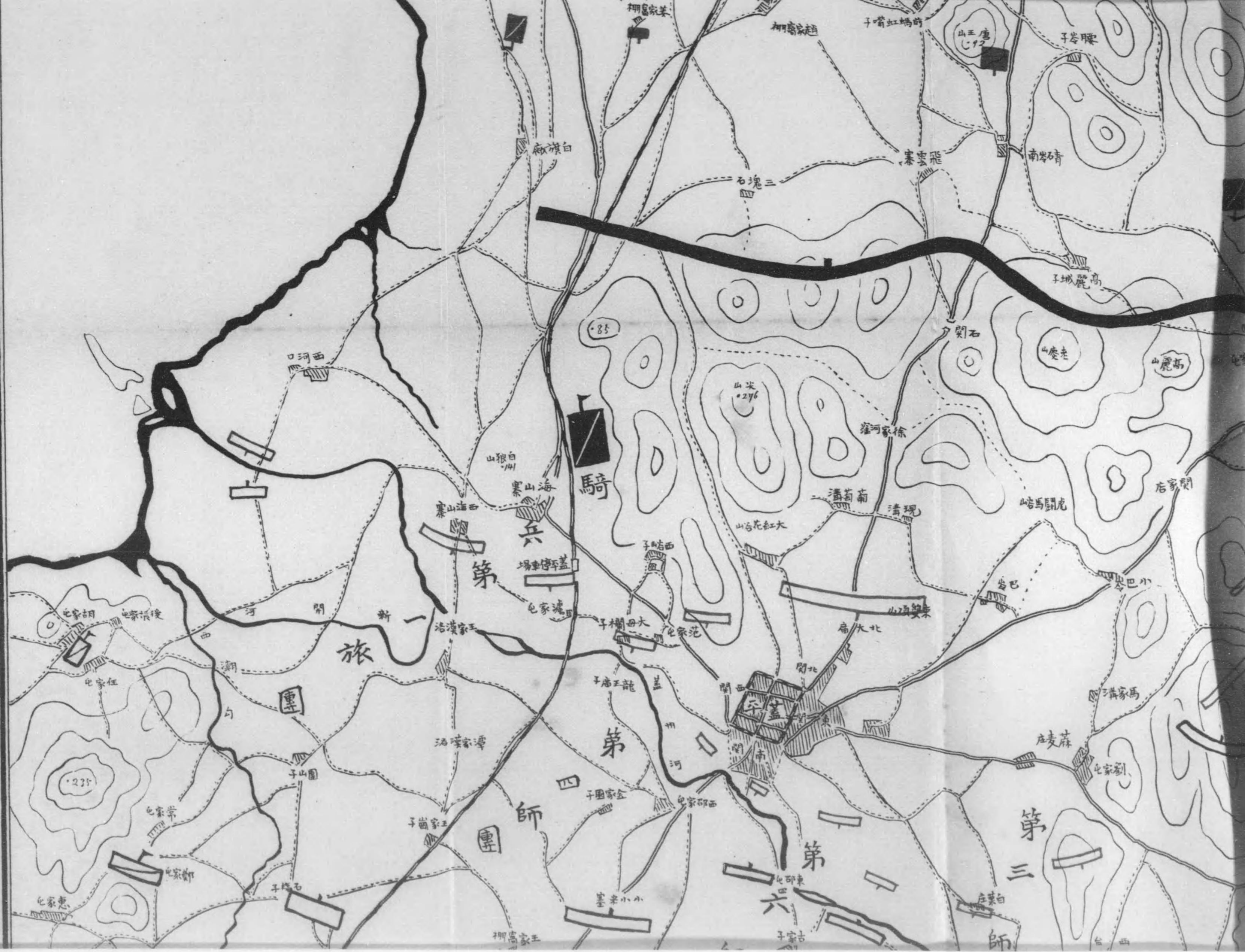












山王店  
292

寨飛

寨山海

寨山西

山尖  
276

85

旅

馬

第一

第一

師

第一

第三

師

子嘴虹媽前

子岩腰

南岩青

子城麗高

關石

山慶老

山麗高

窪河家徐

潘菊菊

清現

峪馬關虎

店家關

山狼白

寨山海

場車停蓋

屯家橋

子峪西

山杏花紅大

子關西大

屯家范

廟火北

山頂梁東

岩巴

寨巴小

屯家胡

屯家橋

屯家任

河

新一

治漢家王

子廟王龍

關西

關南

關東

關北

溝家馬

庄麥蘇

屯家劉

235

屯家常

屯家柳

屯家惠

子山園

子崗家王

治漢家王

子園家金

屯家邵西

墓老小小

屯家邵東

子家古

庄菜白

柳崗家王





第四圖







北約三里)大高利方向に前進せしめ且つ別に騎兵第十三聯隊より感王寨(海城西南四里)又同第三聯隊より復家油坊(營口停車場東方二千米)方向の敵情を搜索せしめ他の諸隊は四時太平山東麓を出發老營附近に前進し此夜同地に宿營す。

第二軍に左の勅語を賜りたり(七月三十日)

第二軍ハ大石橋附近ニ於テ優勢ナル敵ヲ攻撃シ尋イテ第五師團ヲシテ夜襲ヲ爲サシメ終ニ大ニ之ヲ敗リ防備堅固ナル陣地ヲ陥レ併テ營口ヲ占領シ水路ノ利ヲ收ム。

朕深ク每戰善ク其功ヲ奏シタルヲ嘉ス

#### 四 七月二十七日海城附近の戦闘

旅團は騎兵第三聯隊第三中隊を蔡家堡子に、同第六聯隊第三中隊を雙井子に置き、前方の敵情を搜索し騎兵第十三聯隊(第二中隊穴機關砲二門を附す)を後石橋子附近に派遣して海城方向を搜索せしむ、乃ち騎兵第十三聯隊は前進して朱家屯に停止中午後二時頃下土臺に派遣せし監視哨退却し來り、我歩兵將校斥候(歩兵第九聯隊第十一中隊の二分隊)と共に同地に於て敵騎五、六十に遭遇せし報を得、直に第三中隊を進めて之を誘致せしむ、敵の騎兵約一中隊、下土臺西端に於て徒歩戰を爲せしに因り、聯隊の殘餘は機關砲二門と共に、朱家屯東端に徒歩展開し攻撃して之を退く、後土民の言に依り二十五日諸兵科より成る敵の一隊營口方向より來り、其夜感王寨に宿營し、二十六日海城方向に去りたるを知り、第四中隊及機關砲二門(吉利少佐指揮す)を朱家



屯に留めて午後八時頃老爺唐に歸還す。

土屋集成騎兵中隊は騎兵第十三聯隊の一小隊を營口守備隊に屬し歸還せり。

七月二十八日 旅團は午後三時集成騎兵中隊（騎兵第三第六第十三第十四聯隊の各一小隊より成り小畑大尉之を指揮す）を派遣し大高刊を経て海城、牛莊城の中間に進出し兩地の敵情を搜索し爲し得れば兩地間の電報線及海城北方の鐵道、電報線を破壊せしめ旅團は此夜花英臺（營口停車場東方約一里）に進進し同地附近に宿營す。

七月二十九日 小畑大尉の率ゐる集成騎兵中隊は石佛寺（營口停車場北方約三里半）附近に到り大高刊に敵騎三、四十、劉家堡子に歩騎若干、葛家窩棚（當時董家堡子と稱す）に砲五、六門を有する部隊、石佛寺附近に敵の騎兵約一聯隊あるを知り此夜花英臺に歸還す。

七月三十日 旅團は午前九時主力を以つて前石橋子を、右側衛（騎兵第三聯隊（第二中隊欠）及機關砲二門）を以て揚家屯を占領し午後一時更に前衛（騎兵第十四聯隊）を以て大高刊を占領し海城、牛莊城方向を搜索し日没後前石橋子に歸還し同地附近に宿營す。

小畑大尉の率ゐる集成騎兵中隊は營口方面より牛莊城方向に進出せんを欲せしも、行動困難なりしに依り此夜大石橋東南約一里の徐家屯に宿營す。

滿洲軍總司令部は二十三日大連出發此日熊岳城に到着す。

七月三十一日 旅團は前石橋子に位置し騎兵第六聯隊を大高刊に派遣し敵情を搜索し劉家堡子、連三屯に敵の

騎兵部隊ありて其騎幕は劉家窩棚より東高坎、連三屯を経て黃家塘附近に互れるを知れり。

軍司令官は午後二時總司令官より第四軍の動作に連繫して前進運動を開始し爲し得れば海城を占領すべき訓令を得、明八月一日先づ老母溝、高山臺の線に進進せんを五時命令を下せり、旅團に關するもの次の如し。

秋山少將は令下騎兵集團及舊中村支隊（歩兵第九聯隊（第二大隊欠）砲兵第四聯隊第六中隊、工兵第四大隊第二中隊（一小隊欠））を指揮し軍の運動に伴ひ、北進して軍の左側を掩護すべし（爾後暫く秋山支隊を稱す）

## 五 八月一日連三屯の戦闘

秋山支隊長は午前一時第二軍命令を受領し左の部署を爲せり。

一、右側支隊（中村歩兵中佐、歩兵第九聯隊本部及び第一大隊と第十一第十二中隊、騎兵第三聯隊（第二中隊欠）同第四聯隊第三中隊の一分隊砲兵第四聯隊第六中隊工兵第四大隊第二中隊の一小隊機關砲二門）は午前四時三十分上土臺を経て顧家窩棚に向ひ前進し成し得れば劉家堡子を占領す（騎兵第三聯隊は下土臺を経て前進し其序列に入る）

二、支隊本隊（歩兵第九聯隊第三大隊（第十一第十二中隊欠）、騎兵第六聯隊（第二中隊欠）、同第十三第十四聯隊、機關砲四門、騎砲兵中隊、工兵一小隊）は午前四時前石橋子北方に集合す。

支隊は右側支隊をして午前四時三十分蔡家堡子を發し、上土臺を経て劉家堡子に向ひ前進せしめ、支隊の主力



を以て四時、前石橋子を出發し騎兵第十三聯隊を前衛同第十四聯隊第二中隊を左側衛（後石橋子より大平庄方向に派遣す）にして六時三十分大高刊に達し小高刊に互る間を占領し、尙ほ前衛を東高坎に進めて劉家堡子、連三屯方向の敵情を搜索せしむ。

乃ち前衛は九時三十分東高坎に達し右側支隊の騎兵第三聯隊（第二中隊欠）は劉家堡子を占領せり。當時劉家堡子及東高坎西北無名村の敵の歩騎兵は連三屯に退却して、同地の歩騎兵に合し他の騎兵約一中隊東小房身より連三屯に進入し後續部隊あるものゝ如く、尙ほ西小房身附近に騎兵一百六、七十あり。

此に於て支隊は連三屯の敵を攻撃せんとし十一時騎砲兵中隊を小高刊北方約四百米の畑地に、歩兵及機關砲四門を砲兵の左翼前に、騎兵第十三聯隊を東高坎に展開し、騎兵第六第十四聯隊を豫備隊とし、大高刊東北端に位置せしむ。

時に敵兵東高坎に向ひ射撃せるも、高粱繁茂して所在詳ならず、乃ち歩兵第三大隊（第十一、第十二中隊欠）は連三屯西南無名村に前進し午後零時三十分同地に達す、一時四十分、騎兵第六聯隊亦連三屯に進入せしも既に敵兵なく滾子泡方向に退却せるものゝ如く二時五十分歩兵第三大隊（第十一、第十二中隊欠）は續いて連三屯に前進中滾子泡に敵あるを知り四時十分更に同地に轉進し、敵歩兵少くも二中隊同村南端に據り頑強に抵抗するに遭ふ。

依て支隊長は六時更に騎砲兵一小隊及機關砲四門を連三屯西端に遣り、歩兵第三大隊に協力砲撃せしむるや、須臾にして敵兵北方に退却し、其一部のみ西腰屯附近に停止す、乃ち我歩兵大隊は滾子泡北端を占領せり、然

るに右側支隊の主力は道路險にして行進大に遲滞し、劉家堡子に到着せしは實に午後二時三十分なりき。

此夜支隊の右側支隊（歩兵第十二中隊を原大隊に復歸せしむ）は白家堡子、劉家堡子附近に、歩兵第三大隊（第十一中隊欠）騎兵第十三聯隊、機關砲四門及工兵一小隊は田村大佐指揮し連三屯附近に、騎兵第十四聯隊第二中隊三二小隊は大太平庄に、自餘の諸隊（騎兵第一旅團司令部同第六聯隊（第二中隊欠）同第十四聯隊、騎砲兵中隊）は東高坎に宿營す。

小畑大尉の率ふる集成騎兵中隊は前日第四軍方向に轉進し、是日排路屯に達す。

八月二日 支隊は連三屯附近を守備し、騎兵第十四聯隊第一中隊を海城及牛莊城方向に派遣し、前日擊攘したる敵の歩兵約一千五百砲六門は牛莊城方向に退却し、感王寨の敵兵亦前夜北方に退却し、其騎幕の八里河の線に在るを知れり。

小畑大尉の率ふる集成騎兵中隊は此日排路屯に在りて斥候を各地に派遣し、少くも二師團半の敵兵海城——遼陽道を退却せるを認めたり。

## 六 八月三日牛莊城の占領

支隊は第二軍の八里河の線迄前進し、第四軍との連絡を確實にし前面の敵を驅逐して退却する敵に與ふる不利の感觸を大ならしめむと欲する其運動に伴ひ北進して軍の左側背を掩護し、兼て敵の右側背を搜索すべき任務を有し、騎兵第三聯隊は午前四時白家堡子を發し、老君屯を經十一時頃三臺子に達して大莫七屯方向を搜索し



騎兵第六聯隊歩兵第九聯隊第一中隊機關砲二門（長江騎兵少佐之を指揮す）も亦午前四時東高坎（自家堡子西方約一里）を發し蓮花泡、西小河沿を経て午後三時朱家窪子に達す、支隊の主力（歩兵第九聯隊（第二大隊及第一中隊欠）騎兵第十三第十四聯隊、機關砲四門、騎砲兵中隊、工兵第四大隊第二中隊（一小隊欠）は六時連

三屯を發し、騎兵第十四聯隊を牛莊城方向に派遣し、同第十三聯隊第三中隊を前衛、第一中隊の一小隊を左側衛とし、連三屯より大遼河左岸大房身（營口停車場西方約二里）方向に派遣し他を本隊と爲し曾家屯に向ひ前進し九時同地に達す、土民の言に依り敵の歩兵一、二千騎兵約一千昨夕牛莊城より秋庄子方向に退却せるを知り支隊長は騎兵第十四聯隊に命じ牛莊城を占領せしめ、正午前進を起し午後一時前衛を以て牛莊城に本隊を以て藍旗堡に達す。

歩兵第九聯隊（第二大隊及第一中隊欠）騎兵第四聯隊第三中隊の一分隊、工兵第四大隊第二中隊（一小隊欠）は牛莊城東方東關附近に在りて子房屯附近を占領し、騎兵第十三聯隊及機關砲四門は白旗堡附近に、歩兵第九聯隊第一中隊、騎兵第六聯隊（第二中隊欠）機關砲二門は朱家窪子に、騎兵第三聯隊（第二中隊欠）は岳家屯に、自餘の諸隊は頭臺子、東園子及紅旗村附近の村落に宿營す。

軍は明四日海城北方の地區に前進せんとして午後六時命令を下せり、支隊に關する其要旨左の如し

- 一、騎兵旅團は遠く北方に前進し鞍山站方向の敵情を搜索すべし。
- 二、騎兵旅團に屬せし第四師團の舊中村支隊は原師團に復歸すべし。

八月四日 旅團は午前四時諸隊を集合し八時中村支隊に屬せし部隊を第二軍命令に基づき第四師團に復歸せし

秋庄子附近  
進出（鞍山  
站）方向  
搜索

め騎兵第三聯隊をして大堡屯方向に前進し、遠く鞍山站方向を搜索して、其情況を直に軍司令官に報告せしめ騎兵第十三聯隊第一第二中隊を長谷川少佐に指揮せしめ前衛をなし、大路沿を経て秋庄子に前進し本隊之に續行す。

乃ら騎兵第三聯隊は午前八時四十分岳家屯を出發し、大莫七屯を経て午後一時張仙屯に達し、蛇龍寨に敵の騎兵五、六百同村西端高地に砲兵陣地あるもの、如く尙徒歩兵の徘徊するを認む、又交界臺、崔家莊子、候家屯に各少數の騎兵あり、東烟臺附近には大部隊なく、所臺子西北高地に防禦工事あるを知れり、旅團の主力は午前八時子房屯を發し、更に騎兵第十四聯隊第三中隊（一小隊欠）を右側衛とし大路沿より大莫七屯、張仙屯を経て候家屯方向に前進せしめ、秋庄子の敵の騎兵一、三百を北方に驅逐して午後零時四十分前衛を以て同地を本隊を以て秦家堡子を占領す。

當時敵の騎兵は東烟臺、西柳河子、交界臺、張仙屯、丁家橋、雙屯子の線に在り蛇龍寨、雙磨子、四方臺、大王鐵屯附近に敵騎二、三千あるもの、如く蛇龍寨に集團部隊、同地丘上に監視兵あり、土民の言に依れば營城子、蛇龍寨に歩砲兵、四方臺、大王鐵屯に各一千東黃地及西黃地に騎兵約一百東房申及西房申に兵種未詳の敵兵約二百ありと。

騎兵第十四聯隊に屬せる騎砲兵一小隊は午後六時秋庄子東南より蛇龍寨西端の高地を射撃し七時頃其敵を擊退せり。

旅團は此夜主力を以て秋庄子に宿營し、騎兵第十三聯隊に機關砲四門を附し、丁家橋より雙屯子に互る間を警



戒し 騎兵第十四聯隊、騎砲兵一小隊、機關砲二門を以て達子營、丁家橋間に、騎兵第六聯隊、騎砲兵中隊（一小隊欠）を以て秦家堡子に騎兵第三聯隊を以て大英七屯に宿營す。

小畑大尉の率ゐる集成騎兵中隊は情況の變遷に依り、海城北方に於ける鐵道、電信破壊の企圖を止めたるを以て旅團長は之を招還し五日旅團に復歸せり。

旅團は永く現在地に停止するを得策に非ずし、明五日騎兵第十四聯隊と同第三聯隊の一部を以て搜索を續行し、日没迄に小望臺に歸來せしめ、騎兵第六聯隊の一中隊（二小隊欠）を張仙屯より西柳河子方向に派遣し自餘の諸隊を大望臺に移轉し暫く駐まりて敵情を搜索警戒す。

附記此日露軍の各軍團は鞍山站附近に在りて各其陣地の構成に従事す。

八月六日 午後六時三十分敵の騎兵約一聯隊北方より來襲し、騎兵第十三聯隊第一中隊の一小隊（菅谷少尉之を指揮す）及第二中隊の一部は徒歩を以て敵の徒歩戰に對し勇敢に突撃し之を撃退せり。

第三軍に屬せる騎兵第十一聯隊第三中隊は總司令部を護衛して海城に達し、是日旅團に合し令下に入る。

八月七日 軍司令官は遼陽攻撃に關する計畫要領を受領し、八日軍諸隊の位置を變更す、乃ち騎兵第一旅團（騎兵第三第六聯隊（各第三中隊欠）同第十一聯隊第三中隊騎砲兵中隊を屬する）は遠く北方を搜索し且つ一部隊を大遼河右岸に派遣し牛莊城、營口間の水路交通を掩護すべき任務を以て騎兵第六聯隊（第三中隊欠）を三叉河（牛莊城西北二里半）附近に派遣し大遼河右岸に於ける敵情の搜索地形の偵察及大遼河揚陸點の掩護に任ぜしめ（騎兵第六聯隊は主力を大八家子に置き一部（第一第二中隊の各下士卒六）を三叉河に出し

警戒せり）其他の主力を以て依然大望臺附近に位置し、而して遼陽攻撃を準備す。

八月十四日 支隊（旅團）は騎兵第十一聯隊第三中隊及機關砲二門を大八家子（牛莊城西北二里半）に派遣して騎兵第六聯隊に屬す、該聯隊（長江少佐）は十六日大遼河右岸に進出し其主力を西牛堡城子（大八家子西北一里）に置き搜索警戒せり。

八月十八日 支隊長は今後の前進を顧慮し騎兵第十三聯隊第二中隊、同第十四聯隊第二中隊を長谷川少佐に指揮せしめ、大八家子に派遣して同第十一聯隊第三中隊に代らしむ、乃ち長谷川支隊は遼河左岸八家子附近に位置し大灣方向に對し警戒搜索し且つ遼河の渡河點並に遼河の運輸監視に任ず（當地は低地にして數日來の降雨の爲遼河の濁流滔々畑に氾濫し、道路は馬腰を没し運動困難を極めたり）。

八月十九日 騎兵第十一聯隊（第二第三中隊欠）は第三軍より轉屬し此日到着す。

八月二十四日 長谷川支隊は斥候を派遣し田庄臺に到り海軍と連絡せしむ（此斥候は二十五日八家子に歸來す）二十七日敵の騎兵約一中隊遼河右岸にある小哨を襲ふ、長谷川少佐は機關砲を以て直に之を撃攘せるも小哨退却の際獨木舟轉覆し下士卒二名濁流に歿せり。

軍は十八日を期し攻撃前進を起さんとしたるに十三日以來降雨歇まず、河川漲溢道路泥濘を極め、沙河の軍橋悉く流失し前進困難にして十六日攻撃延期の命令に接し之を延期せり。

十九日雨歇み二十一日午後より漸次快晴となり道路の景況亦行進に支障なく、軍は二十三日總司令部より二十六日を期し、鞍山站附近の攻撃を開始すべき命令を受領し二十四日命令を下せり、支隊の受けたる命令要旨左



の如し

秋山少將は部下旅團、騎兵第三第六第十一聯隊（各一中隊欠）第四師團の歩兵二聯隊（一大隊欠）工兵一中隊砲兵旅團の二中隊を指揮し、耿庄子附近の敵を撃攘して左側を掩護し、且つ騰熬堡方向の敵情を搜索すべし。特に一部隊を以て黄金廟子附近を監視せしめ、騎兵の一部を大遼河右岸に派遣し從來の任務に服せしむべし。

## 第六章 遼陽附近の戦鬪

### 一 八月二十六日の状況

第二軍は豫定の如く運動を開始し、此日を以て攻撃第一日とし、第三日を以て鞍山站の總攻撃を爲さんとす。支隊は軍命令に基づき、耿庄子附近の敵を撃攘せんと欲し、騎兵第十三聯隊をして午前一時三十分出發、馬家屯を経て武將臺に到り同地の警戒に任じ、同第三聯隊（中山少佐）をして同時大路沿東端を出發し、秦家堡子を占領して後續部隊の到着を待たしめ、歩兵第三十八聯隊（第一大隊と第五第六中隊）騎兵第十四聯隊第一中隊の一小隊機關砲四門、工兵第三中隊（内藤大佐之を指揮し先遣隊と稱す）をして之に續行して耿庄子を占領せしめ、自餘の諸隊を本隊とし午後二時出發同地に向ひ前進す。

乃ち騎兵第十三聯隊は午前三時十五分、武將臺を占領して支隊の左側を警戒し、同第三聯隊（第三中隊欠）は午前二時秦家堡子を占領し、内藤先遣隊は午前一時大路沿東端を出發し、敵の抵抗を受くることなく秦家堡子を經て五時二十分耿庄子西南約二百米に達す。

是時天漸く白く突然耿庄子西南端の土壁及家屋より敵の射撃を受け、直に前衛たる第二第四中隊展開して之を攻撃し、又本隊中の第五中隊之に増加し、我に死傷數十ありしも猛進突撃して耿庄子に進入するや、敵兵相分れ少時市街内に抵抗せしも後終に四方臺方向に潰走し（敵は東狙兵第三十五聯隊の二中隊及騎兵一中隊なりしものゝ如し）直に同地西南端を占領せり。

時は六時頃にして此時支隊の主力秦家堡子に達し、其砲兵を以て同村東端より敗走せる敵を射撃し、十時耿庄子に到着し騎兵第三聯隊（第三中隊欠）をして四方臺（耿庄子東北方約二里）方向に、同第十一聯隊（第二中隊欠）をして西黃地方向に敵を追撃せしめ、同第十三聯隊をして武將臺、東溝影附近に在りて北方に對し支隊の左側を警戒せしむ。

尋て支隊長は午後三時三十分命令を下し、内藤先遣隊をして耿庄子東方より耿庄子——西四方臺道迄を、騎兵第十三聯隊をして依然支隊の左側を警戒せしめ、支隊の主力を以て耿庄子に宿營せり。

### 二 八月二十七日の状況

支隊は騎兵第十四聯隊（第二中隊欠）をして午前四時耿庄子出發丁家橋、泥溝堡方向に前進し大王鐵屯附近の



敵情を搜索せしめ、騎兵第三聯隊（第三中隊欠）をして同時耿庄子出發大王鐵屯方向に前進し、支隊の東黃地附近に於ける陣地占領を掩護し、兼て四方臺方向を搜索せしめ、騎兵第十三聯隊（第二中隊欠）をして同時武將臺を出發し主力を以て西黃地を一部を以て板橋子を占領し支隊の左側を警戒し、且つ遠く敵の右側背を搜索せしめ、内藤先遣隊をして午前四時耿庄子北端出發東黃地を占領せしめ、自餘の諸隊を本隊を爲し耿庄子の東北に集合し、午前四時運動を起し騎兵第十四聯隊（第二中隊欠）は五時丁家橋に騎兵第十三聯隊（第二中隊欠）は六時十分西黃地に、騎兵第三聯隊（第三中隊欠）は前房申に達し四方臺に敵の歩騎兵約三百あるを報し、内藤先遣隊は五時四十分東黃地を占領し、支隊本隊も亦七時同地に達して其東端に開進し、八時騎砲兵中隊を以て東黃地北端より四方臺を射撃し、騎兵第十一聯隊（第二中隊欠）を以て四方臺の西北より搜索せしむ、乃ち敵は我砲撃を受けて大王鐵屯方向に退却し、支隊は十一時更に前進し同時十五分四方臺を占領す。

午後三時三十分四方臺に停止し大王鐵屯方向に對し警戒中四時三十分敵の砲兵約一中隊騰熬堡西南端附近より金家臺の第四師團の一部を射撃せしに因り、直に警戒集合を爲すや適々敵を追撃すべき軍命令を受け、大王鐵屯に向ひ前進せんと欲し、先づ騎砲兵中隊をして四方臺西北端附近より大王鐵屯の敵を射撃し、且つ騎兵第三聯隊（第三中隊欠）に歩兵第三十八聯隊第七中隊を附し同地を攻略せしめ、支隊の主力之に續行す。

敵兵須臾にして退却せしに因り七時同地を占領し、更に騎兵第三聯隊（第三中隊欠）同第十一聯隊（第二中隊欠）を以て騰熬堡の敵情を搜索し、同村南端に敵の歩兵百五、六十あるを知り騎砲兵中隊をして大王鐵屯東北端より之を射撃せしむ、然るに此敵も亦須臾にして退却し、八時騎兵第三聯隊（第三中隊欠）は進んで騰熬堡

を占領す、乃ち内藤先遣隊に騎砲兵中隊を附し同地に前進せしめ、騎兵第十一聯隊（第二中隊欠）も亦同地に進入せり。

此夜内藤先遣隊（機關砲隊を欠き騎砲兵中隊を含む）及騎兵第三聯隊（第三中隊欠）同第十一聯隊（第二中隊欠）は騰熬堡附近に、騎兵第十四聯隊（第二中隊欠）は石橋子に、同第十三聯隊（第二中隊欠）は一堵牆附近に、自餘の諸隊（支隊司令部歩兵第二中隊騎兵第六聯隊（第三中隊欠）砲兵大隊（第四中隊欠）機關砲六門）は大王鐵屯に宿營し、九時二十分命令を下し明二十八日黎明騎兵第十四聯隊（第二中隊欠）を沙河方向に、同第六聯隊（第三中隊欠）を韭菜臺方向に派遣し遠く敵情を搜索せしむ。

### 三 八月二十八日の状況

支隊は前夜敵の退却を妨碍すべき軍命令に依り、午前六時命令を下し歩兵第三十八聯隊第一大隊 第一第三中隊欠）騎兵第三聯隊（第三中隊欠）同第十一聯隊（第二中隊欠）及騎砲兵中隊を河村騎兵中佐に指揮せしめ前衛とし八時騰熬堡出發韭菜臺方向に前進し、騎兵第十三聯隊（第二中隊欠）を木家堡より白家平頂堡方向に進めて支隊の左側を警戒せしめ、正午前衛は馬家屯に本隊は韭菜臺に到着す。

當時敵兵漸次北方に退却し其僅少な騎兵斥候のみ前面に出没せり、然れども韭菜臺以北の地形明らかならずりに依り、特に前衛をして地形を偵察せしめ、後更に進んで午後三時劉二堡に宿營す、前衛は歩兵第三十八聯隊第一大隊（第一第三中隊欠）〔木村少佐〕及騎兵第十一聯隊第一中隊を同村附近に置き遼陽方向を警戒せり



騎兵第十四聯隊（第二中隊欠）は午前五時三十分石橋子（騰黎堡南方約一里）を出發し、公什屯、大揚其堡を経て大營盤に向ひ前進し、且つ五家臺を経て八卦溝方向を西雙龍臺を経て宋家三臺子方向を搜索して、午後三時四十分大營盤に達したる時第三師團搜索隊の沙河に第六師團搜索隊の大營盤附近に停止して、各其前面の敵兵と對峙し、尙ほ敵の向陽寺北方高地より西蠟蟻屯附近に互る陣地に在るを知り、更に沙河に退き九時立山屯に到り同地に宿營す。

騎兵第六聯隊（第三中隊欠）は午前四時大王鐵屯（騰黎堡西南方一里）出發第二中隊（二小隊欠）を前衛とし西雙龍臺を経て韭菜臺に向ひ前衛は敵の騎兵斥候を驅逐して七時二十分小營子に達するや、敵の徒歩兵約六十西雙龍臺に通ずる道路上及小營子の屋上に據り射撃せるに依り、直に徒歩戦を以て道路上の敵を攻撃す。

主力に在りし第二中隊の一小隊直に之に増加し、第一中隊の一小隊は小營子西方に迂回して敵の側背を脅威し挾撃以て八時十五分を北方に擊退して西雙龍臺を占領し、更に前進して午後一時劉二堡に於て小數の敵を驅逐し二時五十分高庄子を占領し、八時十分迄同地に在りしも敵の騎兵斥候近く前面に出没し、首山堡西方高地に敵の防禦工事あるを知り劉二堡に退きて宿營す。

騎兵第十三聯隊（第二中隊欠）は午前四時二十五分一塔壩（騰黎堡西南方二里）北端を出發し張家店を経て高力堡に向ひ前進し七時木家堡東北端に達し八時更に平丁舖に前進して午後一時五十分同地に達す、當時新臺子（木家堡西方一里半）唐馬寨間の太子河左岸に敵兵無く、土民の言に依り新臺子、小河口の敵騎は前夜東北に向ひ退却し羅家套子（劉二堡西方約二里）に尙ほ敵騎五十あるを知り、二時會家堡附近に移りて宿營せり。

西雙龍臺、  
高庄子占領

是時に於ける秋山支隊の兵力を掲ぐれば次の如し

歩兵第三十八聯隊（第三大隊欠）

騎兵第一旅團

同第三第六聯隊（各第二中隊欠）

砲兵第十四聯隊第二大隊（第四中隊欠）

騎砲兵中隊

工兵第四大隊第三中隊

騎兵第十三第十四聯隊の各第二中隊、機關砲二門は長谷川少佐之を指揮し、監視隊として牛莊城西北三叉河に在り。

#### 四 八月二十九日の狀況

支隊は遼陽附近の敵情を搜索せんとし、騎兵第十四聯隊（第二中隊欠）をして午前四時出發、王二屯方向より遼陽及其以北の敵情を搜索せしめ、騎兵第三聯隊（第三中隊欠）をして五時出發王二屯方向に前進し、支隊の進路を偵察し且つ騎兵第十四聯隊と共に遼陽方向の敵情を搜索せしめ前衛（司令官河村騎兵中佐歩兵第三十八聯隊第一大隊（第一第三中隊欠）騎兵第六聯隊（第三中隊欠）同第十一聯隊（第二中隊欠））をして六時劉二堡東北端を準備し要すれば一部を以て、騎兵第十四聯隊及同第三聯隊を援助せしめ、自餘の諸隊を劉二堡西南に

郎家屯に前  
進



停止せしむ。

當時敵の重砲の如きもの首山に在るが如く、又該山の後方に多数の天幕あり、而して敵の主力は遼陽附近に集中せしが如しと雖も退却を開始せしや否や未だ詳ならず、十時三十分前面の敵を追撃すべき第二軍命令に接し騎兵第十四聯隊を首山堡方向に、同第三聯隊を王二屯方向に、同第十三聯隊を大乾溝子方向に前進せしめ、他は午後零時三十分割二堡を出發して郎家屯に向ひ前進し、前衛は一時三十分郎家屯に、本隊は同時大獐狼堡に達す。

當時敵の警戒幕は榆樹屯より小青堆子、烏龍合を経て韓家臺に互り又首山堡南方高地に敵の大部隊あり、四時前衛の編成を解き歩兵第三十八聯隊（第三大隊と第六中隊欠）騎兵第六聯隊（第三中隊欠）及機關砲四門を内藤歩兵大佐指揮の下に郎家屯に宿營せしめ、王二屯より范家屯に互る間を警戒し、騎兵第十一聯隊（第二中隊欠）は永興臺に在りて支隊の右側を警戒し、騎砲兵及工兵の兩中隊は郎家屯に、騎兵第十四聯隊（高庄子に宿營し、同第十三聯隊は大乾溝子に在りて支隊の左側を警戒し、其他は大獐狼堡に宿營せり。

此夜支隊長は敵兵依然陣地を占領し、其左翼の前石塊石西方約一千米の高地附近に在るを知れり。

支隊は午後五時遼陽方向殊に其北方の搜索を勉むべき軍命令を受領す、依て暫く郎家屯及其附近に停止して後第二軍の運動に伴ひ動作せんせり。

## 五 八月三十日の狀況

支隊は午前六時砲兵第十四聯隊第二天隊（第四中隊欠）及騎砲兵中隊を王二屯東南端に配置して首山方向に對せしめ、歩兵第三十八聯隊第三中隊（一小隊欠）を三家子、第五中隊の一小隊を王三家子に遣り共に砲兵の掩護に任せしめ、同第一大隊（第一中隊及第三中隊の二小隊欠）を王二屯、騎兵第十一聯隊（第二中隊欠）を永興臺、同第十三聯隊（第二中隊欠）を歩兵第三十八聯隊第一中隊の一小隊と共に范家屯に、他を郎家屯附近に置けり。

此時騎兵第十四聯隊は尙ほ高庄子に在り、同時三十分騎砲兵中隊は首山を、砲兵第十四聯隊第二天隊（第四中隊欠）は其南方高地を射撃し、尋て首山南麓の砲兵を背射し七時二十分に至り殆ど沈黙せしむ、八時三十分支隊長は第二軍の前進を知り其左側を掩護せんせし、王二屯に前進し郎家屯の諸隊を招致し、砲兵をして小青堆子東方に陣地を變換せしむ。

乃ち騎砲兵中隊及砲兵第十四聯隊第五第六中隊は十時より十一時に互り互に掩護して逐次新陣地に移り、掩護を築き正午より首山南麓の敵砲兵を射撃す、此間掩護して歩兵第四中隊の一小隊を大趙家臺に、同一小隊を小青堆子に、更に歩兵第三中隊（一小隊欠）を大趙家臺に、同第二中隊を烏龍合に遣派す、然るに十時五十分頃敵の歩兵約二大隊、砲兵約二中隊水泉方向より烏龍合を経て前進し、其一部兵馬屯に現出し我歩兵第二中隊退却せしに因り、支隊長は騎砲兵中隊を王二屯に招還して之を射撃せしむ。

歩兵第三十八聯隊長内藤大佐は騎兵第六聯隊（第三中隊欠）を王三家子に派遣して左側を警戒せしめ、郎家屯の諸隊を率る王二屯に達し、支隊命令に依り同村の守備に任じ、第一大隊（第一中隊の一小隊、第二中隊第三



第四中隊の各二小隊欠) 及第二大隊(小笠原少佐)を同村東端及北端に配備せしも、第二中隊の退却を知り第一大隊長木村少佐をして、第四中隊の一小隊及第五中隊(一小隊欠)を率ゐる第二中隊に赴援せしむ。幾もなく敵兵退却せしに依り、十一時第二中隊を合し烏龍合西南小流の線を占め該方面を警戒す。騎兵第十四聯隊は高庄子より招還せられ同時頃王二屯に達し、同第十三聯隊は支隊の左側を警戒すべき命を受け、第四中隊の一小隊を歩兵第一中隊の一小隊と共に范家屯に留め、十時二十分王三家子に到り騎兵第六聯隊と合す。

支隊長は第四第六師團の一部隊午前十一時頃大趙家臺附近に達せしを知り、午後零時三十分騎兵第三聯隊第十一聯隊を河村中佐に指揮せしめ、雙臺子附近に派遣し支隊の左側を警戒し、且つ遼陽附近の敵情を搜索し、主力は二時王二屯を出發し烏龍合に向ひ前進し三時同地に到着し、歩兵第三十八聯隊(第三大隊欠)は第一大隊を第一線として村端(第二中隊は更に其北方小流の線)を占領し、第二大隊を第二線と爲し村内に置き騎砲兵中隊は烏龍合北端に放列を布き、機關砲隊は同村西北端に陣地を占領し、騎兵第十四聯隊及工兵第四大隊第三中隊は烏龍合南端に位置す。

此時水泉方向より敵の砲火を受け、騎砲兵中隊は直に應戦せしも、敵兵僅少の徒歩兵を以て始終烏龍合を射撃し四時頃更に攻撃し來るの狀あるを以て、歩兵第一大隊は第一第四中隊(第一中隊の一小隊欠)を第二中隊の左翼に増かし、第二大隊も亦第八中隊を烏龍合東南端の土牆に據らしめ、機關砲隊と共に猛烈に射撃して暫くの後之を撃退す。

其後再び攻撃し來りしと雖亦之を卻け日没に至り情況靜穩と爲れり、然れども歩兵第三十八聯隊長内藤大佐は其孤立を顧慮し、夜間第一線を烏龍合北端に退却せしめ、同地を準備して夜を徹せり。

砲兵第十四聯隊第二大隊(第四中隊欠)は午後三時四十分烏龍合方向に前進の命に接し、王二屯に到り將に該村東北端に進出せんとするや、水泉方向より猛烈なる敵の砲火を受け、且つ歩兵點々退却し來るに會ひ、當時支隊長との連絡全く絶えしに依り、同村北端に放列を布き、將に水泉の敵を射撃せんとするや、再び直に前進すべき命令に接し、六時三十分烏龍合東端に到り放列を布かんせしに、同村北方より敵の銃火を受け、退稍きて遮蔽陣地に就き日没後歩兵第三十八聯隊第七中隊の一小隊及工兵第四大隊第三中隊の掩護を以て、王二屯に到り宿營す。

騎兵第六第十三聯隊は午後二時支隊長より烏龍合の敵の右側背を脅威し、支隊の攻撃を容易ならしむべき命令に接し、直に兵馬に向ひ前進せしも、敵兵同地を固守し尙其北方に騎砲兵を備ふるを知り、同村南方高粱の繁茂せる間に停止し、夜に入り王二屯に宿營せり。

支隊長は午後五時第六師團の左翼朱家堡子附近に達し、蛤蜊河子附近に敵なきの報を得、主力を以て決家老瓜窩に向ひ前進せんとせしも、水泉方向より敵襲ありし爲果さずして遂に烏龍合に留り、騎兵第十四聯隊の同時三十分決家老瓜窩に達し搜索に任じ同地に宿營す。

騎兵第三聯隊は午後一時頃耶家屯を出發して韓家臺を経、同第十一聯隊は永興臺を出發し、范家屯を経て共に繡江堡子に向ひ前進し、四時頃騎兵第三聯隊は繡江堡子西北約五百米に、同第十一聯隊は同村南方一千米に達



せしも敵の徒歩兵村内に在りて進入するを得ず、五時に至り北方に退却せしを以て、騎兵第十一聯隊は直に進みて之を占領す。

此時敵砲一門北臺南方約五百米に現出し、且つ徒歩せる敵兵同村北方約三百米の高梁間に潜み、時々射撃せしに依り同聯隊は全力を挙げ徒歩して應戦八時に至る、此間騎兵第三聯隊は韓家臺に退き之を占領し、七時二十分更に繡江堡子に進進せしも、夜間同地に駐るの不利なるを慮り、兩聯隊とも夜に入り豊臺子に退きて宿營せり。

## 六 八月三十一日の狀況

支隊は午前六時四十分一部を以て、安東少將の率ゐる部隊の戦鬪を援助し、主力を以て決家老瓜窩に進進し、第二軍の左側を警戒せんを欲し、歩兵一大隊騎兵一小隊砲兵一大隊工兵一小隊を内藤大佐に指揮せしめ、蛤蜊河子に進進せしめ、歩兵第三十八聯隊第三中隊の一小隊工兵第三四隊第三中隊の一小隊を烏龍合に留め、歩兵第三十八聯隊第三中隊(一小隊欠)を水泉に派遣し、共に支隊左側の掩護に任せしめ、支隊長は歩兵第三十八聯隊第一大隊(第三中隊欠)騎兵第十四聯隊(第二中隊及第四中隊の一小隊欠)騎砲兵中隊及工兵一小隊を率ゐる烏龍合出發決家老瓜窩に進進し、自餘の諸隊を依然左側背の警戒に任せしむ。

茲に於て内藤大佐は同時五十分歩兵第三十八聯隊第二大隊(第五第七中隊欠)を前衛とし、蛤蜊河子に向ひ前進せしめ、騎兵第十四聯隊第四中隊の一小隊歩兵第三十八聯隊第五第七中隊砲兵第十四聯隊第二大隊(第四中

隊欠)工兵第四大隊第三中隊の一小隊を本隊として續行し、騎兵第十三聯隊(第二中隊欠)は午前四時以來王三家子東北小流の右岸に據り、支隊の左側を警戒し騎兵第六聯隊は六時烏龍合に招致せられ、七時十分同地に到着し、同地に在りし歩兵第三十八聯隊第三中隊の一小隊を併せ、支隊の左側警戒に任し騎兵第一中隊(一小隊欠)を以て同村北端を、同中隊の一小隊及歩兵一小隊を以て同村東端を、騎兵第二中隊を以て同村西端を守備し、騎兵第三聯隊及第四聯隊は午前六時出發し、韓家臺の東部を経て繡江堡子に進進し七時同地を占領し、騎兵第三聯隊(第三中隊欠)は張家房子方向を、同第十一聯隊は北臺及西窩棚方向を警戒す(此方面の敵は砲四、五門を有する騎兵にして、其の主力を唐庄子に一部を荒地に其砲兵を唐庄子西南約五百米附近に置き、(該地附近は高粱高く繁茂し騎兵を掩蔽す)。

支隊の主力は午前八時決家老瓜窩に達し、騎砲兵中隊を東北端に其他を東端及北端に配備す、此時頃より唐庄子附近の敵砲兵織に繡江堡子を射撃し、加ふるに北臺附近に砲兵現出し共に同地を掃射し、同時三十分頃敵の徒歩兵六、七十唐庄子、張家房子及北臺方向より騎兵第三聯隊に向ひ攻撃し來る、乃ち其二百米に近接するを待ち、俄然之を猛射するや彼倉皇退却せり、時に十一時にして爾後小數の敵の徒歩兵屢々近接して、射撃せるも悉く之を撃退せり。

是より先午前九時三十分頃敵騎四、五十水泉より烏龍合に向ひ前進し、同村東端を距る約五百米に接近す、乃ち同地に在りし歩兵第三十八聯隊第三中隊(一小隊欠)は騎兵第六聯隊(第三中隊欠)と共に之を撃退す、同時騎砲兵中隊は首山の敵に向ひ射撃を開始し、同時三十分敵の野砲約四門柳木溝方向より、約二門水泉方向よ



り共に決家老瓜窩、烏龍合、王三家子、兵馬屯、雙臺子の諸村を掃射し十時敵の徒歩兵再び烏龍合に向ひ攻撃せらるも、歩兵第三十八聯隊第三中隊（一小隊欠）は騎兵第六聯隊と共に十一時之を北方に撃退せり。騎兵第十三聯隊は十時五十分支隊長より、支隊は歩兵第十九旅團の攻撃を援助中なるが故に、其聯隊は支隊の左側を警戒し、要すれば永興臺附近の第四師團の豫備隊に援助を請ふべき命令を受け、依然王三家子東方の河岸に據り警戒す。

支隊長は正午頃烏龍合方向の情況危険なるを知り、工兵第三中隊の一小隊を同地に派遣し、尋て騎兵第十四聯隊第三中隊を決家老瓜窩に配置し、其殘餘（第一中隊、第四中隊（一小隊欠））及機關砲二門を増遣し、騎兵第十四聯隊長豊邊大佐をして同地の諸部隊を指揮せしむ。

午後一時頃敵の歩兵約一大隊水泉より烏龍合北端に、騎兵約一中隊同村東北端に向ひ來襲せるも、我歩兵第三十八聯隊第三中隊及騎兵第六聯隊の攻撃する所となり、少時應戦の後北方に退却せり。

同時五十分増援の諸隊來着し、爾後敵の小部隊屢々來襲を試みしが、五時頃に至り歩兵約一大隊騎兵若干砲二門水泉より攻撃し來るを以て、諸隊は協力して之を防ぎ交戦約三十分にして撃退せり、然れども敵の砲兵尙射撃を繼續し、五時二十分小數のもの更に來襲せるも悉く之を撃退せり。

繡江堡子附近の騎兵第三第十一兩聯隊は、午後一時十分再び北臺方向より敵の歩兵百數十攻撃し來るを以て、騎兵第三聯隊は全力を擧げ、徒歩戦を爲し同第十一聯隊は同村北端に、其第一中隊は第三聯隊の左翼に散開して射撃を開始す。

繡江堡子騎  
兵第三第十  
一聯隊の退  
却

此間敵の砲兵唐庄子及北臺より熾に我を射撃し、其兵力尠なくも砲兵一中隊を有する騎兵旅團にして、若干の歩兵を加ふるものゝ如し、乃ち三時三十分騎兵第十一聯隊第三中隊を後衛とし韓家臺に退却す、此際敵兵我を追ふて繡江堡子に來りしも、爾後徒歩せる斥候五、六を以て追躡せるのみなりしに依り、韓家臺より同聯隊第一中隊をして代りて後衛たらしめ退却して雙臺子に據れり。

騎兵第十三聯隊は依然王三家子に在りて、午後二時二十五分騎兵第十一聯隊長河村中佐より優勢なる敵の歩兵に壓迫せられ退却に就けり、能ふべければ來援せんことを望むとの通報に接す、然れども水泉附近の敵兵常に烏龍合を窺ふが故に現在地を離るゝを得ず、乃ち聯隊長田村大佐は騎兵第三第十一聯隊の王三家子に退却せば之を收容すべきことを回答し、且つ其情況を第四師團長及支隊長に急報せり。

第四師團長は午後三時四十五分騎兵第十三聯隊より繡江堡子の騎兵第三第十一聯隊の優勢なる敵の歩兵の壓迫を受け退却し、聯隊は王三家子北方に在りて之を拒止し、已むを得ざれば王二屯、小趙家臺方向に退却せんとすこの通報を受く、同時騎兵第四聯隊より烏龍合方向に來りし敵兵午後二時より更に要占老瓜窩前方に前進すこの報告に接し、乃ち師團長は敵軍我左翼に向ひ攻勢を取るものと判断し、左翼の據點を成形し且つ騎兵兩聯隊を收容せんと欲し、將に豫備隊の歩兵一大隊を王二屯に派遣せんことを際負傷し、歩兵第七旅團長西島少將代りて師團の指揮を執り先づ歩兵一中隊を王二屯に派遣し、更に午後五時一大隊を増加せり。

支隊は日没に至る迄依然敵と對峙し、騎砲兵中隊は午後七時頃より軍の總攻撃に参加し首山に向ひ猛烈に砲撃す、是より先歩兵第三十八聯隊長安藤大佐は午後四時支隊長より日没に至れば前夜の宿營地に到り、別に歩兵



一中隊を以て砲兵大隊を護衛し、王二屯に宿營せしむべき命令を受領し九時烏龍合に退却し、同時第一大隊も亦歸還し、第七中隊は砲兵第十四聯隊第二大隊（第四中隊欠）と共に王二屯に宿營し（砲兵大隊は午後八時三十分陣地を撤し王二屯に向ひ行進せしも、道路泥濘爲めに午前一時到着せり）騎兵第十三聯隊は王三家子に、同第三第十一聯隊は雙臺子に、支隊の殘餘は烏龍合に宿營す、此の夜諸隊は戦闘準備を整へ現在の地點を固守せり。

第三師團は第六師團と協力し夜半敵壘に肉薄し、第三師團の一部は夜の三時四十分北大山の頂上を、第六師團の一部は同二時十分首山の頂上を占領し、露軍は遼陽方向に退却を始めたり。

滿洲軍に左の勅語を賜はりたり（九月一日）

滿洲軍ハ克ク諸軍ヲ糾合シ各路齊シク防備堅固ナル敵ヲ撃退シ終ニ之ヲ遼陽ニ壓セリ

朕其勇武ヲ嘉ス以來日夜劇戦ヲ繼續スルヲ聞キ深ク其勞苦ヲ懷ヒ轉々軫念に堪ヘス

朕ハ爾將卒ノ勇武ニ信頼ス爾將卒其利益々奮勵セヨ

## 七 九月一日の狀況

支隊は敵兵北方に退却し我軍の一部首山を占領し、第四師團の左翼は尤家庄子附近に在るを知り、主力を以て依然烏龍合に在りしも、午前八時支隊の編成を解き我騎兵旅團は進みて敵を追撃し、其所在を明かにすべき第二軍訓令を得、新所屬以外の部隊をして第四師團に復歸せしめ、騎兵第三（第三中隊欠）同第十一聯隊（第二

遼陽附近の  
搜索  
（後蛤河子  
附近前進）

中隊欠）及同第十三聯隊を烏龍台西方に招致し、同第十四聯隊をして荒地、楊家林子を経て遼陽以北の敵情を搜索せしめ、正午騎兵第六聯隊（第三中隊欠）を前衛とし他を本隊（騎兵第十三聯隊、機關砲隊、騎砲兵中隊）と爲し烏龍合を出發し水泉を経て新立屯（遼陽停車場西北約一里半）方向に前進す、當時騎兵第三第十一聯隊未だ到着せず。

旅團は水泉以北の道路泥濘にして騎砲兵の通過を許さざるを以て、同村南端より其進路を變更し柳木溝、蛤河子を経て遼陽停車場方向に前進せんとし、午後五時杜家雙樹子に達す、當時西關、徐往子、楊家林子附近に多數の敵兵あり、西關附近の敵砲兵約二中隊猛烈に我友軍を射撃す、依て騎砲兵中隊を以て杜家雙樹子東端附近より西關附近の敵砲兵を射撃し、約三分の後の之を沈黙せしめたり。

此夜旅團は後蛤河子及附近に宿營す、騎兵第三第十一聯隊（各一中隊欠）は旅團に合せんとし、烏龍合以北に前進せしも其踪跡を失ひ、唐庄子附近に在りて敵情を搜索し、午後十時旅團の宿營地に歸還し、騎兵第三聯隊は後蛤河子に同第十一聯隊は尤家庄子に宿營す。

騎兵第十四聯隊は午前十時西旺保臺に達せんとする比に、同第四聯隊の通知に依り敵兵約一師團遼陽停車場、楊家林子間に在るを知り、更に前進して西旺保臺を通過し、午後二時楊家林子に達し敵の歩兵約一大隊停車場北方より前石橋子に互る陣地を占領し、其後方に少くも歩兵約一旅團あり、而して停車場西方に堡壘を築設し處々に鹿柴を設け、停車場西方堡壘外に騎兵、砲兵各一聯隊南方より來り集合中にして、前韓家夾河附近に大なる敵の幕營あるを認め、尋て少數の歩、騎兵我に向ひ前進し來るを以て戦闘を避け、三時西旺保臺に退却し



七時第四師團追撃隊の來るに會し、八時後蛤河子に到り宿營す。

## 八 九月二日の狀況

旅團は第二軍の攻撃の結果を待ちて、第四師團の運動に伴なひ追撃せんを欲し、騎兵第六第十四聯隊を豊邊大佐に指揮せしめ、荒地方向より敵の右側背を搜索せしめ、自餘の諸隊を午前五時蛤河子附近に集合し、七時軍命令により第二軍の敵を追撃せんを知る、十一時第四師團の左翼前に敵の騎兵約一旅團來襲の報に接す、乃ち騎兵第三聯隊を西旺保臺附近に派遣し、同第四聯隊と協力して軍の左側を警戒せしむ。

豊邊大佐の率ゐる部隊は遠く遼陽北方の敵情搜索の目的を以て、午前六時二十分蛤河子を出發し、騎兵第十四聯隊第一中隊を前衛とし、其他を本隊と爲して續行し、唐庄子を経て東干河子（前石橋子北方約半里）に向ひ前進し、十時十分前石橋子に達す、時に兵力未詳の敵の歩、騎兵同地北方より前進し射撃を開始するに遇ひ楊廠房に退却するや、敵の歩兵約一中隊騎兵一小隊追躡せるに依り、騎兵第六聯隊を西旺保臺に向ひ退却せしめ、同第十四聯隊は更に退却して正午北部唐庄子に達す。

此時迄に敵兵大林子より後石橋子北方に互るの線に在りて、其歩兵約一大隊は後石橋子北方を占領し、同村兩側に騎兵約一小隊出沒し、又停車場西方に大なる堡壘あるを知りたり。

騎兵第三聯隊は正午頃西旺保臺に到り、午後二時胡廠房に達し同第四聯隊の新立屯に在るを知り、同地に防禦工事を施し以て第四師團の左翼を警戒す、旅團長は二時三十分騎兵第十四聯隊より敵兵約一師團停車場附近よ

前石橋子並  
進

り其西北方に互り陣地を占領し、友軍の退却を收容せるものゝ如く、聯隊は北部唐庄子に在りて敵情を搜索せんとするの報告を得、又三時二十分第四師團の左翼隊優勢なる敵の銃砲火を受け情況危險なるの報に接し、直に蛤河子を出發し五時三十分頃西旺保臺に達し、騎砲兵中隊を暫く安東少將に屬して、西旺保臺北方に放列を布かしめ、豊邊大佐の率ゐる部隊をして唐庄子附近に在りて、第二軍の左側を警戒せしめ、主力を水泉に集合し六時に至り主力を同村に、騎兵第三聯隊を柳木溝に宿營せしむ。

## 九 九月三日の狀況

旅團は朝來水泉及唐庄子附近に在りて、第二軍の左側を警戒す（騎兵第十四聯隊は午前七時二十分北部唐庄子を出發し、八時水泉に到り本隊に合す）午後一時頃敵兵退却を開始し、停車場附近の甚だ混亂せるものゝ如きを知り、東干河子に前進せんを安東少將令下に配屬せし騎砲兵中隊を招致し、騎兵第十一聯隊を前衛とし、唐庄子を経て高湧子に向ひ前進し、騎兵第三第六聯隊の唐庄子附近、騎砲兵中隊の同村西北に於て旅團に合するや、騎兵第十一聯隊を東干河子附近に派遣して、遼陽以北を搜索せしめ、更に同第十三聯隊を前衛として、高湧子に向ひ前進し、三時頃同村南方十字路に達す。

然れども第四師團未だ前進運動を開始せざりしに因り、停止して敵情を搜索し六時四十分に至り宿營に就けり乃ち騎兵第三第六聯隊及騎砲兵中隊は北部唐庄子に他は高湧子に宿營す。

騎兵第十一聯隊は午後三時東干河子に達し、太子河兩岸に敵の監視兵あり、且つ同地附近に徒渉點なきを知り

高湧子前進



五時高湧子に歸還し本隊に合し宿營す  
此夜軍は敵兵退却し其第一線部隊のみ一時抵抗を繼續せるものと判断し、諸隊をして猛烈に攻撃せしめ敵陣地を占領せり。

### 十 九月四日の状況

旅團は午前八時騎兵第六聯隊を遼陽停車場方向に、同第十一聯隊を太子河左岸に派遣したる後、同第十三聯隊を前衛とし、九時十五分高湧子を出發し、十時養魚池に到る、當時前衛は東干河子に達せしも其附近に敵の隻影なく、乃ち同時二十分養魚池を出發し十一時前池に達す、此時騎兵第九聯隊増加し來り合す、然れども騎砲兵は道路不良にして行進大に遲滞し、到底之を鐵道橋附近に到らしむること能はず、且つ太子河の橋梁は敵の燒夷する所となり、而も水深く徒渉すべからざるが故に、主力は東干河子附近に在りて、第二軍の左側を警戒せんことを欲し、午後零時二十分騎兵第十一聯隊に命ずるに、極力敵と接觸し日没に至れば、東干河子に歸還すべきを以てす。

乃ち同隊は太子河左岸に沿ひ井爾屯に到りしも、橋梁燒夷し徒渉場なく、且つ對岸に敵の監視兵在りて渡河するを得ず、五時三十分東干河子に同第六聯隊は午前十一時二十分遼陽停車場に達し、更に後韓家夾河附近に到り太子河を偵察し、諸橋梁燒夷せられ鐵道橋の上流約一千米に歩兵の徒渉場あるを發見して報告し、停車場附近に宿營す。

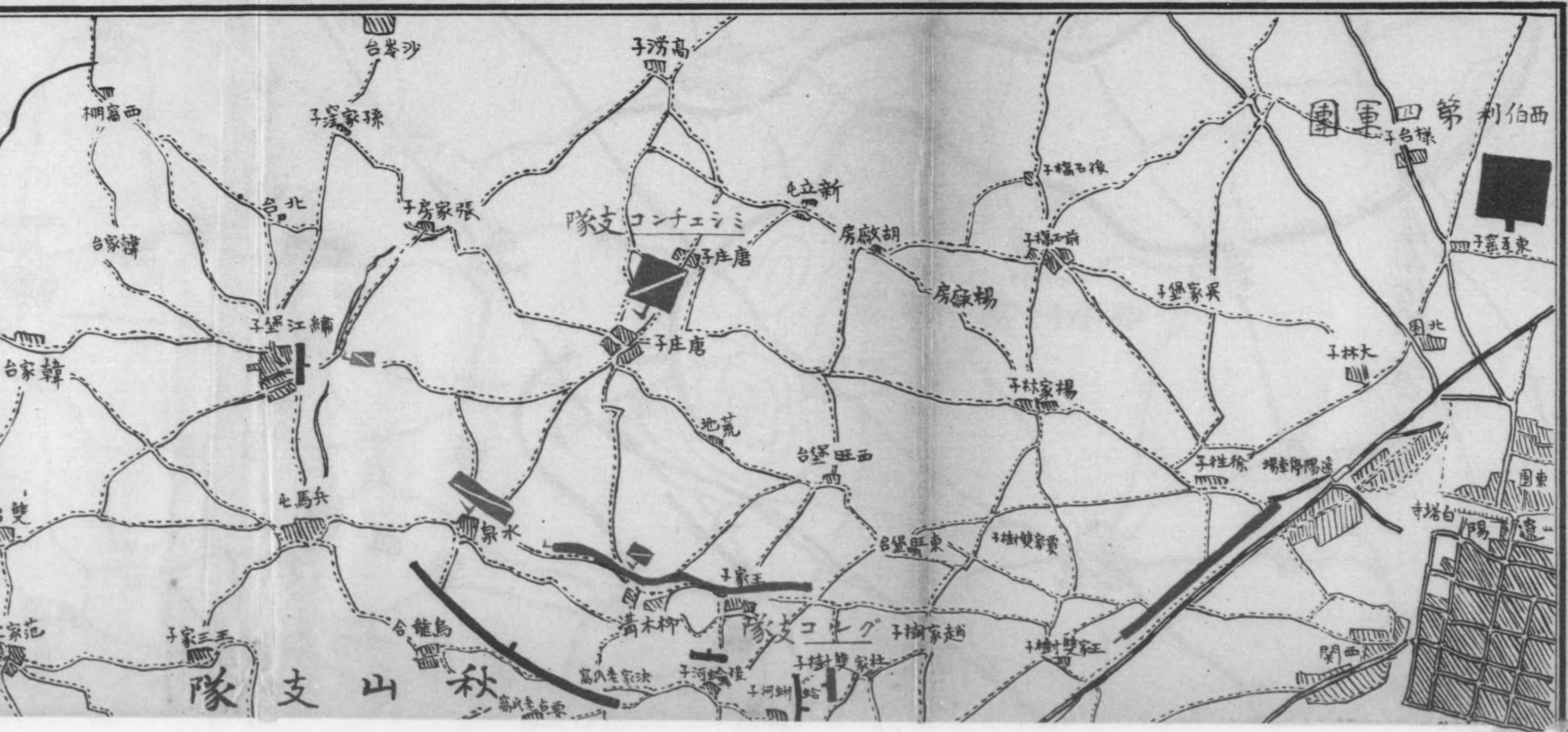
太子河に向  
ふ追撃





# 遼陽附近之戰

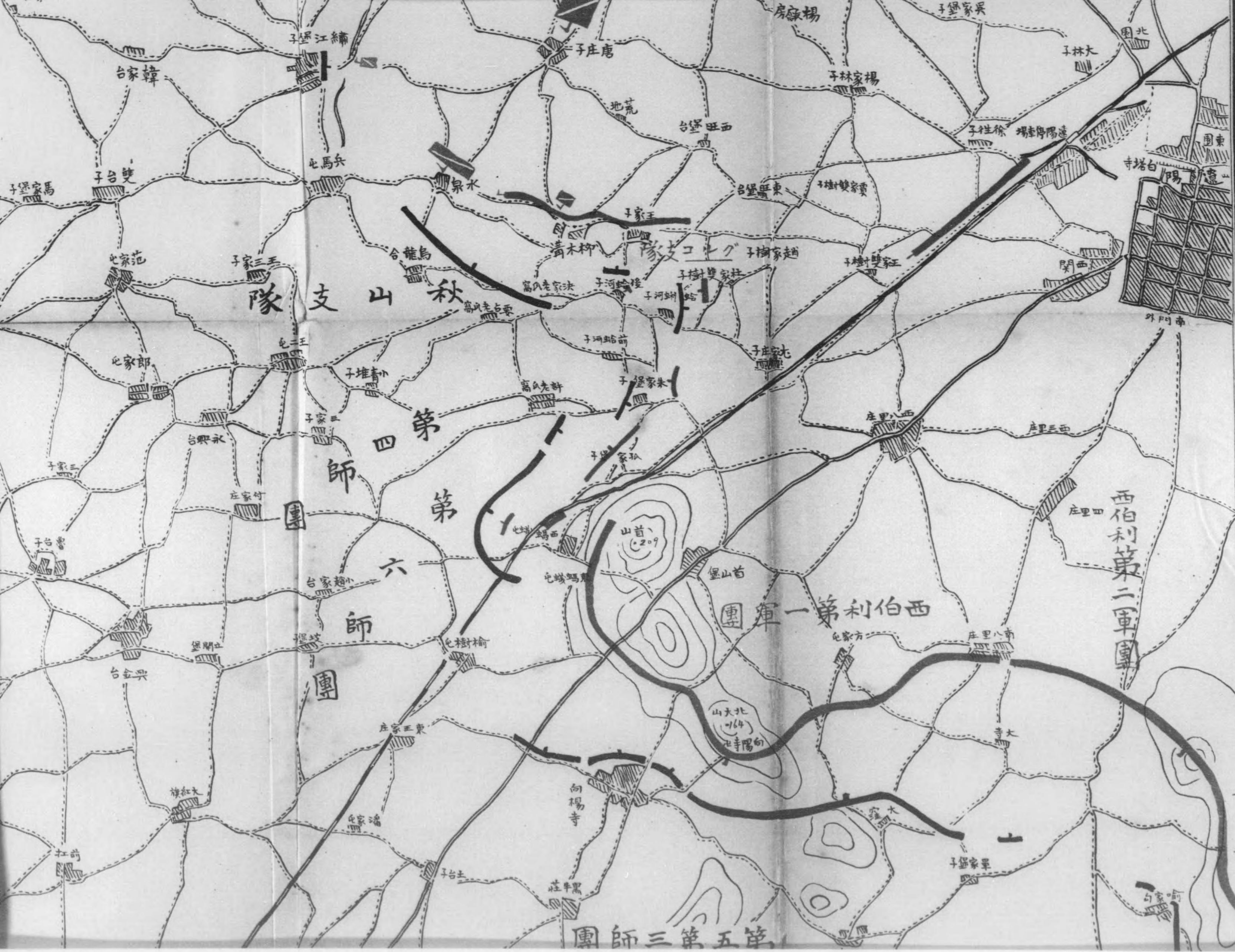
八月十三日午時三十分位置









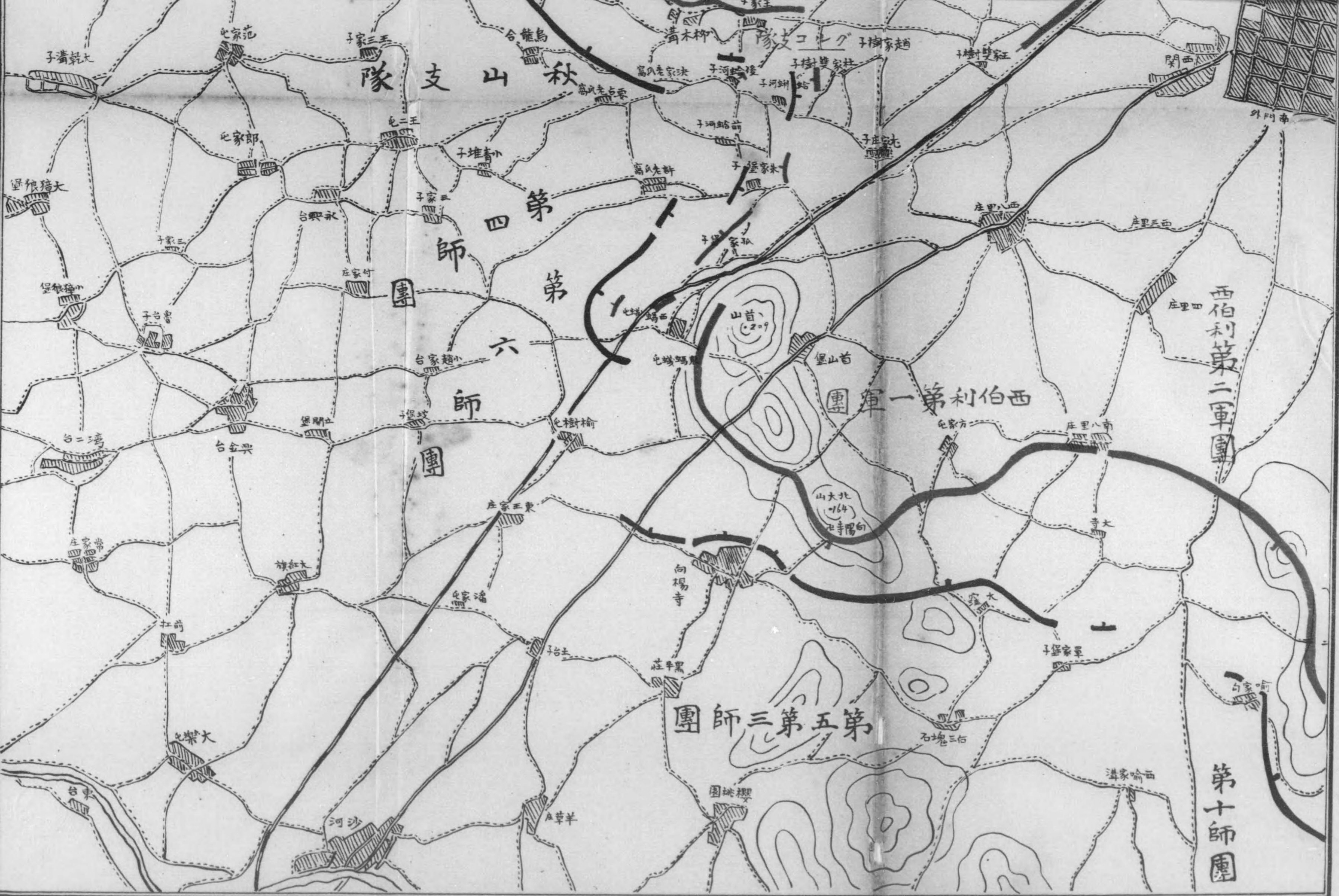


り太子河を偵察し、諸橋梁燒夷せられ鐵道橋の上流約一千米に歩兵の徒渉場あるを發見して報  
 近に宿營す。









第五圖







太子河右岸  
進出準備  
(小北河附  
近の架橋)

旅團は午後一時第二軍司令官より能ふべくんば敵を追撃し、渾河右岸の地域を搜索し且つ月牙泡(遼陽の西方約八里にして太子河右岸に在り)に武装せる敵の汽船を拿捕し、若し同地附近に橋梁あらば之を占領すべき命令に接し、同時三十分騎兵第十四聯隊第四中隊を月牙泡方向に派遣す。

是夜旅團は東干河子及養魚池附近に宿營す、騎兵第十三聯隊は太子河に於て河舟の蒐集に任ず、當時佟庄子附近に戎船十八隻あるも、敵兵船底を損ひ直に使用する能はず、乃ち船夫を備ひ之を修理せり。

九月五日 軍命令により駱駝背附近に現出せる、敵騎約一中隊を撃攘せしむべく、騎兵第十四聯隊(第二第四中隊欠)を派遣せしも、其訛傳なるを明らかにし六日歸來す。

旅團は太子河の通過極めて困難なりしに依り、追撃を斷念し暫く主力を以て軍の左側を警戒し、一部を以て敵に觸接し、且つ地形を偵察せんを欲し、東干河子に駐りしも夕に至り敵兵太子河の諸軍橋及鐵道橋を燒夷し、而も太子河は木廠附近外の徒涉場なく、加ふるに敵の歩兵約一中隊、機關銃五、六挺及砲若干迎水寺附近に停止し、我兵の渡河を妨碍し井爾屯附近の對岸に船十八隻あるも敵之を破壊し、使用するを得ざるを知り、小北河附近に於て太子河を渡り、敵の右側に動作せんを欲し、先づ各聯隊をして將校斥候を以て、太子河右岸の敵情を搜索せしめ、別に騎兵第九聯隊(第三中隊欠)(平佐少佐)をして、黃泥窪附近に到り能ふべくんば其以西の渡場を占領し、且つ大灣方向の敵情を搜索し、遼河及渾河間の地形を偵察せしむ、乃ち該聯隊は此日朝、養魚池を出發し東道崗に到り宿營せり。

正午過ぎ旅團は曩に小北河附近に在りて、太子河を偵察せる騎兵第十四聯隊第四中隊の報告により、同地南方



太子河の渡場附近に架橋材料（多数の小舟、馬匹十頭を載せ得る門橋二個あり）の乏しからざるを知り、直に在東道崗騎兵第九聯隊に對し、將來渾河の右岸に動作すべき第二軍の一部の爲太子河及渾河渡過の設備を講ずべく、然れども工兵を派遣し得ざることを命ぜり、乃ち聯隊長平佐少佐は六日早朝三臺子（小北河北方約四里半）及大灣方向の敵情を搜索し、尋て第一中隊の一小隊を徒歩にて小北河に差遣し直接警戒に任じ、聯隊の殘餘を以て小北河渡場の南岸に到り、敵の燒夷せる軍橋の舊橋礎を利用し蒐集せる材料を以て夜間舟橋を架設し（建川、坂野少尉以下六十名を工事に任じ、且つ土民三十五名を役使し、午後二時より十時迄には諸兵の通過に堪ふる全長百十米の舟橋を完成し、更に門橋開閉に要する設備を施せり）直に第二中隊の二小队を以て、該軍橋の彼岸を占領し、三臺子及大灣方向を警戒す。

滿洲軍に左の勅語を賜はりたり（九月六日）

遼陽ハ敵ノ兵略要地ト爲シ夙ニ防備ヲ嚴ニシ軍資集積シ全力ヲ竭シ死守セシ所今滿洲軍萬死ヲ冒シ百難ヲ排シ奮戰激闘數晝夜ヲ連ネ遂ニ之ヲ拔ク

朕深ク其功烈ノ偉大ナルヲ嘉ス

惟フニ其畫策慎重ニシテ果斷其運動整齊ニシテ敏活而シテ爾將卒之ヲ貫クニ忠誠勇武ヲ以テスルニ非サレハ焉ソ能ク此ニ至ルヲ得ン抑作戦ノ前途ハ尙遼遠ナリ爾將卒其レ自愛堅忍更ニ全局ノ大成ヲ期セヨ

軍は遼陽占領後太子河左岸遼陽附近に兵力を集結し、戰鬪力の回復及太子河渡過の設備に意を注ぎ、鐵道橋並に遼陽、沙河間の鐵道の改修に勉め、井爾屯北方太子河に永久軍橋の架設に着手す（十月八日完結す）

## 第七章 第二軍左翼の行動

小北河方向  
轉進

旅團長は七日午前十時三十分小北河附近の架橋完成の報を得、且つ敵兵遠く北方に退却し、大灣附近の敵の大部も亦既に東北方に退却せるが如きを知り、騎兵第六聯隊（第三中隊欠）を小紙房、同第十三聯隊を佟庄子附近に留め専ら斥候を以て前面の地形偵察敵情搜索に任ぜしめ、主力（騎兵第十四第三第十一聯隊、機關砲四門及騎砲兵中隊）を以て八日黃泥窪、小北河間に轉進す。

騎兵第九聯隊は七日七臺子、媽々街及創臺子の各渡場を占領し、八日主力を以て七臺子に前進し、遠く奉天及大灣方向の搜索に任ず。

是より先旅團は太子河、渾河の下流の船舶を蒐集せんとし、騎兵第十三聯隊第三中隊（二小队欠）を五日同第三聯隊第二中隊を六日小北河方向に赴かしめ四十八隻を得しも尙不足せしに依り、八日在小北河の中村支隊をして収集せしめ（旅團は此日より牛居方向に運動を開始せんとし、中村支隊此任に當る）十日更に三十隻を得たり。

中村支隊は第四師團より小北河附近に派遣したる一支隊にして、歩兵第九聯隊（第三大隊欠）騎兵第四聯隊第一中隊、工兵第四大隊第一中隊の一小隊より成り、中村歩兵中佐之を指揮し、七日午後二時小北河に到着し、同地附近に於て搜索並に警戒に任ぜるものなり。

九月九日 旅團は諸報告を綜合し、奉天方面に在りては十里河に少數の敵の騎兵林盛堡に諸兵連合の敵兵、樹



林子及長浪堡に兵力未詳の敵騎あり、長灘方面に在りては其騎幕部家林子、來勝堡及王崗堡附近の線に在り、而して蘇湖堡及其附近に騎兵約一千砲六門あるも、南部長灘の敵騎八、九十は八日張庄子を経て東北方に退却し、大灣附近の敵の歩、騎兵約一千砲六門七日正午頃カ力馬方向に退却せしを知り、牛居方面に進出せんを欲し、騎兵第三聯隊をして長灘附近並奉天方向の敵情を搜索、且つ長灘附近の渾河を偵察せしむ（八月十八日三叉河附近に派遣せる長谷川少佐指揮の八家子守備隊たりし騎兵第十四聯隊第二中隊及機關砲二門は、此日各原隊に復歸せり）乃ち同聯隊は十日七臺子、牛居を経て黒溝臺に又佟庄子に在りし同第十三聯隊は同日河公堡に前進せり。

九月十一日 旅團は夕刻迄に敵の騎幕渾河左岸に在りては大油虫堡、李大屯及大韓臺の線、同右岸に在りては李達堡、大潘建臺、大高花堡の線に互り又大、小對頭灣（長灘西北約七里）方面に在りては七日南方よりカ力馬（長灘西方約七里半）に來りし敵の騎兵約五百、九日午後大、小對頭灣方向に退却し、從來同地附近に在りし歩騎兵約一千、十日朝北方に退却せしもの、如く我搜索隊（騎兵第九聯隊より派遣せる森田大尉の指揮せる二小隊）は此日午後一時頃敵騎約三十を該地附近に襲撃して之を破り、又騎兵第十四聯隊の將校斥候（中路少尉は九月一日八家子發遼河右岸の地區を前進し、同五日公主屯（新民府東北約六里）附近に達し、爾後再び八家子を経て十一日小北河に歸還す）及各隊の報告に依り鐵嶺、長山子方向に在りては鐵嶺に敵の歩兵二千騎兵一千石佛寺に騎兵一百老邊附近に歩兵三千騎兵五百砲十二門巨流河（新民府東北約二里）に騎兵二百茨林子に歩兵一百騎兵二百公主屯附近に歩兵二千騎兵五百砲八門同地附近遼河上に二舟橋あり、又鐵嶺東西に互る高地に防禦工事を施し開原に歩騎兵約二百あるもの、如きを知り、先づ南部長灘に在りて搜索に従事せし騎兵第三聯隊を牛居に派遣

太子河右岸  
牛居進出

し、旅團の主力の前進を待たしむ、當時騎兵第六聯隊は小紙房附近、同第十三聯隊は河公堡附近同第九聯隊は七台子附近に在りて敵情を搜索し、旅團の殘餘は小北河附近に在り。

九月十二日 旅團の主力は牛居に向ひ前進し、騎兵第三聯隊を併せ此夜牛居及三家子附近に宿營す。

騎兵第十三聯隊長田村大佐は同第六聯隊を併せ指揮し、田村支隊を稱し旅團主力の行動に伴ひ狼洞溝に前進し同第九聯隊は依然七台子附近に在りて搜索に従事せり。

九月十四日 午後騎兵を基幹とし砲四門を有する諸兵連合の敵兵東北方より南部長灘に前進し來るを以て旅團の諸隊は警戒を嚴にし、各宿營地に防禦工事を施して之を待ちしも前進を中止し東北に退却せるに依り、旅團は機を見て黒溝台附近に前進せんと欲し敵情を搜索す。

長谷川少佐の指揮下に在りて八家子守備隊たりし騎兵第十三聯隊第二中隊は十四日狼洞溝に於て聯隊に復歸せり第二軍は軍の主力を逐次太子河右岸に移さん欲し、十六日各師團より歩兵一聯隊を基幹とする先進支隊を派遣し十七日各師團の戰鬪部隊を太子河右岸に移動せしむ、中村支隊も亦三家子附近に進出し、騎兵第二旅團は第一軍に屬し、鐵道線路以東の地に動作することゝ爲りしが故に、我騎兵第一旅團は全力を擧げて軍の運動に伴ひ動作せんを欲し、十六日田村支隊（機關砲二門を附す）を沈且堡に進め旅團の右側警戒に任じ、騎兵第九聯隊をして土台子附近に進出して敵情を搜索せしめ、殘餘を率ゐて黒溝台に進出し、暫く搜索根據地を沈且堡及黒溝台に置き、併せて軍の運動を掩護す、當時前面の敵情大なる變化無く、時々斥候の衝突せるに過ぎず。

九月十七日 午前十時砲二門を有する敵騎約二百北台子に進出し、高粱を踏み倒し、閘扉を擧げて沈且堡北端

三家根據地  
沈且堡  
黒溝台附近  
に進む



に來襲す、前哨たる騎兵第十三聯隊第二中隊は徒歩散開せるも高粱の爲め目視するを得ず、十數騎大豆畑に現はれしを以て之を射撃す、同時敵砲二門北台子南端家屋の蔭より砲撃を開始せ（距離約九百米）も彈丸は我後方約二千米に炸裂し更に損害なし、時に我左翼陣地に放列を布置せる機關砲敵騎を掃射するや、其流彈偶然敵の砲兵陣地に命中し、大なる損害を受けて退却し、敵騎亦此の威力に辟易せるものゝ如く、襲撃の功空しく倉皇退却せり、田村支隊本隊は警急集合せるも敵兵退却せるを以て解散す。

編者は此戰鬪に於て目撃したる敵の美しき行動を附記す。

敵騎我前哨二十米前にて我射撃の爲負傷落馬し、其馬我散兵に接近せるを以て之を捕獲するや、更に一頭疾走し來る故に亦捕獲せんとし、之を射撃せざりしに傷者の傍に駐まり、直ちに其傷者を馬上に收容して退却す、乃ち馬のみに非ず敵騎なりしを知り、急遽射撃せるも遂に逃走したり、是敵騎は馬術に熟達し、又毎に危険を同じして巧みに死傷者の收容に勉むるものなり。

「土屋大佐曰く二十米に於て鞍上の人を發見せざるが如きは、誠に奇なるが如きも蓋し戰場の實話なり」

田村支隊は十六日以来沈且堡に在りて各方面を搜索警戒し、且つ第二軍の運動を掩蔽す、敵の騎幕は李大屯、大東山堡、金山屯、二台子、孤家子、張庄子、長灘の線に在りて情況大なる變化なく斥候の衝突に過ぎず。

九月十九日 田村支隊は敵兵前進の模様あるを以て、警急集合せるも遂に前進せざりき。

旅團は渾河右岸の騎兵部隊をして小北河附近の糧秣集積及其舟運を掩護せしむべき第二軍命令を得、乃ち騎兵第九聯隊をして此任に當らしめ（第一中隊の一小隊を土台子に残置して長灘方向を警戒し、主力は二十二日三台子

小北河倉庫  
渾河舟運の  
掩護

に移轉せり）二十一日黒溝台に來るべき中村支隊を指揮し、奉天並に新民府方向の敵情を搜索し、且つ地形を偵察し、兼ねて第二軍の左側を警戒し、渾河右岸の騎兵部隊をして依然小北河の糧秣集積及舟運掩護に任せしめ、又歩兵を渾河右岸に派遣すべからざる第二軍命令を得、二十二日中村支隊の主力を黒溝台附近に宿營せしめ、歩兵第九聯隊第二大隊（第六中隊欠）を沈且堡に進め、騎兵第十三聯隊長田村大佐の令下に屬し、且つ騎兵の一部を沈且堡の東方四五千米に派遣し、第二軍主力の情況を掩蔽せしむ、即ち田村大佐は溝子沿に騎兵第三中隊を派遣し、二十三日以後晝間は大觀音閣に置き、夜は沈且堡に歸還せしめ、各中隊交互に交代服務す。

渾河沿岸の  
搜索

旅團を主力とする秋山少將の率ゆる部隊を秋山支隊と稱し、概ね其配備を繼續して沈且堡、黒溝台、三台子の線に停止し、時々騎兵一、二中隊を渾河兩岸の地區に沿ひ派遣せり、然れども敵情概して變化なく、渾河左岸に在ては騎兵を主力とする一、二千砲二乃至八門を有する敵兵依然蘇湖堡、官立堡、大庄料の附近に在るものゝ如く、其騎幕は萬家園子、黒林台、孟達堡、楊樹林子、新台子、大韓台、頭台子の線に在りて、此諸村に五十乃至二百の敵騎あるものゝ如く、其斥候は李大屯、金山屯、孤家子、周官堡の線に出沒せり、同右岸に在ては林家台、大民屯（長灘西北約八里）附近に各騎兵一千歩砲兵若干を連合せる敵兵あるが如く、其騎幕は李達堡、大高花堡、揚士崗子、皮家堡子、冷子堡、大對頭灣の線に在りて、此諸村にも百乃至二百の敵騎あるものゝ如く、其斥候は長灘、太平庄、養猪園子の線に出沒せり、而して大潘建台附近の敵は槍騎兵にして新に該地方面に増加せるものゝ如く二十五、六日頃より漸次其騎幕を強大にせるの徵あり、然るに二十九日第二軍司令官より明三十日大東山堡、柳條寨、大觀音閣附近に各師團より一支隊を派遣すべき通報並に騎兵第三第六聯隊を原師團に復歸せしむべ



き命令に接し、田村少將（田村大佐は九月二十一日陸軍少將に昇進し、騎兵第二旅團長に補せられしも、新任騎兵第十三聯隊長騎兵中佐小池順著任迄依然聯隊の指揮を執りし）をして、大觀音閣附近の第四師團先進支隊に連絡せしめ、又歩兵第九聯隊第二中隊の一小隊を以て、七台子の渡場を準備し、在三台子の騎兵第九聯隊の背後を掩護せしむ。

九月三十日 午後一時頃敵騎四、五十長灘に侵入し、同村附近の船舶を焼夷せんとせしも、南部長灘附近に派遣せる我監視哨之を驅逐せり。

渾河右岸の敵兵漸次活氣を呈す

十月一日 支隊は後備歩兵第四十六聯隊第七中隊の軍兵站監に屬し、吳家崗子（小北河の西方）に到り、小北河及渾河の水路輸送を掩護せるを知り、尙ほ二日午後一時在土台子騎兵第九聯隊第二中隊の一小隊より敵の運動兩三日來稍活氣を呈し、其有力なる斥候土台子の前面に出没し、又砲二、三門を有する敵の騎兵約二百馬力馬に來れりとの報に接し、七台子守備隊を増加す、乃ち歩兵第九聯隊第二中隊は此日同地に着し、先遣の一小隊を合せ守備に任ず、午後十時三十分頃敵の徒歩兵約四十在土台子の騎兵第九聯隊第二中隊の一小隊を襲ひしも、幾くもなく退却せり。

十月四日 午前九時歩兵第九聯隊第二中隊、騎兵第九第十一聯隊を河村中佐に指揮せしめ、三台子、七台子間に置き、渾河右岸の敵情搜索並に地形偵察及太子河水路輸送の掩護に任じ、又騎兵第十四聯隊より搜索隊を渾河右岸に派遣し、土台子を経て西鮎魚泡に向ひ前進し、斥候を以て諸方向の敵情を搜索せしむ。

朝來長灘及英架子附近の土民土台子に避難し來る者多く、其言に依れば昨日來多數の敵の騎兵朴坨子、前、後三

台子附近に増加し、此日午前九時敵の騎兵約二百砲二門長灘に進入し、從來のものに合し、砲十餘門ありと、而して長灘に兵力未詳の敵の歩騎兵現在せるは確實なりと雖、大叭拉堡子、英架子、北台子に敵無く、何家庄子に歩兵約百前三台子に僅少の敵騎あり、又敵の騎幕は依然大潘建台、大高花堡の線に在るを知りしも、其後敵情著しき變化なく、六日騎兵第十一聯隊長河村中佐は第一中隊を茨榆坨に派遣し、黃臘坨子より馬園子に互る間を警戒し、土台子の小隊を撤するや、午後三時頃に至り敵の騎兵約二中隊長灘より前進し、其主力土台子に、一部後烟台子に侵入す、避難民の言に據れば敵の騎兵約三百歩砲兵若干土台子に、歩兵約二百長灘に到着せり、而して敵の警戒線は依然變化を認めざるも、其搜索部隊は兩三日來我前哨前に出沒するに依り、支隊は嚴に之に備へたり。

午前の狀況

十月七日 支隊は午前九時三十分韭菜河子に在る騎兵第十四聯隊第二中隊より前夜敵の騎兵約二中隊長土台子に約一小隊後烟台子に侵入し、今朝後烟台子北端の森林に砲一門ありと、又十時三十分更に同隊より渾河右岸各渡場の敵の監視兵も亦續々森林に集合し、又今朝敵の騎兵約二百周官堡西南に在りとの報告を得、同時豐邊入佐より斥候の報に依れば、午前九時五十分敵騎約百後烟台子より前烟台子に行進中なりとの報告に接し、後烟台子渡場監視隊を前烟台子の西方約一キロの徒涉場に移し、支隊主力の左側を警戒せしめ、十時三十五分支隊の主力に警戒集合を命じ、騎砲兵中隊を黑溝台西端、機關砲隊を同地北端の陣地に就かしむ、尋て歩兵第九聯隊の一中隊をして前烟台子附近の敵を擊攘し、騎砲兵中隊をして之を援助せしめ、騎兵第十四聯隊の一中隊を黃臘坨子渡場に分遣し、同地附近の敵情を搜索し、且つ支隊主力の左側背を警戒せしむ、乃ち歩兵第九聯隊第三中隊は少數の



敵騎を驅逐し、正午前烟台子を略取し、同地に在りし敵騎約五十は土台子方向に退却せり。  
河村支隊は午前八時吳家崗子の後備歩兵第四十六聯隊第二大隊の通報に據り、敵兵五百餘前夜カ力馬に來りて人家に放火せしと、尙ほ敵騎約四百砲四門同夜土台子に宿營せるを知る、一時三十分秋山支隊長より第一軍方面の敵活動の狀あるを以て、速に前面の情況を審にすべき命令を受く、同時敵騎七八十黃臘坨子の我小哨を驅逐して同村を占領し、尙ほ茨榆坨の前面にも二、三十現出し、西荒地に約三十及徒歩兵約七十あるを知る、依て支隊をして徒歩警急集合せしめ守備に就けり。

午後の狀況  
(黃臘坨子の敵襲)

支隊主力は爾後土台子附近の敵兵運動の狀ありしに依り、午後二時頃騎砲兵中隊を以て之を射撃し、同時四十分頃に至り漸次北方に退却せるが如くなるも、候家窩棚附近に敵の歩兵約三中隊現出せしに依り、更に騎兵第十四聯隊第三中隊の一小隊機關砲一門を前烟台子に派遣し、同地を守備せる歩兵中隊に増加し、其占領を確實にし、且つ前面の敵情を搜索せしむ、然るに幾くもなく土台子附近の敵兵四方台に退却し、其一部は後馬鏡嶺子附近に停止せるものゝ如し、是より先黃臘坨子の渡場に派遣せる騎兵第十四聯隊第三中隊は午前十一時五十分同地に達し、直に其一小隊を以て同地對岸を占領し、主力を其後方二百米に置き、午後零時五十分に至り敵の騎兵約二十北方より河岸に沿ふて南下し、黃臘坨子の北端に達し、尙ほ四集團の後續部隊ありしに依り、主力を以て渡場の東北約二百米の小樹林に散開して、徒歩戰を以て敵騎の集團に對し射撃を開始す、然るに敵の兵力騎兵三中隊機關銃二挺にして、直ちに其騎兵二中隊を黃臘坨子東北端に徒歩散開して、機關銃と共に應接し、對戰約四十分敵火益々優勢なりしが故に、我兵高粱中に隱匿す、敵は二時二十分に至る迄射撃を繼續し、爾後其主力は高粱中

に隠れ土台子方向に退却せり、是時勉めて戰鬪を避くべき聯隊命令に接し、唯停止して敵情を監視せり、然るに敵騎約二十尙ほ黃臘坨子に止りて我に對せしと雖、四時頃河村支隊の搜索隊(騎兵一中隊歩兵半小隊)の同村に前進するや直ちに北方に退却せり、尋て支隊命令に依り一小隊を殘置して渡場を監視せしめ、他を擧げて黑溝台に歸還せり(此戰鬪に於て我損害乘馬死傷三)

支隊長は午後六時迄に土台子附近に來りし敵兵五時頃悉く北方に退却し、其主力四方台附近に停止せるを知り、機關砲及騎砲兵中隊をして陣地を撤し、其他の諸隊をして警戒を解き各宿營に就かしめ、唯前烟台子を守備せる歩兵第九聯隊第三中隊のみ依然該地に留め土台子方向に對し警戒せしむ、此頃敵の騎兵は濃密となり且つ太平庄、寶相屯、張庄子附近の線に前進し漸く活動の狀ありしに依り、諸隊に命じ嚴に之に備へしめ、現在の地に停止せり(著しく優勢の敵兵前進せば牛居附近に移らんを欲し、諸隊の大行李及彈藥縱列を明日牛居に移さんせり)田村支隊は今朝土民より周官堡と張庄子との中間に敵の歩兵八百騎兵二百砲三門ありとの報を得、之を搜索中秋山支隊長より所屬の歩兵を一中隊とし、他を原隊に復歸せしむべき命令に接したるを以て、張庄子附近の敵情を審にする迄大隊本部及一中隊の歸還の猶豫を請ひしも、午後二時三十分頃前日の情況に大差無きを知り、明八日歩兵の大隊本部及一中隊を黑溝台に復歸せしむるに決し、之を秋山支隊長に報告せり、然るに四時頃秋山支隊長より優勢なる敵の騎兵河村支隊を壓迫し、朝來交戰中にして歩兵の兵力不足を感ぜるの故を以て容るゝ所を爲らざりしも、此頃黑溝台方面の狀況略沈靜に歸せし如く、時既に遲きに依り依然歩兵の歸還を明早朝せり。

河村支隊は午後二時騎兵第九聯隊第二中隊に歩兵第九聯隊第二中隊の一小隊を屬し、黃臘坨子附近に差遣し、土

河村支隊  
黃臘坨子の  
搜索



台子方向の敵情を搜索せしむ、乃ち同搜索隊は四時頃敵騎約二十を驅逐して同村を占領し、土民の言に依り砲四門を有する敵の騎兵約三百土台子に在るを知り、依然同地に停止し、日没後三台子に歸還せり、是より先午後四時四十分前面の情況變化なきが故に、支隊は宿營に就き警戒を嚴にせしも、八時四十分に至り秋山支隊長より優勢なる敵の壓迫を受ければ一部を七台子附近に置き、主力を以て吳家崗子附近の後備歩兵隊と協力して、動作すべく敵兵三台子に進出するに方りては、支隊主力の一部を以て前、後烟台子附近より敵の左側背を脅威し、間接に援助せんとするの通報あり、尋て十一時五十分秋山支隊長より前、後烟台子に派遣せる歩兵部隊の現在せる間は三〇子に在りて支隊の左側背を警戒すべき命令を得たり。

十月八日 支隊の主力は依然黑溝台附近に在り、土民の言に依れば敵の主力は依然四方台に、其一部は前鮎魚泡に在るものゝ如く、午前十時頃前哨より敵の騎兵一中隊午前八時十分長灘より南部長灘を経て張庄子方向に行進し、又今朝渾河左岸に派遣せる將校斥候より八時頃韭菜河子東方に猛烈なる銃聲を聞きし報告に接し、十一時頃更に敵の騎兵約一聯隊張庄子より周官堡を経て孤家子に向ひ、其先頭午前九時三十分同村に達し、而かも車輛（機關銃）五、六を有するものゝ如きを知り、十一時四十分田村支隊に屬せし歩兵第九聯隊第二大隊本部及第八中隊を依然其地に停止せしめんとせしに、該隊は既に午前八時頃沈且堡を出發し、黑溝台に向ひ途中沈且堡西南端を距る四百米の地に於て、突然柳條口より東進せる敵の騎兵約二中隊に會し、急遽射撃して之を潰走せしめ、少時該地に停止せしも、其後敵の一部は張庄子方向に、主力は長灘方向に退却せるに依り、正午出發午後三時黑溝台に歸還せり。

在沈且堡田村支隊は午四時敵の五、六箇師團は渾河を涉り南進の模様あり、我軍は敵の前進を待ちて攻勢に轉せんとするの通報に基き、警戒の準備を爲し敵の前進を待つや、八時過ぎ敵の騎兵約二中隊沈且堡西南端に前進せるを以て、直ちに警戒集合し之に備へしも、該敵は歩兵部隊の爲撃退せられたり、尙ほ敵騎二三百周官堡より北台子に向て前進せるを以て陣地に就き機關砲亦放列を布き前進を待ちしも、爾後前進せざるを以て午後六時陣地を撤す。

支隊主力は午後一時頃前烟台子の歩兵第九聯隊第四中隊を一小隊に滅じ（騎兵第十四聯隊第四中隊の一小隊を附す）該小隊にして黑溝北台端の渾河渡場の掩護し、且つ河村支隊との連絡に任せしむ、二時三十分頃在三〇子河村中佐より昨夕東荒地に敵の歩兵七、八百少數の騎兵と共に來り同村に放火し、又腰荒地に歩騎兵約一千西荒地に三、四百進入せるの報を得、三時二十分其支隊として七台子附近に移らしめ、且つ一部隊を前方に派遣し、敵と接觸せしむるに至り命令を下し、明九日騎兵第十三聯隊より孤家子方向に、同第十四聯隊より周官堡方向に、河村支隊より四方台方向に約一中隊の搜索隊を派遣せしめ他は依然停止す。

此夜田村支隊より當面の敵の兵力は騎兵約一千歩兵約百五十にして、屢々張庄子を経て孤家子に進ませしも、爾後主力を小韓台附近に留むるものゝ如く、尙ほ土民の言に依れば砲四門を有するに似たり、又大油虫堡に敵の騎兵約一千青稚子に多數の敵騎黑林台、富家庄には各三、四十、金山屯に歩騎兵若干ありこの報あり、尙ほ河村中佐より東、西荒地に砲四門を有する歩騎兵約一千五百ありとの報告に接せり。

十月九日 支隊は依然黑溝台附近に停止す、午前九時渾河右岸四方台、東、西荒地附近に來りし敵は騎兵を基



幹とし、其數約二千なるが如く、又同左岸に進進せるものは約一千五百にして、其主力を大、小韓台附近に留めしが如きを知る、尋て十一時三十分田村支隊の報告に依り、八日夕以來孤家子南端より周官堡南端の線に敵の監視あり、而して前日我前面に來りし騎兵の主力は大、小韓台附近に宿營せしもの、如く、又午前九時三十分頃敵の歩兵若干騎兵五、六十小韓台より孤家子に向ひ前進し、機關銃二挺を有するが如くにして、其支隊の警急集合せるを知りたるを以て、若し優勢の敵の壓迫する所を爲らば、歩兵約一中隊騎兵二中隊（各中隊二小隊）騎砲兵一小隊機關砲一門を豊邊大佐に指揮せしめ、黒溝台の東北約三千米附近を占領し、其支隊の退却を掩護せんと欲す、故に田村支隊は情況に依り要すれば騎兵の一部を残置し、主力を以て古城子附近に背進すべきを命ぜり、然るに午後二時三十分田村支隊より孤家子北方に敵の數騎各處に徘徊し、尙ほ機關銃の如きもの小韓台東南約五百米に在るも、曩の孤家子に向ひ前進せる敵騎五、六十は二台子方向に轉進し、土民の言に依れば前夜敵の歩兵小韓台及周官堡に宿營し、騎兵の主力は田水堡を経て東北方に行進せりとの報あり、依て秋山支隊長は午後六時迄の諸報告に據り、兩三日來渾河右岸より前進せし敵を搜索騎兵の主力なりとし、未だ其大部隊の前進を開始したる徴候を認めざるを以て、尙ほ現在の位置に停止するに決し、特に河村支隊をして東、西荒地カ力馬方向を搜索せしむ。

是夜田村支隊より朝來敵の騎兵五、六十小韓○より二○子方向に轉進せるのみにして大、小韓○附近に斥候及傳騎の出沒せしに過ぎざるも實相屯、孤家子、周官堡の線に於て、騎幕に代ふるに歩兵を以てしたるもの、如く、敵の砲兵我第三師團の先進支隊を射撃し、第六師團先進支隊は柳條寨に在りて警急集合せりとの報告あり。

河村支隊は早朝前哨騎兵第一中隊を三台子に残置して、從來の警戒配置を取り主力を以て七台子に到り、渾河右岸より北門迄を歩兵第九聯隊第二中隊、北門より西門迄を騎兵第九聯隊（第三中隊）西門より南門の東方に到る迄を同第十一聯隊第三中隊を以て、各防禦工事を施し之を守備せるも、敵情著しき變化無く午後に至り四方台に敵兵なく、張家窩棚に歩騎兵約二百ありて、其警戒線は長灘、張家窩棚の線に在るを知り、午後四時頃敵騎七、八十北方より茨榆坨に前進し、同村の我獨立下士哨を撃退し三台子に前進し、又三時頃敵の歩兵約二百烏邦牛の北方を東荒地に前進せし報を得嚴に備ふる所ありしも、其後平穩に歸したるを以て夜に入り宿營に就けり。

## 第八章 沙河の會戰

十月十日 在沈且堡田村支隊前面にありては午前三時四十分北台子に在る歩兵の監視哨敵の壓迫する所を爲り沈且堡北端なる騎兵第十三聯隊第二中隊の前哨内に退却せり、前哨は防禦陣地に據り警戒す、朔風凜烈秋雨蕭々たり、前哨中隊は一小隊を派遣し歩兵と協力して北台子を奪取し警戒せしむ、幾くも無く該小哨は又敵の歩騎兵五、六百の壓迫する所を爲りしを以て支隊は警急集合せるも敵兵其後退却せり。

秋山支隊長は午前六時三十分在沈且堡田村支隊よりの報告に依り、今朝三時頃兵力未詳の敵兵我前哨線に迫り、尙ほ第三第六師團の先進支隊も敵の壓迫を受け、且つ第四師團の先進支隊の大觀音閣及溝子沿に兵力を集結中にあるを知り、直ちに在黒溝台の諸隊にして警急の準備に在らしめ、豊邊大佐をして田村支隊の應援せしめて、混成



の一部隊を沈且堡に派遣せしめ、而して情況之を許せば牛居、三家子附近に赴き、第四師團の運動に伴なひ動作せんを欲し、河村支隊に命ずるに優勢なる敵の壓迫する所を爲らば渾河左岸の黃臘坨子、青龍台（七台子南方約一里）附近に移り得べきことを以てせり、九時三十分田村支隊より北台子に進ませし敵兵午前六時北方に退却し其若干は尙ほ孤家子附近に在るも前進の微なく小韓台、孤家子、周官堡附近の敵は歩兵約一大隊なりとの報告を得、尋て十時長灘附近の敵情夜來變化なきを知り、主力を以て軍の運動に伴なひ古城子を経て沈且堡に前進するに決し、十時十分歩兵第九聯隊第一中隊騎兵第十四聯隊（第一中隊欠）機關砲二門を留めて支隊の左側を警戒せしめ自餘の諸隊を正午迄に黒溝台東南に集合せしめ、十一時五十分河村支隊をして一部隊を黃臘坨子及七台子附近に於て渾河左岸に移し各渡場を掩護せしむ。

支隊長は午後零時三十分歩兵第九聯隊本部及第三第四第八中隊騎砲兵中隊（一小隊欠）並に工兵第四大隊第一中隊の一小隊を率ゐる黒溝台を出發し一時三十分古城子に達し、敵情變化なきが故に更に前進して二時三十分沈且堡に到着し田村支隊の編組を解けり。

是日第二軍は猛烈に敵を攻撃して、第三師團は雙台子第六師團は大東山堡第四師團の一部は郝家屯を占領し、尙ほ前方に進出せり。

豐邊支隊たる歩兵第九聯隊第一中隊騎兵第十四聯隊（第一中隊欠）機關砲二門は依然黒溝台に残留し朝來の配置に在りて警戒す。

河村支隊は午後零時三十分秋山支隊長の命令に據り、騎兵第九聯隊第一中隊の一小隊、同第十一聯隊第三中隊の

一小隊及歩兵第九聯隊第二中隊の半小隊を會木騎兵中尉に指揮せしめ、渾河左岸黃臘坨子に派遣し、其歩騎兵の一部を以て同右岸の黃臘坨子を占領せしむ、乃ち同隊は午後四時七台子出發六時三十分頃同地に達す、前面に於ける敵の騎幕は概ね前邊外、大蓮花泡、穉牛屯、張家窩棚、房身地、鄭家屯、化家窩棚に互る線に在りて其前面に二、三十騎の斥候出沒す、土民の言に依れば敵の歩騎兵約二千砲兵を伴なひ西荒地及阿司牛附近に根據を有するものゝ如し。

是夜支隊主力の歩兵第九聯隊（第一第二第六中隊及第三大隊を缺き機關砲四門工兵第四大隊第一中隊の一小隊を附す）は午後四時より北部沈且堡に宿營し第二大隊（第六中隊欠）及機關砲二門を以て小韓台及長灘方向を警戒し第一大隊（第二第二中隊欠）及工兵小隊を豫備隊とし第四中隊の一小隊を小台子に派遣して荒地方向を警戒せしめ、支隊の主力（騎兵第一旅團司令部、同第十三聯隊、同第十四聯隊第一中隊、騎砲兵中隊、機關砲二門）を南部沈且堡に宿營せしめ豐邊、河村兩支隊は依然黒溝台及七台子に在りて前任務を續行す、敵は依然小韓台、周官堡附近に防禦工事を施して守備せるものゝ如く、其騎兵斥候荒地、北台子、張庄子附近に出沒するのみにして、前面の情況變化なきが故に午後七時秋山支隊長は明日現在の位置に在りて第二軍の運動に伴なひ動作せんを以て、豐邊支隊をして一部を以て七台子、黃臘坨子の渡場を掩護し情況之を許せば渾河右岸を前進せしめんをせり。尋て八時四十五分に至り内田中佐の通報に依り青椎子に敵の騎兵約一聯隊砲兵一中隊李大入屯に騎兵約一中隊あり、且つ金山屯及荒地方向の敵兵前進の模様なきを知りたり、九時頃敵の歩兵約一中隊北台子の小哨を壓迫せしも其後前進せざりき。



十月十一日 支隊は午前四時軍命令を受領す其要旨左の如し  
一、軍は敵を攻撃して十一日十里河より西方に流る、小流の線に向ひ前進し、第四師團は大油虫堡より青椎子に互る線に前進す。

依て支隊は主力を沈且堡に置き出發準備を整へ、騎兵第十三聯隊第二中隊（二小隊欠）（關谷大尉）をして四時出發韓山台附近に到り第四師團の左側支隊と連絡せしめ、支隊長は八時頃敵兵依然防禦の姿勢に在りし、此日尙ほ現在地に留まるに決し韓山台、金山屯、周官堡方向の敵情を搜索せしめ北台子の監視隊たる騎兵第十三聯隊第四中隊の一小隊を歩兵の前哨部隊に代はらしむ。

豊邊、河村兩支隊前面の敵情は朝來其騎兵斥候の出没せし外大なる變化なく、河村支隊は曩に渾河右岸に前進すべき命を受けしも東、西荒地及阿司牛附近の敵兵左側背を脅威するの虞ありしが故に、七台子に在りて搜索を續行す、尋て秋山支隊長の命令に接し依然停止す、豊邊支隊も亦命に依り依然黑溝台に在りて搜索を續行す、正午頃敵の歩兵若干騎兵五六十、土台子に向ひ前進せしも再び北方に退却せり。

午後零時四十分第四師團長より官立堡に向ひ前進すべき同師團の左翼に伴なひ秋山支隊は東北方に前進せんことを望むとの通報に接せしも、當時優勢なる敵の騎兵前面に在り且つ孤家子附近に其歩兵四、五百防禦工事を施し在りしに依り前進の容易ならざる旨を回答せり。

支隊主力は威力を以て孤家子附近の敵情を搜索せんことを欲し午後二時左の部署を爲せり。

一、歩兵第九聯隊の一大隊（約二中隊）は一部を以て北台子を占領し、主力を以て砲撃の成果を待ち孤家子附

孤家子附近  
支隊の威力  
偵察

近の敵の左側背に前進す。

二、騎兵第十三聯隊第三中隊及第十四聯隊第一中隊は、吉利少佐之を指揮し、荒地方向より孤家子方向を搜索す。

三、騎砲兵中隊は沈且堡北方、機關砲二門は北台子北端に放列を布置す。

支隊主力前面に於ては午後一時四十分敵の歩兵約二中隊騎兵五、六荒地方向より孤家子に來り尋て其約一小隊は散開して北台子に侵入し、同地に在りし我斥候は沈且堡に退却せしに依り、二時廿五分在沈且堡の諸隊をして警戒集合し各陣地に就かしめ騎兵第十三聯隊（第二中隊の三小隊、第四中隊の一小隊欠）をして同村東南端の騎砲兵の右翼を警戒せしむ、尋て敵の歩兵北台子南端より沈且堡を射撃し、同村北端に守備せる歩兵第九聯隊第五第八中隊の一部之に應射し、騎砲兵中隊も亦同時五十分より射撃を開始するや敵兵忽ち北方に退却せしに依り、支隊長は三時三十分歩兵大隊をして即時出發せしめ、騎砲兵中隊をして歩兵の北台子に進入するを待ち陣地を變換せしめ、騎兵第十三聯隊を豫備隊とし且つ砲兵の掩護に任じ、吉利少佐をして騎兵第十三第十四聯隊の各一中隊を率ゐて搜索隊を爲し前進し、情況に依り敵の左側を脅威せしむ。

乃ち歩兵第九聯隊長中村中佐は其第一大隊（第二中隊と第四中隊の一小隊欠）を坂本少佐に指揮せしめ、即時出發荒地方向より威力を以て孤家子を搜索し、別に第二大隊の一中隊をして北台子を占領せしむ、第五中隊（一小隊欠）は直ちに北台子に前進し歩兵第一大隊（第二中隊と第四中隊の一小隊欠）及吉利少佐の率ゐる搜索隊亦續きて沈且堡を出發し小台子に前進す、然るに北台子の敵兵我銃砲火を受け潰亂して孤家子方向に退却せし



に依り歩兵第九聯隊第五中隊（一小隊欠）は午後四時同地北端を占領し、歩騎兵の兩搜索隊は同時頃小台子に到着す、此時荒地に敵兵無く同村北方約四百米の森林に敵の歩兵四、五十在るものゝ如きを以て兩搜索隊も暫く小台子に停止して前面の状況を搜索す、騎兵第十三聯隊第三中隊、第二中隊の二一小隊及第四中隊の二一小隊半欠）は同時沈且堡東側に位置し、騎砲兵中隊は我歩兵中隊の北台子に進入するを見、直ちに沈且堡東北端に陣地を變換し四時三十分頃より約三十分間孤家子及周官堡を射撃し歩兵第一大隊（第一第二中隊と第四中隊の二一小隊欠）は五時小台子より第四第三中隊の順序に排列展開して荒地に前進せしめ、少時前歩騎兵の搜索隊既に同村に達し其附近に敵兵の無きが故に、大隊長坂本少佐は歩兵第四中隊の二一小隊をして同地を守備せしめ、其他を以て孤家子附近の敵情を搜索せり、然るに敵兵我前進を見て孤家子東南端に歩兵約百、南端に約三十散開し尋て歩兵約一中隊小韓台より孤家子に侵入し、又兵力未詳の敵兵二台子に在るを知り、歩兵第九聯隊第一大隊（第一第二中隊と第四中隊の二一小隊欠）は騎兵の搜索隊と共に歸還の途に就けり。

支隊長は午後五時三十分敵は大、小韓台方向に退却せしめ、其一部は尙ほ孤家子及周官堡に残留せるものゝ如きを知り諸隊をして宿營に就かしめ、歩兵第五中隊の二一小隊、騎兵第十三聯隊第四中隊の一分隊を北台子に殘置し騎兵第十三聯隊第二中隊（二一小隊欠）を韓山台附近に派遣し内田支隊と連絡せしめ、諸隊は沈且堡附近に宿營す豊邊、河村兩支隊方面は其後情況變化なく共に依然黑溝台及七台子に宿營せり。

韓山台に到り友軍の連絡に任じたる關谷騎兵中隊は午後七時同地より郝家屯に後退して警急合營す。

第四師團は猛烈に交戦中にして彼我の砲聲轟々硝煙天に漲り、其裂光閃々として電光の如く夜尙已ます。

十月十二日 支隊は現在の位置に在りて第四師團に伴なひ動作せんと欲し、午前六時三十五分諸隊をして出發準備を整へしめ、吉利少佐に騎兵第十三第十四聯隊の各一中隊を指揮せしめ韓山台より李大屯、太平庄方向に

前進し、第四師團の内田中佐の率ゐる部隊と連絡せしめ、歩兵第九聯隊の一部隊を東啞叭台に派遣し、吉利少佐の率ゐる部隊を援助し、騎砲兵中隊を沈且堡東北端の陣地に就かしむ、乃ち吉利少佐の率ゐる部隊は韓山台に向ひ出發し、騎兵第十三聯隊（第一中隊、第二中隊の二一小隊欠）は沈且堡中央に集合し、孤家子附近の敵の側背を搜索し、歩兵第九聯隊（第三大隊と第一第二第六中隊欠）は第八中隊の二一小隊を東啞叭台に派遣し、吉利少佐の率ゐる部隊を援助せしめ、又在小樹子の第七中隊をして二一小隊を同村に殘置し、他を原大隊に復し聯隊の殘餘を沈且堡に置けり。

關谷騎兵大尉の指揮せる騎兵第十三聯隊第二中隊（二一小隊欠）は本朝郝家屯より韓山台に進出し前任務を續行し午前十一時二十分沈且堡に歸還す。

支隊前面の敵情は朝來概して靜穩にして、午前十時三十分頃歩兵四、五十周官堡より孤家子に向ひ前進せるを見るのみにして其第一線は二台子、周官堡を経て張庄子に互る線に、主力は大、小韓台附近に在るものゝ如く左翼方面に於ては依然豊邊支隊は黑溝台に、河村支隊は七台子に在りて敵情大なる變化なく、敵の騎幕は土台子東北約一千米の地より土台子北方を経て、黄臘砬子西北四、五百米の森林に互る線に在りて極めて靜穩なり、然るに支隊の右翼なる第四師團左翼の敵兵頑強なるを以て、支隊は主力を以て明十三日早朝李大屯に前進し、第四師團の左側を掩護せんを欲し、午後一時三十分吉利少佐の率ゐる部隊を太平庄方向に前進せしめ、歩兵第九聯隊をし



て第八中隊（一小隊欠）を韓山台に又東啞叭台に在る同中隊の一小隊を李大人屯に前進せしめ、以て支隊今後の運動に便にす。

河村支隊は正午頃既に小北河掩護隊（後備歩兵第二聯隊長伊東中佐の率ゐる後備歩兵第四十六聯隊第二大隊及第九師團の工兵第一中隊）の午前十時三十分小北河出發媽々街に前進し、其歩兵一中隊は三台子に前進して茨檢坨北方を搜索し、他の一中隊を馬園子に前進せしめんとするの状を知り、午後零時三十分三台子に前進するに決し二時各隊を北門外に集合し、騎兵第九聯隊第二中隊の半小隊及歩兵第二中隊の一分隊を七台子に残置して、渡場の監視に任じ、同時四十分三台子に到り直ちに同村の前哨中隊（騎兵第九聯隊第一中隊（一小隊欠）を茨檢坨に前進せしむ、乃ち同中隊は途中敵の騎兵約一中隊茨檢坨の我獨立下土哨に向ひ徒歩戦を開けるを知り、急進して同村北端を占領し、直ちに徒歩戦を以て之を援助す、此時他の敵の騎兵約二中隊茨檢坨西方高地に現出し、馬園子の我小哨を壓迫し、逐次三台子西方に前進するに會し、直ちに三台子村縁を占領せしも、偶馬園子に前進すべし後備歩兵第四十六聯隊の一中隊蕭寨門附近に到着して、此敵を北方に撃退せしに依り、河村中佐は騎兵第十一聯隊第一中隊（一分隊欠）に歩兵第九聯隊第二中隊の一小隊を附し、茨檢坨西方に向ひ敵を追撃せしむ、然るに午後六時頃より茨檢坨附近の敵兵北方に退却せるも、同時頃敵砲二門偏堡子西方高地より茨檢坨を射撃せしに依り、同村の前哨中隊は其南方丘阜に退却し追撃に任せし騎兵中隊も亦茨檢坨西方に停止し、共に前面の敵状を搜索し、日没の頃敵の騎兵約三中隊の偏堡子西方高地に、同一中隊の前馬院峯子に在るを知りたり、是より先河村中佐は午後五時頃後備歩兵第二聯隊長伊東中佐の通報に因り、小北河掩護隊の小北河附近の諸倉庫並に渾河の水

路輸送掩護しして今後其主力を媽々街に置き三台子、馬園子に各歩兵一中隊を派遣して、前面の敵情を搜索せんとするを知り、爾今三台子に到着せる其歩兵中隊と協力して動作せんとするの意圖を通報し、依然三台子にあり秋山支隊長は午後四時二十分に至り、豊邊支隊を依然黑溝台附近に留め河村支隊（歩兵第九聯隊第二中隊騎兵第九聯隊（第三中隊欠）同第十一聯隊（第二中隊欠）をして情況之を許せば一部を黃臘坨子、七台子附近に残置し主力を以て沈且堡を守備せしめ、又在小北河歩兵第九聯隊第六中隊を沈且堡に招致すべき命令を下せり。

此夜支隊の主力は李大人屯、沈且堡附近の間に、豊邊支隊は黑溝台附近に、河村支隊は黃臘坨子、二台子間に宿營す。

秋山支隊長は午後六時第六師團は前浪子街道附近の敵を撃攘し、其追撃隊は南江凌堡に前進し、第四師團前面の敵は火力漸次衰へ、其一部は三家子方向に退却し、我歩兵前進中なるも又信すべき土民の言に依り、大叭拉堡子の敵の歩騎兵二千、砲四門の内歩騎兵一千砲二門此日西方に行動し、長灘には同歩騎兵六、七百依然停止せるを知り明日先づ啞叭台、韓山台を経て李大人屯に前進せんを欲し、午後九時左の部署を爲せり。

- 一、支隊の主力（歩兵第九聯隊（聯隊本部第一第二大隊本部及第三第四第七中隊）騎兵第十三聯隊第二中隊の一小隊、騎砲兵中隊機關砲四門）は明日午前三時迄に沈且堡東南に集合す。
- 二、吉利少佐の率ゐる部隊は支隊の李大人屯到着後復歸す。
- 三、河村支隊及在小北河の歩兵第六中隊は沈且堡を経支隊に追及す。
- 四、其他の諸隊は支隊本隊の運動に伴ひ北進す。



十月十三日 支隊の主力は午前二時出發準備に着手せしも夜來の雷雨尙歇まず、加之暗黒にして咫尺を辨ぜず三時三十分頃に至り始めて集合を終り、歩兵第九聯隊第三中隊の一小隊、工兵第四大隊第一中隊の一小隊を前衛とし、其他を本隊とし四時出發歩、騎、騎砲兵、機關砲の順序に前進し啞叭台、韓山台を経て李大人屯に向ふ、途中泥濘且つ暗夜に電光閃々として視力を妨げ、行進上困難を極む、六時三十分頃韓山台の東方に達し、第二軍命令「支隊は明日爲し得れば主力を以て李大人屯附近を占領し、軍の左側背を掩護すべし」(十二日午後十一時發)を受領し、途中在韓山台歩兵第九聯隊第八中隊をして守備を撤し、原隊に復歸せしめ七時五十分前衛たる歩兵第九聯隊第三中隊の李大人屯に達するや、支隊長は同村東北端を占領せしめ、自餘の諸隊を其西南端附近に開進して第四師團の運動に伴なひ黒林台若くは孟達堡に前進せんと欲し、乃ち敵を求めて攻撃せんを欲し、吉利少佐の率ゐる搜索隊を太平庄に急進せしめ、第四師團左翼隊と連絡し、歩兵部隊は黒林台及富家庄方向の敵情を搜索し支隊主力は暫く李大人屯に在りて搜索の結果を待つ、午前十一時迄の諸報告を綜合すれば敵は三家子、黒林台、富家庄附近を占領せるものと如く、而して其騎兵の金山屯附近に出没するを知り、午後一時より前面の敵を攻撃するに決し十一時左の如く部署せり。

- 一、歩兵部隊は其一部を以て堅固に李大人屯の北端を守備し、主力を以て太平庄以北の内田中佐の率ゐる部隊と協力し、砲撃の結果を待ちて黒林台、富家庄の敵を撃擧す。
- 二、騎砲兵中隊は黒林台附近の敵に對し李大人屯附近に放列を布置す。
- 三、機關砲四門は其一部を以て李大人屯の北端を占領し、其主力は攻撃部隊に跟隨す。

四、吉利少佐の率ゐる搜索隊は支隊の左側に在りて金山屯方向に對し警戒す。則ち歩兵第九聯隊第二大隊(第五第六中隊欠)は第一線と爲り、黒林台に向ひ攻撃準備に着手し又李大人屯の西南端に集合せし騎砲兵中隊は一小隊を李大人屯西南端の陣地に就け午前十一時三十分富家庄の敵の騎兵に向ひ砲撃を開始し之を退却せしむ。

在沈且堡小池支隊(田村少將は午前八時任地に向ひ出發し、午前六時より騎兵第十三聯隊長小池中佐代りて田村少將の率ゐる部隊を指揮す)に屬する歩兵第九聯隊第五中隊は午前二時小台子、北台子、小樹子に前哨を配置し新に警戒に任し、主力は朝來出發準備を整へ小韓台方向の敵情を搜索し、十一時四十分騎兵第四中隊の一小隊を西啞叭台に派遣し前面を監視し、併せて李大人屯附近の支隊の主力と連絡せしむ、當時前面の敵情靜穩なり。豊邊支隊は午前零時三十分秋山支隊長より情況に依り支隊主力の運動に伴なひ北進すべき命令に接し、明十四日柳條口に進進せんとし、依然黒溝台附近に在り當時前面の敵情朝來靜穩なり。

河村支隊は午前六時出發準備を整へ前面の情況を搜索し、敵兵前夜の位置を徹したるものと如く、只斥候の我前面に出没するのみなるを知り、當面の守備を後備歩兵第四十六聯隊第二大隊に委ね、沈且堡に進進せんを欲し騎兵第十一聯隊第三中隊の一小隊を黃臘坨子に、同第九聯隊第一中隊の一小隊を七台子に残置して渡場の監視に任し七時三十分三台子を出發し八時七台子に到り、即時渾河の渡河に着す、騎兵は騎涉し大行李及歩兵中隊は二門橋を以て渡河し十一時之を終り正午牛居に着せり。



零時三十分第八中隊を第一線とし、黒林台に前進し一時四十分同村北端を占領す、又富家庄に向ひし小隊は同村の敵騎五、六十を孟達堡方向に驅逐し之を占領せり。

秋山支隊長は是より先小池支隊に命ずるに河村支隊沈且堡に到着せば後命ある迄其地に停止し、且つ河村中佐に在沈且堡諸隊の指揮を執るべき命令を傳へ、又在小北河の歩兵第九聯隊第六中隊沈且堡に到着せば、速に支隊主力に追及すべき旨を傳達すべきを以てせり、尋て支隊主力第一線の黒林台を占領するや、自餘の諸隊を同地に進め同時に吉利少佐の率ふる搜索隊を金山屯方向に差遣して、小池支隊との連絡に任ぜしめ、午後二時二十分主力は黒林台に達し、同村南端に開進せり、此頃迄敵の砲兵約一中隊邢家台子東方に在りて熾に我を射撃し、萬家園子、三家子には依然其歩兵停止せるも前進の狀なく、第四師團の歩兵第四十八聯隊第一大隊、同第八聯隊第三大隊（第十二中隊欠）の共に小台子に在りて前方の敵と相對し、騎兵第四聯隊（各中隊の一小隊欠）も依然太平庄に停止せるを知り三時小池、豐邊兩支隊に命ずるに情況之を許せば支隊主力の運動に伴なひ前進すべきことを以てせり、此頃敵の騎兵五、六百三家子東北より同村に前進し來るを以て、騎砲兵中隊をして黒林台東端に放列を布き射撃せしむるや、敵は北方に潰走せり、又富家庄の前面に來りし敵騎約一小隊も同村の歩兵第九聯隊第七中隊の一小隊の擊退する所を爲れり、然れども歩兵第九聯隊第二大隊長今屋少佐は我左翼の稍危険なるを慮り、第七中隊（一小隊欠）を黒林臺に富家庄との中間森林に派遣し、支隊の左側を警戒し併せて在富家庄の小隊を援助せしめたり、支隊長は小池支隊をして情況之を許せば支隊主力の運動に伴なひ北進し、且つ河村支隊沈且堡に到着せば更に主力に追及すべき命令を傳達せしむ。

夜の狀況

午後四時三十分敵兵漸次北方に退却せるが如く、第四師團の長浪堡、萬家園子の線に交戦中なるを知り歩兵第九聯隊（第三大隊及第一第二第五第六中隊欠）騎兵第十三聯隊第二中隊の一小隊工兵第四大隊第一中隊の一小隊をして黒林台の東西に互り警戒し、他を宿營せしむ、乃ち歩兵第九聯隊長中村中佐は第八中隊を前哨中隊とし黒林台東北端に置き三家子方向に對し警戒し、且つ特務曹長の率ふる半小隊を三家子に派遣して邢家台子方向を監視せしめ、富家庄に第四中隊の一小隊を分遣し孟達堡方向の警戒に任じ、自餘の諸隊を黒林台に宿營せしむ。吉利少佐の搜索隊は土民の言に依り寶相屯に敵の歩兵約二百騎兵若干ありて日没に至る迄退却せざるを知り韓山台に退き宿營せり。

支隊長は午後五時三十分迄に第四師團は本夜長浪堡、萬家園子に停止すべき豫定にして、其左翼の三時五十分萬家園子を、騎兵第四聯隊の泡子沿を占領せるを知り、又七時頃迄に三家子の敵兵邵家林子に退却し、其騎幕同村南方約二千米の地に於て東西に互り我斥候の進入を許さず、土民の言に依れば邵家林子に歩兵約五百あり、又午後五時四十分敵騎約五十寶相屯に進入し、二台子及荒地に敵兵なく孟達堡、楊樹林子に多少の敵あり、大、小韓台附近及渾河右岸の敵情概して變化なきを知り、明十四日第四師團の運動に伴なひ動作するに決せり。

河村支隊は午後一時三十分牛居を發し三時黒溝台に着せし後老橋、柳條口を経て四時四十分沈且堡に到着し、秋山支隊長の命令に基き在沈且堡の諸隊を指揮し、宿營準備中五時に至り小池支隊は情況之を許せば支隊主力の運動に伴なひ前進すべき命令ありしも、明十四日情況に應じ前進するに決し、此日現在地に宿營せり、然るに六時敵の歩兵約五十孤家子より北台子に前進し、尙ほ後續部隊あるものゝ如しとの報あり、乃ち沈且堡の諸隊は直に

午後三時に於ける沈且堡方面の狀況



警急集合し歩兵第九聯隊第五中隊を以て北端を守備し、騎兵部隊を以て中央空地に徒歩集合し以て來襲に備ふ、一時四十分頃敵の歩兵北台子南端に現はれ、我歩兵三少時射撃を交換し七時頃北方に退却せり、依て諸隊を再び宿營に就かしむ、七時三十分秋山支隊長より支長主力に追及すべき命令に接したるも、日既に没せるを以て明朝出發するに決し、依然沈旦堡に宿營す、而して今朝小北河を出發せし歩兵第九聯隊第六中隊は九時頃沈旦堡に到着し宿營せり、九時五十分豊邊支隊長より明朝柳條口に前進するの通報あり、十時北台子の下土哨敵の歩兵五、六十の攻撃を受け少時抵抗の後沈旦堡に退却せしに依り、歩兵第九聯隊第五中隊は直に守備線に就きしも、其後敵兵退却せるが故に十一時其一小隊を以て再び北台子を占領し、諸隊は戦備を厳にし騎兵は裝鞍して馬匹と共に、歩兵は銃を執り夜を撤せり。

豊邊支隊長は依然黒溝台に在り、敵の斥候前面に出没する外情況概して靜穩にして土民の言に依れば、長灘に敵の歩兵二百騎兵五百、大叭拉堡子に歩騎兵約一千砲二門、四方台に歩騎兵約三百或は一千あるもの、如く午後六時秋山支隊長より勉めて支隊長主力の運動に伴ひ前進すべき命令に接し、明十四日柳條口に向ひ前進するに決せり。十月十四日、支隊長は午前四時命令を下し河村支隊長を招致し、又小池支隊長の編成を解き之に屬する諸隊を豊邊支隊長に合し同支隊長をして其一部を現在地附近に殘置して特に長灘方向を警戒せしめ、主力を率る沈旦堡附近に來り支隊長主力の左側の掩護に任し且つ河村支隊長に代り渾河の各渡場を守備せしむ。

支隊長は依然黒林台に在りて第四師團の戦況に伴ひ動作せんとし、午前七時迄に現在の陣地に就かしむ、乃ち騎砲兵中隊は黒林台北端の陣地に就き歩兵部隊も各戦備を整へ、歩兵第七中隊の一小隊、騎兵第十四聯隊第

一中隊の一小隊は三家子に赴き同村を占領す、支隊長は午前九時五十分第四師團の希望に依り、歩兵第九聯隊第三中隊、騎砲兵一小隊を萬家園子に派遣し黒林台に前進中の河村中佐をして騎兵第十一聯隊（第二中隊と第三中隊の一小隊欠）と共に之を指揮し、同師團左翼隊を援助せしむ。

是より先午前八時三十五分敵の歩兵約一大隊邢家台子方向より三家子に侵入し、又騎兵約一聯隊邢家台子より孟達堡方向に前進せるを知り十時三十分其歩兵の三家子より前進し來るを見騎砲兵中隊（一小隊欠）をして砲撃せしめ、且つ騎兵第九聯隊（第三中隊と第一中隊の一小隊欠）を金山屯方向に派遣し、吉利少佐の率る搜索隊と協力して支隊長主力の左側を掩護せしむ、其後三家子より前進せる敵の歩兵我砲火に依り幾も無く同村に退却せしに依り十一時邢家台子の西南を行進する敵の騎兵五、六中隊を砲撃して北方に敗走せしむ。

河村支隊長は午前六時三十分沈旦堡出發騎兵第十一聯隊第一中隊の一小隊をして小台子、啞叭臺を経て韓山台に向ひ前進せしめ以て左側を警戒し第一中隊（一小隊欠）を前衛とし後高大人屯、韓山台を経て十時頃李大人屯に達せり、此時秋山支隊長より騎兵第十一聯隊（第二中隊と第三中隊の一小隊欠）を率る萬家園子に前進して同村に派遣せる部隊即ち歩兵第九聯隊第三中隊及騎砲兵小隊を併せ指揮し第四師團左翼隊を援助すべき命令を得、十時二十五分李大人屯を發し第一中隊を前衛とし大台を経て萬家園子に急行し、十一時十分同村に到着す、當時歩兵第九聯隊第三中隊は内田中佐の命に依り同隊の右翼に、騎砲兵小隊は萬家園子東南の陣地に在り。

騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊と第三中隊欠）は李大人屯に於て河村中佐の指揮を脱し黒林台に前進中午前十一時十分同村南方に於て秋山支隊長より富家庄、金山屯方向に前進し金山屯附近の吉利少佐の率る搜索隊と協



力し支隊の左側を掩護すべき命令に接し金山屯に急進せり。

小池支隊は午前六時沈且堡に於て出發準備を整へ、概ね前日來の配備に在り、即ち騎兵第三中隊及歩兵第五中隊の一小隊の前哨を北部沈且堡に置き、小台子より沈且堡北端に互る間を、騎兵第二中隊の一小隊を小樹子に派遣し周官堡方向を警戒し、又同一小隊を啞叭台に派遣し敵情を監視し且つ黒林台の支隊主力と連絡し、特に大韓台方向の敵情を搜索す、八時三十分支隊命令を受け依然沈且堡に在りて豊邊支隊の到着を待てり、當時前面の敵兵退却して大韓台に停止し其兵力歩騎兵約一千砲八門なるが如し。

豊邊支隊は柳條口に進せんを欲し午前八時黒溝台東南に集合し、同時歩兵第一中隊騎兵第四中隊の各一小隊を黒溝台に残置し、烟台子及長灘方向を警戒し且つ河村支隊より派遣せる在黄臘坨子の部隊と連絡せしめ、騎兵第四中隊の約一小隊を前衛其他を本隊とし、柳條口に進進し九時四十分同地に達す、此時秋山支隊長の命令に依り舊小池支隊たる騎兵第十三聯隊（第一中隊欠）歩兵第九聯隊第五中隊を沈且堡に置き孤家子方向の敵に對し、小台子より小樹子に互る線を警戒し、且つ吉利少佐の率るる搜索隊及在柳條口の騎兵第十四聯隊と連絡せしめ、舊豊邊支隊を以て長灘及張庄子方向の敵に對し警戒す。

支隊主力は正午敵の歩兵約一聯隊那家台子の東北より三家子に進進し來り、午後零時三十分頃より萬家園子の第四師團左翼隊に對し前進を始めしに因り、騎砲兵をして砲撃せしむるや、敵兵我砲火及左翼隊の射撃に會ひ三家子附近に停止せるもの如く、一時頃同砲兵一中隊三家子東北より黒林台を射撃す、乃ち我騎砲兵中隊（一小隊欠）之に應射し沈黙せしめしも、更に東方に一中隊を増加して射撃を開始し、三時三十分頃に至り歩兵約一大隊

敵兵三家子  
占領

三家子西端より黒林台に向ひ前進し、砲兵約一中隊更に那家台子南方に現出し、其歩兵の前進と共に我騎砲兵中隊（一小隊欠）を射撃す、依て同中隊は巧に該歩兵を射撃して之を拒止し、四時二十分頃三家子に退却せしむ。是より先午後零時二十五分舊河村支隊に屬せし歩兵第九聯隊第二中隊及小北河の守備に任せし同聯隊第六中隊は相共に黒林台に到着し各原大隊に復歸せり。

騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）は午後零時二十分金山屯に著し吉利少佐の搜索隊に合す、同時頃敵の歩兵約一聯隊、騎兵若干大韓台より田水堡に進入し、其監視兵は瓜旦台より孟達堡、楊樹林子南方森林の線に在りて時々我斥候を射撃するに過ぎざりしも、午後三時十五分歩兵約二百寶相屯の南端に散開し、騎兵三、四十、二台子方向より我に迫り後續部隊を有するもの如く四時に至り歩兵約二中隊及騎兵約二百寶相屯より富家庄に向ひ尙ほ二、三十騎金山屯に進進す、是に於て騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）及吉利少佐の率るる搜索隊は協力して先進し來れる敵騎を撃退し後韓山台に後退す。

支隊長は午後五時四十分頃騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）及吉利少佐の率るる搜索隊の韓山台に退却せるを知り六時二十分河村中佐に命ずるに黒林台前面の敵兵漸次其右翼を延伸し李大人屯方向に進進する景況あるが故に今より其聯隊（第二中隊及第三中隊の一小隊欠）及歩兵第九聯隊第三中隊を以て李大人屯に到り支隊の背後を掩護すべきを以てし、且つ騎砲兵一小隊を原隊に復す、然るに午後六時三十分頃敵の騎砲兵約一中隊孟達堡附近より富家庄を射撃し、尋て歩、騎兵約二百富家庄に向ひ前進せるを以て、同村の我歩兵第四中隊の一小隊は李大人屯に退却するや更に李大人屯を砲撃し、歩兵第四中隊の一小隊は少時同村北端に據りしも、堡勢

敵兵金山屯  
の攻撃

敵兵李大人  
屯の占領



なる敵の騎兵俄然小隊の背後に現出せるに依り少時抵抗の後太平庄に向ひ退却し、七時過ぎ李大屯は遂に敵手に歸せり、乃ち午後七時十分諸隊に令して現在の陣地を固守して夜を徹せしめ、吉利少佐の指揮せる搜索隊を平佐少佐の指揮に屬し、在黑林台の諸部隊は歩兵を以て警戒に任じ各陣地を固守せしむ。

河村中佐は午後七時三十分支隊命令に接し、直ちに騎兵第一中隊の一小隊を李大屯に先遣し、萬家園子の歩兵第三中隊を同地に派遣し、騎兵第十一聯隊（第二中隊と第三中隊の一小隊欠）を率ゐる出發し八時五十分太平庄の西方約二百米に達せし時李大屯より退却し來りし歩兵の小隊に會し、同地の既に敵手に歸せるを知り大台に退き同地を守備せり、時に十時三十分なり、又歩兵第三中隊は黑林台に達せし時敵兵既に李大屯に侵入せしに因り原大隊に復歸の命を得同夜午前三時大隊に合せり。

#### 夜の状況

騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊と第三中隊欠）及吉利少佐の率ゐる搜索隊は曩に韓山台に退却せし時敵の李大屯を熾に砲撃せしを見騎兵第九聯隊は郝家屯に到り状況を審みせんとし、午後六時五十分同村に著し李大屯を搜索して同村の既に敵の有る爲りしを知り停止す、是より少時前敵騎二、三十韓山台に襲來す、同村の吉利少佐の率ゐる搜索隊撃ちて之を卻く、八時三十分平佐少佐は吉利少佐の率ゐる搜索隊を指揮すべき命令に接し此夜騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊と第三中隊欠）を以て郝家屯を搜索隊を以て韓山台を占領して宿營せり。支隊長は午後十時頃曩に富家庄より退却せし歩兵第四中隊の一小隊歸還して李大屯の敵手に歸せしを知り、直ちに諸隊を緊急集合し、歩兵第九聯隊長中村中佐に命じ李大屯の敵情を搜索せしめ、明十五日主力を以て攻撃せんとせり、茲に於て歩兵第二中隊の一小隊は李大屯の敵情を搜索し、午前二時頃兵力未詳なるも甚しく優勢

ならざるが如き報告を得諸隊の緊急準備を解き依然黑林台に在りて夜を徹せり、然るに同夜午前二時四十分騎兵第九聯隊長平佐少佐の報告に依り李大屯に進入せし敵は騎兵二百なるを知れり。

小池中佐の率ゐる部隊は依然沈且堡に豊邊大佐の率ゐる諸部隊は柳條口及其附近に在りて張庄子及長灘方向を警戒し、又騎兵第十四聯隊第三中隊の一小隊を以て同第十一聯隊より派遣せる部隊に代り、曩に第九師團後備工兵第一中隊より派遣せる二分隊と協力して黃臘坨子を守備し四方台方向を警戒す、夜に入り豊邊大佐は前面の敵兵漸次退却するものと判断し、舊豊邊支隊の諸隊を以て明日沈且堡に移轉せんませり。

十月十五日 支隊は黎明より李大屯の敵を攻撃せんと欲し午前四時左の部署を爲せり。

- 一、歩兵第九聯隊の一大隊（二中隊）は黎明より李大屯の攻略に努む。
- 二、騎兵第十一聯隊（第二中隊欠）は黎明太平庄方向より李大屯の敵情を搜索し且つ在郝家屯の騎兵第九聯隊と連絡す。
- 三、騎砲兵中隊は李大屯、富家庄に對し放列を布置す。
- 四、機關砲隊の一部及歩兵第九聯隊の一部は砲兵陣地掩護に任ず。
- 五、自餘の諸隊は各陣地に在りて後命を待つ。

歩兵第九聯隊長中村中佐は第一大隊長坂本少佐をして二中隊を以て黎明より李大屯を攻略せしめ、自餘の諸隊を現在の陣地に留め、且つ第二中隊の一小隊を砲兵陣地の掩護に任ず、乃ち坂本少佐は午前五時第三第四中隊を黑林台南側に集合し、同時三十分出發第四第三中隊を併列し太平庄を経て李大屯に前進し、六時十分同村東北



約一千五百米に達せしとき兩中隊を散開し、第四中隊は右翼後に第三中隊は左翼後に各一小隊の援隊を備へ、李大人屯の東北隅を包圍せんとして前進を續行す、七時十分頃敵兵李大人屯東北端の土壁及村端に列なる樹木に據り射撃を開始せしに依り、兩中隊も李大人屯東北端を距る約八百米に停止して應射せり、騎砲兵中隊は午前六時三十分黒林台西南端に掩體を築設し、同時五十分陣地に就き砲撃を開始し先づ富家庄の敵の歩兵を砲撃し、尋て李大人屯に對し七時三十分迄砲撃を繼續し、我歩兵の攻撃を援助せり。

騎兵第十一聯隊(第二中隊)第三中隊の一小隊(一小隊欠)は大台に在りて午前一時第一中隊(一小隊欠)を李大人屯方向に派遣し敵情を搜索せしめ、尋て五時支隊長の命令に接し六時三十分出發七時四十分太平庄に達す。

歩兵第九聯隊第一大隊(第一第二中隊欠)は其後尙ほ停止して李大人屯村端の敵を攻撃せしも、敵の歩兵約二中隊は同村北端及東端の土壁に銃眼を穿ち頑強に抵抗す、八時三十分我騎砲兵中隊は再び同村西北端附近を射撃せりも效力微弱なるが如く、尋て坂本少佐の要求に應じ九時三十分より李大人屯北端及其森林を射撃し、我歩兵も亦之に伴なひ猛烈に攻撃せりも頑強にして容易に退かず。

騎兵第九聯隊(第一中隊の一小隊と第三中隊欠)は午前四時三十分李大人屯の村縁に敵の歩哨線あるを知り、六時四十分吉利少佐の率るる搜索隊をして一部を韓山台に残し、主力を郝家屯に招致し八時三十分到着せり。

豊邊支隊は午前七時東北に砲聲を聞き、主力を以て沈且堡に進せんを欲し、騎兵第十四聯隊第二中隊をして柳條口附近に在りて張庄子、長灘方向に對し支隊の左側を警戒せしめ、自餘の諸隊たる歩兵第九聯隊第一中隊(一小隊欠)騎兵第十四聯隊第三中隊(一小隊欠)及機關砲二門を八時長義套南方に集合し、同時四十分出發沈且堡

に進す。

騎兵第十一聯隊は其後依然太平庄に在りて、午前九時三十分頃敵の歩兵約三百、騎兵約五十李大人屯より退却するの報を得、河村中佐は之を坂本少佐に通報せしも、同少佐は敵の火力依然として衰へず、却つて其左翼を延伸し益々増加の狀あるが故に、退却にあらずして寧ろ増援せるものせり、而して其後敵の歩兵益々加はり現在の兵力を以て撃退すること困難なりしに依り、更に歩兵一中隊の増援を請へり、同時四十分支隊長は豊邊大佐に命令するに前面の情況甚しき危険なくんば、主力を以て韓山台南方に前進し、支隊主力と連絡すべきを以てし、又平佐少佐をして郝家屯に全力を集結して敵に接觸し、太平庄方向より支隊主力と確實に連絡を取らしむ、乃ち平佐少佐は十時十五分頃李大人屯附近の銃聲漸次北方に移るが如きを知り、該村の東方及南方より搜索し、十一時頃同村端に敵の徒歩兵あり、尙ほ金山屯方向より敵騎三十同隊に向ひ前進するを報告せり。

支隊長は午前九時三十分頃中村中佐の意見に基づき、第四師團の左翼隊に交渉する所あり、同隊より歩兵一中隊を坂本少佐に屬し李大人屯攻撃を援助せしむ、乃ち歩兵第三十七聯隊第七中隊は十時三十分萬家園子を出發、第八中隊は後れて出發し午後三時二十分黒林台に著す、尋て騎砲兵中隊は火力の揚からざるを見一小隊を現陣地に殘し其他を以て歩兵第二中隊の一小隊、機關砲二門の掩護に依り黒林台の西南約七百米に陣地を變換し、猛烈に李大人屯を射撃せり、時に十一時なり、既にして同時三十五分同地の敵は射撃を中止し、且つ東北端の敵兵村内に退却せるの狀あるが故に、坂本少佐は斥候を派遣して其動靜を探り、且つ兩中隊を前進せしめ、第一中隊は約二百米前進し、第三中隊は曩に敵の據りし列樹に達したる頃に敵兵再び同村北端及東端に現出し、猛烈に射撃



せしに依り兩中隊とも停止して之に應ぜしも、敵兵土壁の銃眼に據り我火力甚た揚らず、河村中佐は騎兵第三中隊（一小隊欠）をして郝家屯方向に到り騎兵第九聯隊と連絡し、且つ李大屯の敵を南方より脅威せしむ、然るに午前十一時三十分に至り支隊長より李大屯攻撃部隊を指揮すべき命に接せしも、別に處置する所無く單に現部署を以て其攻撃の進捗を待てり、此間我騎砲兵中隊（一小隊欠）は孟達堡附近の敵砲兵約一中隊及富家庄の歩兵約五十の射撃を受け、其勢猛烈なりしに依り黒林台西端の騎砲兵小隊は奮然敵の砲兵に應戦せしか、敵は同小隊に射向を變換す、爲めに同中隊の主力は掩體を構築し、富家庄及李大屯に對し射撃を繼續するに決せり、豊邊支隊は午前九時五十分沈且堡に到着して李大屯敵手に歸し、吉利少佐の率ゐる搜索隊及騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）郝家屯に退却せるを知り、李大屯の敵を背後より攻撃し以て支隊主力との連絡を確實にせんことを欲し、舊小池支隊の諸隊及騎兵第十四聯隊第二中隊を現位置に留め、騎兵第十四聯隊第三第四中隊（各一小隊欠）歩兵第九聯隊第一中隊（一小隊欠）機關砲二門を率ゐる十時四十分沈且堡を出發して、十一時二十分啞叭台に到り同時三十分敵騎約四十寶相屯に前進中にして、孤家子東方森林に敵の監視哨あり、又敵の歩兵約五十、騎兵約十五午前十時三十分金山屯に進入し、今尙ほ同村に在り、又騎兵約二百五十大韓台より寶相屯に進せし報告に接し歩兵第一中隊（一小隊欠）をして金山屯の敵を攻撃せしめ、騎兵第十四聯隊（第一第二中隊欠）を率ゐる歩兵の後方約五百米に繼進せり、當時騎兵第十三聯隊（在沈且堡）及同第十四聯隊第二中隊（在柳條口）方面に在りては情況依然として靜穩なり、

河村中佐の率ゐる部隊は、午後零時三十分内田中佐より増派せし、歩兵第三十七聯隊第七中隊太平庄西北端に達

せしに依り直ちに歩兵第九聯隊第一大隊長坂本少佐の令下に増加す、同少佐は一時過ぎ同中隊の一小隊を豫備隊とし他を左翼に増加す、此時村端の敵兵三中隊餘に増加し、尙ほ後方に若干の部隊あるものゝ如く、我散兵は約三百米を隔て、對峙す、河村中佐は一時五十分支隊長より退却せざるを得ざるに至らば、太平庄方向に赴くべき命令に接し之を坂本少佐に通報せしも、同少佐は晝間の退却を困難なりとし、尙ほ一中隊の増加を得て敵を撃退せんことを望みしに依り、支隊長に請求するに内田中佐の率ゐる支隊より歩兵一中隊を増派せんことを以てし、且つ曩に郝家屯附近の平佐少佐より豊邊支隊と連絡し、南方より李大屯を脅威せんことを通報に接せしが故に、果して同少佐の其動作を開始し得たるならんと豫想し、坂本少佐の意見に同意せり、而して平佐支隊方面に在りては午後零時三十分敵兵依然李大屯を占領せるを知り、能ふべくんば豊邊支隊と連絡して河村支隊の同地の攻撃を容易ならしめんと欲し、豊邊支隊の韓山台到着を待てり、河村中佐は午後二時五十分曩に郝家屯方向に差遣せし騎兵第三中隊（一小隊欠）より郝家屯に騎兵第九聯隊及吉利少佐の部隊あり、豊邊支隊も亦到着する豫定なるが故に其到着を待ちて共に李大屯を脅威せんことを報告あり、三時二十分支隊長の許に差遣せる連絡將校より内田中佐の率ゐる部隊の歩兵一中隊（第三十七聯隊第八中隊）増援として黒林台に到着す、然れども支隊長の意圖は此日必ずしも李大屯の略取を期するに在らず、且つ支隊本隊は日没後小台に移る豫定なりとの通報に接し歩兵一中隊を増派すべきを坂本少佐に通報せしも、同少佐は敵兵増援を得たるものゝ如く、前面のもの一大隊餘に達し、益々頑強に抵抗せるが故に、縦ひ一中隊の増援兵を得るも攻撃の奏功得て期す可からず、寧ろ夜に乗じ太平庄に退却するに如かずとし、之を河村中佐に報告し、且つ新に赴援すべき一中隊を太平庄附近に置き、大隊



日没後の状  
況(攻撃を中  
止して退却)

の退却を收容せしめんことを請ひ、依然敵前に散兵壕を構築して之に據れり、其後敵兵攻勢に轉ぜんとするの状ありしも我射撃の爲遂に果さざりき。

支隊主力は午後三時三十分主力を以て日没後小台附近に退却せんと欲し、歩兵第九聯隊第六中隊の一小隊工兵第四中隊第一中隊の一小隊を前衛、歩兵第九聯隊第六中隊(一小隊欠)を後衛とし、本隊たる歩兵第九聯隊本部及三中隊(第二大隊本部及第七第八中隊)騎砲兵中隊、機關砲四門を前衛に續行せしめ、河村支隊をして三家子若くは李大屯に宿營せしめ、其他の諸隊をして現在地附近に宿營せしむ、是に於て河村中佐は午後四時二十分太平庄に來著せる増援隊たる歩兵第三十七聯隊第八中隊を豫備隊として同村に置き、同時に坂本少佐をして日没後三家子に退却せしむ、是より先四時十分頃李大屯の西南に熾なる銃聲あるを以て、坂本少佐は是れ郝家屯附近の平佐支隊の李大屯の敵に向ひ徒歩戦を爲し我攻撃を援助するものなりと見し、直ちに之に伴ひ猛烈に射撃し攻撃の意圖を示せしも、敵の抵抗尙ほ依然たり、此時河村中佐は歩兵第三十七聯隊第八中隊の一小隊(騎兵第一中隊の一分隊を附す)をして太平庄西端の獨立家屋に位置し富家庄、李大屯に對せしめ同中隊(一小隊欠)を三家子に先遣し村縁に防禦工事を施さしむ、而して坂本少佐は七時二十分日全く没し、敵の認識を避け得るに至りしが故に、第四中隊を退却掩護に任じ、歩兵第三十七聯隊第七中隊より運動を起し、中央に在りし歩兵第九聯隊第三中隊之に續き、靜肅に太平庄に集合し、同第四中隊は最後に運動を始め大隊に合せり、時に八時三十分にして河村中佐も亦尋て歩兵の諸隊を率る九時三十分三家子に到り宿營す、曩に黃臘坨子に殘置せる騎兵第十一聯隊第三中隊の一小隊は此日原隊に復歸せり、又南方より李大屯を脅威せる騎兵第三中隊(一小隊欠)は午後

夜の状況

三時郝家屯に達して敵情を搜索し、平佐支隊より派遣せる脅威隊と協力して、五時三十分李大屯西南約一キロに前進し、同西端の歩兵各一中隊の敵と對戦し、七時頃同地を撤し九時原聯隊に復歸す。

支隊長は午後四時頃第八師團の歩兵第五聯隊第一大隊(大隊長井坂少佐にして、十月八日柳樹屯に上陸し、十一日汽車輸送を以て遼陽に著し、十四日正午河公堡に於て總司令官より後備歩兵の到着を待ちて之に守備を譲り、東烟台に急行すべき命を受け、第二中隊を河公堡に殘置して、此日午前七時三十分出發し、東烟台に急行中道を誤り正午大東山堡に到着し、尋て太平庄に前進せるもの)太平庄に到着せるを知り、又同時四十五分第四師團より第二軍前面の敵兵漸次敗退す、縦ひ我左側背に優勢なる敵の進入するも、前面の敵兵敗退せば情況に應じ、該敵の背後に突出すべきが故に勉めて其附近に於て敵を防止するを望む旨の通報に接せり、然れども別に處置する所無く六時三十分騎砲兵中隊陣地を撤して、黒林台に歸還せしに依り、主力を率る七時三十分黒林台を發し八時三十分より九時の間に小台附近に退却し、歩兵第九聯隊第二大隊本部及第六第七中隊を第一線とし、堅固に陣地を構成せしめ自餘の諸隊を以て小台に宿營す、八時第二軍命令に依り騎兵第三聯隊(第三中隊欠)同第六聯隊(第一中隊(一小隊欠))と第二第三中隊の各一小隊欠)を支隊に屬せられ九時騎兵第六聯隊(一中隊と一小隊欠)は大台に到着せしに因り同村に宿營せしむ。

是より先午後二時二十分平佐支隊は豐邊支隊の午前十一時沈且堡に到着し、支隊主力との連絡困難なるが故に、吉利少佐の率る搜索隊を應援せんとして、少時金山屯に前進せしも、任務上沈且堡に歸還せんとするを知りしが、尙ほ韓山台に停止するを知れり、次いで四時二十分騎兵第九聯隊第二中隊及同第十三聯隊第一中隊(一小隊

騎兵第九聯隊の行動



欠)を森田大尉に指揮せしめ、徒歩戦を以て李大屯の敵に對し南方より脅威せしむ、乃ち同脅威隊は騎兵第十聯隊第三中隊(一小隊欠)と合し五時三十分李大屯西南約一公里に達せしとき、敵の騎兵約一中隊同村西端より我を射撃せしが故に之に應射せしも、敵の兵力歩騎兵各一中隊なるが如く、依然頑強に抵抗せるに依り七時頃退却して郝家屯に到れり、此間豊邊支隊より此夜韓山台に停止せんとするの通報あり、而して前面の敵の歩騎兵約三中隊午後五時十分寶相屯より富家庄方向に、同時歩兵一中隊李大屯より富家庄方向に行進す、此夜該支隊は騎兵第九聯隊第一第二中隊の各一小隊を以て郝家屯北端を守備し他を同村に宿營せしむ、

曩に黃臘坨子に残置せし騎兵第九聯隊第一中隊の一小隊は午後三時三十分聯隊に復歸せり、  
 豊邊支隊は午後零時三十分金山屯の敵の騎兵約一中隊を寶相屯方向に擊退し、同村を占領し暫く停止して、吉利少佐の率ゐる搜索隊の來著を待ち、寶相屯方向に前進せんとせしも、一時三十分同少佐より騎兵第九聯隊に合し郝家屯に在りて敵と接觸を保ち、支隊主力と連絡すべき任務を有すとの通報に接し、尙ほ支隊長秋山少將より其主力を以て韓山台方向に進出すべき命令を受領し、寶相屯の攻撃を止め二時諸隊を率ゐる金山屯を出發し、三時二十分韓山台に到り、明朝支隊主力と協力して李大屯を攻撃するに決し、七時三十分命令を下し沈且堡の諸隊をして依然其任務を繼續せしめ、沈且堡の前面に於ける敵の活動を顧慮し、柳條口の騎兵第十四聯隊第二中隊を同村に残置し、又後備歩兵第二聯隊第二中隊の半小隊黃臘坨子に到着せしが故に、同村渡場監視隊たる騎兵第十四聯隊第三中隊の一小隊をして明朝出發本隊に追及せしむることとし、此夜韓山台に宿營す。

沈且堡方面に於ては午後三時頃敵の騎兵約一中隊北台子に向ひ前進し、同村の我歩騎兵各一小隊は其約三百米迄

近接するを待ち急射撃して孤家子方向に擊退す、五時三十分北台子及沈且堡北端の前哨線俄然小韓台附近より敵の砲火を受けたるを以て沈且堡の中央に警急集合す、同時三十五分敵の騎兵約一中隊大韓台より小韓台を経て孤家子に前進し、同村東南に停止し後續せる騎兵約五中隊は五時小韓台東端を通過し、又敵砲約六門同時二十分小韓台東南端より北台子を射撃せるも幾もなく、騎兵約一中隊を孤家子附近に残置し、他は田水堡方向に退却せり又孤家子方面の敵の前進と共に、騎兵約一中隊周官堡より小樹子に前進せしも、同村の小哨之を擊退せり、其後情況靜穩を爲りしを以て宿營に就けり。

歩兵第五聯隊第一大隊長井坂少佐は、大東山堡に於て在河公堡の第二中隊より、午前九時三十分在狼洞溝の長谷川騎兵少佐より、秋山支隊は黒林台方面に於て、歩兵約二大隊、砲兵約二中隊の敵と交戦中にして前夜李大屯の敵手に歸し苦戦中なるも、第四師團の左翼遠く前進せるが故に、速に來援せんことを希望し來れる旨を報じ、命を請ふ所あり、乃ち同少佐は獨斷を以て該支隊を援助せんことを欲し、第二中隊に命じ後備隊と交代の後速に追及し且つ在東烟台總司令部に此情況を報告して、爾後の命令を受けしめ、午後一時大東山堡出發李大屯に向ひ前進し三時太平庄に到着し、秋山支隊の現況を知り李大屯附近の敵情搜索中四時秋山支隊長より、支隊の主力今夜太平庄附近に移り機を見て李大屯の敵を攻撃せんとするの通報を受け、情況甚だしく憂慮すべきに非ざるを察し、四時三十分出發八時大東山堡に歸還せり。

十月十六日 支隊は吉利少佐の率ゐる搜索隊の編成を解き、第四師團左翼隊より來りし増援隊を復歸せしめ、午前四時左の部署を爲せり。



一、支隊主力〔歩兵第九聯隊本部、第二中隊及第二大隊（第五中隊欠）騎兵第六聯隊（第一中隊（一小隊欠）及第二三中隊の各一小隊欠）騎砲兵中隊、機關砲三門、工兵第四大隊第一中隊の一小隊〕は大台、小台、太平庄に位置し堅固に陣地を守備す。

二、河村支隊〔歩兵第九聯隊第一大隊（第一第二中隊欠）騎兵第十一聯隊（第二中隊欠）機關砲一門〕は三家子附近に在りて堅固に陣地を占領し支隊の左側を掩護す。

三、豊邊支隊〔歩兵第九聯隊第一中隊、騎兵第三聯隊（第三中隊欠）同第十四聯隊、機關砲二門〕は郝家屯附近に轉進し李大屯附近の敵に對し堅固に陣地を守備す。

四、騎兵第九聯隊（第三中隊欠）は韓山台附近に位置し小池、豊邊兩支隊の連絡を保持し、且前面の敵情を搜索す。

五、小池支隊（歩兵第九聯隊第五中隊及騎兵第十三聯隊）は沈且堡附近に在りて北方に對し警戒す。

歩兵第九聯隊長中村中佐は第二大隊（第五第八中隊欠）を以て西部小台を、第二中隊を以て太平庄を守備して防禦工事を施し、且隣接部隊との連絡を保持せしめ、第八中隊及工兵第一中隊の一小隊を豫備隊として東部小台に置き、騎砲兵中隊は朝來小台東端の陣地に就き、騎兵第六聯隊は第二中隊（二小隊欠）を拂曉より黒林台方向に派遣し同村附近及孟達堡方向の敵情を搜索せり。

河村支隊は午前七時五十分歩兵第九聯隊第三第四中隊をして三家子に村落防禦を施さしめ、騎兵第十一聯隊第一中隊（一小隊欠）をして太平庄西南獨立家屋に到り、歩兵第三十七聯隊第八中隊の一小隊に代り富家庄、李大屯

屯方向に對し警戒せしめ、十時四十分秋山支隊長の命に依り支隊の編成を解き、其歩兵部隊及機關砲一門を豊邊支隊に増派し其指揮下に入らしめ、騎兵第十一聯隊（第二中隊欠）を依然三家子に置き富家庄方向の敵情搜索に任せしむ。

豊邊支隊李  
大人屯奪還

豊邊支隊は李大屯を攻撃せんを欲し、午前五時韓山台東方に集合す。此時李大屯の敵兵一部を殘置し、大部は寶相屯方向に退却せるものゝ如きを知り、歩兵第一中隊（一小隊欠）をして李大屯南方約一千五百米に散開し散兵壕を構築せしめ、騎兵第四中隊（一小隊欠）及機關砲二門を歩兵部隊の右翼後に置き右側背を、同第三中隊（一小隊欠）を歩兵部隊の左翼後に置き左側背を警戒せしめ、騎兵兩中隊より斥候を李大屯に派遣し該村を搜索せしめ、諸隊は午前六時十五分迄に配置を畢り天明を待てり、是より先秋山少將より郝家屯に移るべき命令を受領せしめ、企圖せる決心を變更せず、斥候は午前六時二十分李大屯東南端に近づき敵火を受けて退却し、七時頃同村の敵兵我歩兵第一中隊に向ひ熾に射撃す、我亦之に猛射を加ふるや幾くも無く寶相屯に向ひ退却を始めたり、依て八時十五分機關砲二門をして歩兵部隊の左翼に陣地を變換し退却する敵を掃射せしめ、騎兵第四中隊（一小隊欠）を李大屯に進ませしむ、乃ち該中隊は同時四十分同村に入り支隊之に續きて九時二十分を略取せり、敵は歩兵一中隊にして悉く寶相屯方向に退却し、尋て若干の歩騎兵同村に停止せしめ、其大部は北方に移動せしものゝ如く土民の言に依れば孟達堡に敵の砲兵あり。

騎兵第三聯隊（第三中隊欠）は午前八時三十分孟葫蘆屯を出發し、揚家灣を経て黒林台に前進中小台に於て秋山支隊長の命に依り正午李大屯に到達し豊邊大佐の指揮下に入れり。



午後に於ける黒林臺に對する敵の攻撃

騎兵第九聯隊（第三中隊欠）は依然郝家屯に在りて李大人屯に對し警戒し、午前十時四十五分秋山支隊長の命令を受領し、十一時韓山台に向ひ出發し、正午同村に到着して金山屯に對し警戒す、此時寶相屯に敵騎三百、二台子に二百餘、金山屯に四、五十あり。

支隊主力方面に在りては午後二時十分内田中佐より午後一時二十五分敵の強大なる散兵邢家台子以東の線より萬家園子方向に前進し、其後方に密集部隊あり、又三家子より東南に向ひ同散兵前進すとの通報に接す、尙ほ三時在黑林台の騎兵第六聯隊第二中隊（二小隊欠）は敵の壓迫を受け其一部を残し大台に退却し、同時四十分邢家台子より南進せる敵の兵力は歩兵一聯隊餘にして萬家園子の前面に對し猛烈に攻撃し、其一部三家子西南端より黒林台に向ひ同時歩兵約二中隊三家子より大台に向ひ共に散開して前進し、四時十分他の歩兵約一大隊白雲庄附近より黒林台に前進し、同地北方約三千米に在り、又歩兵約二中隊黒林台南方に現はれ更に大台方向に轉進せり、乃ち諸隊をして戦備を整へ陣地に就き時機を待たしむ、同時三十分歩兵約一聯隊孟達堡より黒林台に向ひ前進中にして孟達堡の騎兵一聯隊は依然停止すこの情報に接す、支隊主力は依然小台に在りて之れが近接を待ちしも、大台の騎兵第六聯隊（各中隊の一小隊欠）並に同第四聯隊（各中隊の一小隊欠）の猛射に依り、黒林台東側を経て孟達堡方向に退却せり、尙ほ新に敵の歩兵約二中隊東北より黒林台南端に達せしも再び同方向に退却せり、依て支隊長は午後六時三十分命令を下し諸隊をして現在地附近を守備し、明日黎明より前面の敵情を搜索せんとせり。騎兵第十一聯隊（第二中隊欠）は午後二時三十分第一中隊の一小隊を太平庄に留め黒林台に對し警戒し、且つ李大人屯の豐邊支隊と連絡せしめ、他は三家子に停止せしが、午後七時頃第一中隊の一小隊を此地に残し、青堆

小池支隊の状況

子に到り宿營す

豐邊支隊は其後情況變化無く午後二時五十分騎兵第十四聯隊第三中隊を富家庄に派遣し、日没迄同村附近に位置せしめ寶相屯方向を警戒す、六時秋山少將より宿營並に明日の行動に關する命令に接し李大人屯に宿營し、支隊主力の左側を掩護し特に寶相屯方向を警戒す、平佐支隊も前面の情況其後變化なきを以て午後四時韓山台に宿營せり。

小池支隊は午後零時三十分豐邊支隊の李大人屯を略取せしを知り一時三十分吉利少佐第一中隊を率る原聯隊に復歸す、同時秋山少將より其支隊（歩兵第九聯隊第五中隊及騎兵第十三聯隊）は沈且堡附近に位置し、依然支隊主力の左側を掩護すべき命令を受領し、二時頃更に敵兵或は全部の退却を始めしやの感あるに依り、騎兵の主力若くは一部を以て前面を搜索すべき命令あり、是に於て小池中佐は第三中隊（二小隊欠）を柳條口附近に差遣し騎兵第十四聯隊第二中隊と交代し長義套に宿營し支隊の左側を警戒せしめ、第一中隊の約一小隊を小樹子に派遣し第三中隊の一小隊に代り同方面の警戒に任し、尙ほ下士兵候を啞叭台に派遣し、第三中隊の一小隊に代り在韓山台騎兵第九聯隊との連絡を保持せしむ、乃ち第三中隊の二小隊は長義套に至り中隊に合せり、又機關砲二門は午後四時三十分、歩兵第九聯隊第一中隊は六時秋山少將の命に依り沈且堡に到着し小池支隊に屬す、乃ち小池中佐は之を豫備隊とし戦備を嚴にして宿營に就かしむ。

滿州軍に左の 勅語を賜はりたり（十月十六日）

我滿洲軍ハ敵軍新銳ノ増援兵を得テ大舉攻撃シ來ルニ對シ機先ヲ制シテ逆襲シ激戰數日多大ノ損害を與ヘ達